

平成16年度

参画と協働関連施策の年次報告  
(素案)

平成17年8月

兵 庫 県



## 目 次

1 .平成 16 年度の参画と協働の実施状況	1
( 1 )はじめに	1
( 2 )参画と協働が地域で展開し始めた平成 16 年度	2
( 3 )参画と協働の実施状況の概観	4
( 4 )参画と協働の定着をめざして	10
2 . 主な参画と協働施策の実施状況	12
( 1 )主な参画と協働施策の選択にあたって	12
( 2 )地域づくり活動への支援に関する施策( 20 施策 )	1-1
新たな活動を生み、育む	1-1
地域づくり活動登録制度の運用	
兵庫県立大学 生涯学習交流センターの設置(新)	
思春期ピアカウンセリング事業	
まちの子育てひろば事業の推進	
県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業の実施 ~ オープンスクールの推進 ~	
活動を高め、支える	6-1
防災協働社会を担う人材の育成(新)	
コミュニティサポート支援事業(新)	
北はりま田園空間博物館交流推進事業の支援	
県民交流広場事業(仮称)の推進(新)	
活動をつなぎ、広げる	10-1
地域づくり活動応援(パワーアップ)事業	
「子育て応援ネット(地域子育てネットワーク事業)」(新)	
ひょうご美しいむらづくり推進事業(新)	
阪神・淡路大震災 10 周年記念事業の推進(新)	
六甲山自然保護センターの機能強化(六甲山活性化の推進)	
地域環境力の向上による廃棄物不適正処理未然防止対策の推進	
いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクトの推進	
コウノトリと共生する地域づくりの推進	
あわじ菜の花エコプロジェクトの推進	
ひょうごボランタリープラザの運営	
・ ひょうごボランタリー基金、阪神・淡路大震災復興基金による助成	
・ NPO 大学事業の実施	

- ・ NPO と行政の協働会議の開催
  - ・ ひょうごボランティア活動メッセ
- 県民行動プログラムに基づく活動の促進

(3) 県行政への参画と協働を推進する施策(10 施策).....	21-1
県民と情報を共有する.....	21-1
県民参画による広報の展開(新)	
県民と知恵を出し合う.....	22-1
県民意見提出手続(パブリック・コメント手続)の充実	
附属機関等の委員の公募に関する指針の運用	
御前浜水環境の再生(新)	
県民と力を合わせる.....	25-1
地域ぐるみ安全対策事業(新)	
のじぎく兵庫国体募金(愛称:はばタン募金)の実施(新)	
県民とのパートナーシップによる維持管理	
被災地修景緑化支援事業(新)	
西播磨「水と緑の郷づくり」構想の推進	
NPO との協働による地域課題解決に向けた取り組み(新)	

(とりまとめ中)

3 . 参画と協働関連施策の実施状況.....	31-1
(1) 地域づくり活動への支援に関する施策.....	
新たな活動を生み、育む.....	
活動を高め、支える.....	
活動をつなぎ、広げる.....	
(2) 県行政への参画と協働を推進する施策.....	
県民と情報を共有する.....	
県民と知恵を出し合う.....	
県民と力を合わせる.....	
(3) 参画と協働の総合的な推進に向けての施策.....	

(省略)

4 . 参考資料.....	
(1) 県民の参画と協働の推進に関する条例.....	
(2) 地域づくり活動支援指針、県行政参画・協働推進計画の構成.....	
(3) 参画と協働のチャンネルと組み合わせについて.....	

## 1 . 平成 16 年度の参画と協働の実施状況

### (1)はじめに

「参画と協働」は、21世紀兵庫づくりの羅針盤となる「21世紀兵庫長期ビジョン（平成13年2月策定）」を実現するため、また県民主役の県政を推進するための基本姿勢です。

兵庫県では、この「参画と協働」の理念などを明らかにするため、「県民の参画と協働の推進に関する条例（以下「条例」という。）」を、平成15年4月1日に施行しました。（4.参考資料参照）

### 《年次報告の役割》

その第11条で、参画と協働の推進に関する施策の実施状況を、県民に知っていただくため、「年次報告」を作成することとしています。この年次報告は、参画と協働の推進に関する施策の実施状況を明らかにすることにより、さまざまな活動主体が考え方を共有しながら、さらなる参画と協働を推進するために活用していただけることを期待するものです。

平成16年度の年次報告は、平成15年度に続く2回目となるものです。

### 【参考】条例で明らかにした「参画と協働」の2つの場面

条例では参画と協働には、「県民と県民のパートナーシップ（地域社会の共同利益の実現への参画と協働）」と「県民と県行政のパートナーシップ（県行政の推進への参画と協働）」という2つの場面があります。これらの場面は相互に連携しながら展開することが重要です。

県民と県民のパートナーシップ  
- 地域社会の共同利益の実現への参画と協働 -

県民の皆さんが力を合わせて住みやすい地域づくりのために取り組む「地域づくり活動（子育てや高齢者の支援、緑化活動や交流行事など）」の展開

（県民が県外で行う活動、県外の人  
が県内で行う活動も含む）



「地域づくり活動支援指針」

県民と県行政のパートナーシップ  
- 県行政の推進への参画と協働 -

県政情報の共有はもちろん、政策の企画立案、実施、評価・検証の各段階で、県民の皆さんからの積極的な参画と協働を得ながら、県民生活中心の県民とともに歩む県行政の推進



「県行政参画・協働推進計画」

(2) 参画と協働が地域で展開し始めた平成 16 年度

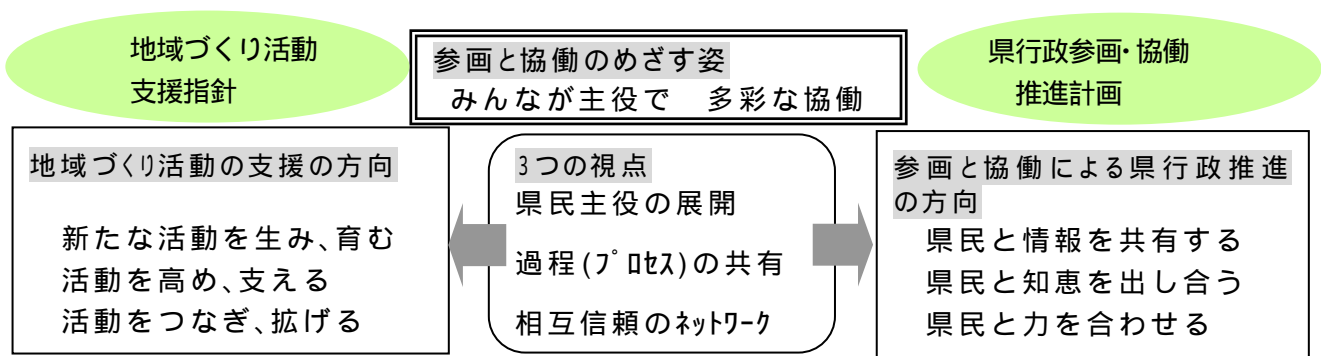
平成 16 年度は、条例施行後 2 年目を迎え、参画と協働を地域で展開・浸透させるための施策に本格的に取り組み始めた年度です。

《支援指針・推進計画に基づく施策の展開》

条例の理念を具体化するため平成 15 年度に策定した、「地域づくり活動支援指針（以下「支援指針」という。）」及び「県行政参画・協働推進計画（以下「推進計画」という。）」に基づき、各般の施策・事業を展開しました。

【参考】「支援指針・推進計画」のポイント

地域づくり活動支援指針	県民の主体的な地域づくり活動を県として支援するための基本的な考え方や展開方向を定めるもの
県行政参画・協働推進計画	参画と協働による県行政を推進するための基本的な考え方や展開方向を定めるもの



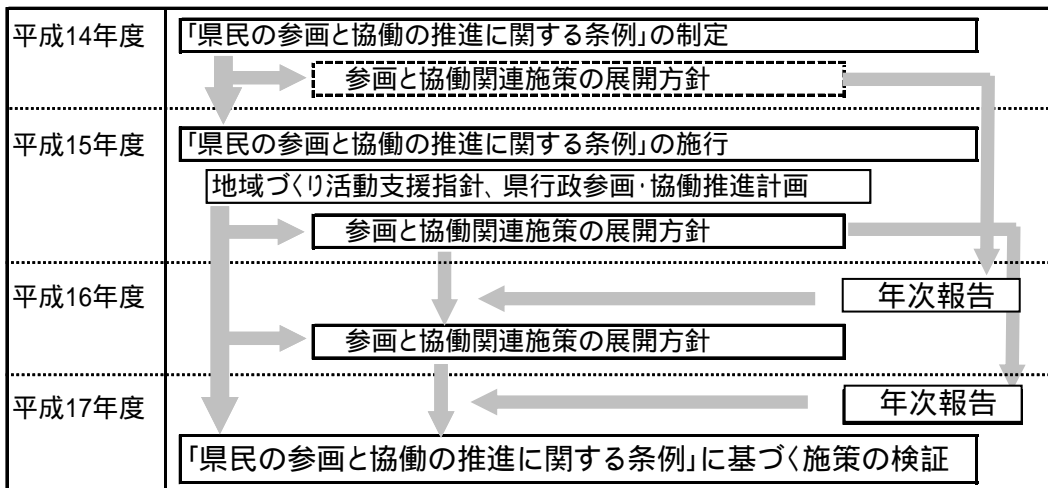
《具体的な施策・事業の展開》

具体的には、「参画と協働関連施策の展開方針（以下「展開方針」という。）」をとりまとめ、新規 97 施策を含め、376 にも及ぶ施策・事業の実施に取り組みました。（「3. 参画と協働関連施策の実施状況」参照）

特に、地域社会の「元気と安心」を確かなものにするため、全県共通の地域課題 - 地域ぐるみの子育て、防犯活動、活動拠点の確保 - について、多様な県民ニーズに的確かつ柔軟に対応した支援を行うため、モデル的な取組も含めた「地域協働事業」や、地域の実情に応じた様々な取り組み、「参画と協働」による地域づくり活動の浸透・定着をめざしました。

これら以外の施策・事業についても、参画と協働の観点から、広報のあり方や市町、多様な主体との連携の強化など、その進め方の工夫に努めました。こうしたことと合わせて、参画と協働の施策を担う職員の意識改革を促しました。

【条例制定から検証までの流れ】



《年次報告の構成》

平成16年度の年次報告は、参画と協働を地域で展開・浸透させるための施策を実施した年度の施策の実施状況をまとめたものです。

まず、平成16年度に取り組んだ参画と協働の取り組みを概観的に明らかにした上で、「展開方針」に記載した376施策・事業の実施状況を示しています。

具体的な実施状況については、まず、30の主な参画と協働の施策をとりあげて、詳しく記述し、続いて、376すべての施策・事業を一覧表で整理しました。

構 成	主 な 内 容
1. 平成16年度の参画と協働の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年次報告のねらい</li> <li>・実施状況の概観</li> <li>・今後の主な取り組み方向</li> </ul>
2. 主な参画と協働施策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30の主な参画と協働施策の実施状況</li> <li>地域づくり活動の支援</li> <li>県行政への参画と協働</li> </ul>
3. 参画と協働関連施策の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・376のすべての施策・事業の整理</li> </ul>

(3) 参画と協働の実施状況の概観  
地域づくり活動の支援

実施状況 (「3. 参画と協働関連施策の実施状況」参照)

県民の主体的な取り組みである地域づくり活動を支援するため、利用者の視点に立った活動情報や学習機会の提供、活動を支える人材、場所、資金の確保をはじめ、地域特性を生かした活動の支援など、合計 189 施策を展開してきました。

展開方針の体系		施策数	
			新規
地域づくり活動の支援に関する施策		189	51
新たな活動を生み、育む	多様な情報の提供	22	5
	実践活動につながる学習機会の充実	36	11
	多様な世代の参画・協働の促進	12	6
活動を高め、支える	地域に根ざした人材づくりの支援	22	4
	県民の主体的な活動拠点の充実	7	1
	活動に必要な財政的基盤の充実の支援	5	1
活動をつなぎ、拡げる	情報のネットワーク化の支援	4	1
	地域固有の取り組みの支援	70	20
	中間支援組織の支援	4	1
	総合的な支援拠点機能の充実	5	0
	評価のしくみづくり	2	1

《主な新規施策》

- ・ 県民交流広場事業（仮称）の推進（県民政策部）
- ・ 『子育て応援ネット』（地域子育てネットワーク事業）（県民政策部）
- ・ 兵庫県立大学生涯学習交流センターの設置（企画管理部）
- ・ 防災協働社会を担う人材の育成（企画管理部）
- ・ ひょうご美しいむらづくり推進事業（農林水産部）
- ・ 阪神・淡路大震災 10 周年記念事業の推進（総括部（企画管理部））
- ・ 県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業の実施（教育委員会）



**主なポイント**(例示した施策の詳細は、「2. 参画と協働を代表する施策の実施状況」参照)

### 【地域づくり活動の総合的な支援体制の強化】

地域づくり活動を総合的に視点するため、地域団体、ボランティア・グループ・団体、NPO/NGO、事業者、市町など、多様な主体との連携強化を図りながら、全県的及び各地域(県民局)での支援拠点機能の拡充に取り組みました。

(例えば)

ボランティア活動を総合的に支援する「ひょうごボランティアプラザ」がより県民の視点に立った活動が実施できるよう、ボランティアプラザ運営協議会やNPOと行政の協働会議をはじめ多様なしくみを運用しました。また、台風23号への取り組みや市町でのボランティア活動推進方策をテーマとした関係機関との共同研究を通じて、市町ボランティアセンターをはじめ多様な主体とのネットワークの強化に努めました。

関係者との意見交換を行いながら制度設計を行った、地域づくり活動のPRとネットワークづくりをめざす「地域づくり活動登録制度」をさらに利用効果の高いシステムとするため、登録団体に対する活動支援情報、県政ニュース等のメールマガジンの本格実施に取り組みました。

各県民局において、県民に身近なアドバイザー、グループ・団体等の多様な「民」のつなぎ役、各種推進員の連携役として、地域づくり活動を総合的に支援する「地域づくり活動サポーター」の設置にあたっては、地域の中間支援組織に委託して、地域の実情に応じた活動ができるようなしくみとしました。



### 【検証過程を組み込んだ施策の実施】

参画と協働は新しい考え方であり、県民の主体的な取り組みである地域づくり活動の支援において、地域特性に応じた柔軟な実施方法の検討が必要です。このため、多様な県民や団体、市町などの利用者や関係者との協議を重るとともに、検証、見直し過程を組み込み、ノウハウの蓄積に努めながら、より効果的な施策が展開できるように工夫しました。

地域づくり活動の支援にあたっては、昨年に引き続き、県民から活動の提案を募集するなど、県民の主体性を尊重することを基本とし、支援先の決定にあたっては、公開の場での提案発表を行うなど、開かれた取り組みに努めました。

(例えば)

県民の主体的な提案のもと、身近な活動の場の整備や地域づくり活動のきっかけや基盤づくりを支援し、コミュニティの再生・構築をめざす「県民交流広場事業(仮称)の推進」では、県民局ごとのワークショップや市町意見交換会での意見集約しながら、モデル事業を実施しました。これらの検証・評価を行い、地域の実情に柔軟に対応できる事業のしくみを検討します。

地域団体の主体的な提案を募集し、支援先を決定する「地域づくり活動応援(パワーアップ)事業」では、平成15年度の実施状況を検証し、広域自治体である県としての役割を考慮して、市町を越える地域団体の連合組織や、市町を越える取り組みを対象に、新たに「広域活動枠」を設けました。

### 【活動を担う人材やリーダー等の募集・研修】

地域づくり活動の拡がりに向けて、地域で多彩な活動を担う人材やリーダーが必要です。このため、人材やリーダー等を広く公募するとともに、研修会を開催するなど、リーダー等が力をつけるための取り組みを行いました。

(例えば)

自主防災組織のリーダーなど地域の防災の担い手が、防災に関する体系的・実戦的な知識・技術を習得することをめざす「防災協働社会を担う人材の育成」では、関係機関、専門家と連携しながら、多彩な講座を実施しました。

また、兵庫県立大学の専門的教育資源を生かして、県民の多様な生涯学習ニーズに応えるため、「生涯学習交流センター」を設置し、地域づくり活動を担う人材の育成に努めました。

## 【多様な主体のネットワークによる活動支援】

地域づくり活動は、県民の主体的な取り組みであり、地域での展開が基本となるものです。このため、地域団体、ボランティア・グループ・団体、NPO/NGO、事業者、市町など、多様な主体の出会いの場やネットワークづくりに力点を置いた取り組みに努めました。特に、これまで以上に、地域社会との連携を強化するため、県民局の現地解決型機能の強化を図るなかで、地域特性を生かして、柔軟かつ機動的にさまざまな活動支援を展開してきました。

(例えば)

地域ビジョンの実現に向けて、県民の主体的な取り組みとして策定した「県民行動プログラムに基づく活動の促進」については、各県民局において、第2期の地域ビジョン委員会の活動の仕上げに向けて、県の施策とも連携しながら、各種情報や議論の場の提供、関係者との連携方策の助言などの支援に取り組みました。

地域住民や団体がネットワークを組み、子育て家庭応援活動を展開する「『子育て応援ネット』(地域子育てネットワーク事業)」では、兵庫県地域女性団体ネットワーク会議を中心に、関係機関が連携し、地域できめ細かな事業展開ができるような体制を構築しました。

地域住民が主体となり地域固有の美しい景観や伝統的な文化等を活用した愛着と誇りを持った活力ある農産漁村づくりをめざす「ひょうご美しいむらづくり推進事業」では、集落ヘアドバーザーを派遣し、各集落の状況に応じた助言・活動を展開しました。

学校、家庭、地域社会の連携のもと実施する「県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業」では、普段の学校の教育活動を保護者や地域住民に公開する「オープンスクール」に取り組みました。実施に先立ち、教職員と地域住民、保護者が実施内容、役割分担等について話し合う機会を持ち、受入準備を進めました。



## 県行政への参画と協働

**実施状況**（「3. 参画と協働関連施策の実施状況」参照）

県民の積極的な参画と協働による県行政を推進するため、すべての基本となる、県民との情報共有に積極的に取り組むとともに、県民からの意見・提案を受け、県政に反映させるしくみづくりや、多様な協働事業など、合計 187 施策を展開してきました。

展開方針の体系		施策数	
			新規
県行政への参画と協働を推進する施策		92	38
県民と情報を共有する	選択できる情報の提供	17	7
	評価・検証への県民参画の推進	12	1
県民と知恵を出し合う	県民提案の機会の充実	19	3
	審議会等への参画機会の拡充	12	1
県民と力を合わせる	協働で実施する事業の拡充	98	25
	多様な委託のしくみづくり	3	2
	推進員らの職務の円滑化	7	1
総合的な推進	参画と協働の総合的な推進	13	4
	職員意識の醸成	6	2

### 《主な新規施策》

- ・ 地域ぐるみ安全対策事業（県民政策部）
- ・ のじぎく兵庫国体募金の実施（企画管理部）
- ・ 被災地修景緑化事業（県土整備部）

**主なポイント**（例示した施策の詳細は、「2. 参画と協働を代表する施策の実施状況」参照）

### 【県民の視点に立った広報活動や提案を受けるしくみの拡充】

県民と県行政との対等なパートナーシップを構築するため、県民本位の分かりやすく、きめ細かな情報の提供・発信を徹底しました。また、対話に基づく相互信頼を築き上げるため、幅広く県民と意見交換する機会の確保に努めました。

（例えば）

県民の視点にたった「広報戦略の体制づくり」に取り組み、広報事項のアピール方策や内容の企画・校正などについて有識者の助言を得て、広報活動を展開するとともに、県職員に対する広報研修を実施しました。また、「県民参画による広報の展開」では、公募による県民の方の参画を得て、広報紙面の企画・検討や、広報モニターとして広報活動を評価していただきました。

電子メールを使って意見・提案を行う「さわやか提案箱」、知事や県民局幹部等が、直接、県民と幅広く意見交換する「さわやか対話室・フォーラム・トーク・県民局」など、県行政を身近に感じていただける活動に、地域特性を生かした課題を選定するなど、県民の関心を高めるテーマ選定を行うなどの工夫しながら取り組みました。

### 【県民が政策形成に主体的に参画できるしくみづくり】

県民の主体的な意見・提言を県政の企画・立案、実施などに生かすため、県民とともに地域課題を考えるとともに、県民が親しみやすい、また県民が意見・提言を出しやすい工夫に努めました。

(例えば)

県の計画案の段階で広く県民に発表し、県民意見を募集し計画づくりの参考とし、提出意見への対応状況を明らかにすることにより説明責任を果たす「県民意見提出手続（パブリック・コメント手続）」の実施にあたっては、多くの県民に意見募集の実施を知っていただくため、3ヶ月間と1か月前に事前予告を実施するなど、広報を工夫しました。

附属機関等の場に、県民が参画する機会・方法を確保し、生活者の視点にたった審議を行うため、「附属機関等の委員の公募に関する指針」の運用により、附属機関等の改選時に、委員の公募を推進するとともに、会議、資料の公開などにも努めてきました。これらについて、県のHPに附属機関の一覧を掲載するなど、アクセスしやすいよう工夫を行いました。

### 【県民と協働しながら、地域特性を生かした施策の実施】

河川や道路、公園など、公共施設の設置・運営、維持管理にあたって、県民の知恵や力が、発揮できるような施策の実施方法の工夫に努めました。また、地域課題の解決に向けて、市町との連携強化に努めながら、県民、多様な団体と協働で実施する施策・事業を推進しました。さらに、県民局の現地解決型機能を発揮し、地域の力を生かした新たな協働事業にも取り組みました。

(例えば)

地域住民を中心とする自主的な防犯活動の活性化を図り、地域における犯罪発生の防止をめざす「地域ぐるみ安全対策事業」では、市町担当課長会議を開催するなど、地域特性が生かして、柔軟な対応ができる制度設計に努めました。事業の実施の成果と課題は、交流会等を開催し、共有できるようにしました。

「コミュニケーション型県土づくりモデル事業」では、河川や道路など社会基盤の整備にあたって、計画段階から、県民との意見交換、アンケートなどを重ね、県民の利用や維持管理のしやすいしくみの導入にも配慮しました。また、「県民とのパートナーシップによる維持管理」では、地域団体に加えて、ボランティアグループも参画しやすい制度の運用を行いました。

中播磨県民局の新たな試みとして、NPOと県が協働して地域課題の解決に取り組む「NPOとの協働による地域課題解決に向けた取り組み」では、NPOによる効果的な事業展開が期待できる地域課題について、企画・提案を募集し、先行・評価委員会での審査へ経た上で、機動力を発揮した協働事業に取り組みました。

#### (4) 参画と協働の定着をめざして

##### 《今後の主な取り組み方向》

これまでみてきたように、平成16年度は、条例施行後2年目を迎え、地域社会で「参画と協働」による取り組みを本格的に展開していただくため、地域協働事業をはじめとする先駆的な取り組みをはじめ、地域づくり活動の輪の拡がりや深まり、地域団体とNPO等の多様な主体間のネットワーク形成を積極的に支援してきました。

その結果、例えば、「美しい兵庫指標<sup>\*</sup>」をみると、「地域に自分の活動がある人の割合（21% 32% 34%）」や「社会のために活動したい人の割合（37% 43% 45%）」が増加しており、「参画と協働」「新しい公」に対する県民の意識も、徐々にではありますが、高まってきています。

<sup>\*</sup>美しい兵庫指標：

「21世紀兵庫長期ビジョン」が描く社会像の達成状況を評価するために設けた「社会像評価」、県が自ら提供するサービスについて県民の立場に立ち、その成果等を測定・分析し、客観的な判断を行うとともに、その結果を政策の企画立案に的確に反映していく「政策評価」、それら共通のデータベースとなる「指標の森」から構成されているもの

一方、「ともに知り、ともに考え、ともに取り組み、ともに確かめる」という、県行政のさまざまな局面で、広報・広聴、意見交換・提言、事業の協働実施など、多様なチャンネルを活用するなかで、職員意識の醸成や参画と協働の考え方が共有されつつあります。

しかし、「参画と協働」は、まだまだ新しい考え方であり、今後とも、次の点に意を用いながら、一層の浸透・定着に努めていかなければなりません。

##### 地域づくり活動支援の今後の主な取り組み方向

市町をはじめ、地域づくり活動支援に取り組む多様な主体との連携強化  
県民の主体性や地域の特性に応じた柔軟な支援方法の一層の工夫  
支援に関する情報の集約・整理と一体的提供など、県民の視点にたった分かりやすい情報提供  
地域づくり活動の裾野を拡げるため、地域に潜在する人材（勤労者、若い世代、退職世代等）の発掘と活動支援  
多様な主体をつなぐ中間支援組織の連携支援  
地域づくり活動や団体運営ノウハウの共有化  
地域づくり活動を客観的に評価できるしくみの検討 等

## 県行政への参画と協働を推進する今後の主な取り組み方向

県民の視点に立った県政情報の発信方法の一層の工夫  
フォーラム、ワークショップをはじめ、県民と意見交換し  
る機会の拡充とあわせて、参加しやすい方法の検討  
協働で実施する施策・事業の範囲の拡充と、県民が協働し  
やすい運営の工夫  
施策・事業の実施にあたって、参画と協働の手法を事前に公  
表するしくみの検討  
多様な地域課題に応じて、行政部局が連携した柔軟な支援方  
法の推進  
事業委託、協働実施など県民の主体性を生かした多様な協働  
のしくみづくり  
参画と協働の窓口ともなる県民局の現地解決型機能の一層の  
拡充

### 《総合的な検証に向けて》

今後は、地域社会の「元気と安心」を確かなものにするため、これまでの蓄積の上に立って、特性や資源を生かしながら、地域協働事業をはじめ、多様な県民ニーズを踏まえた施策・事業に努め、県民の「参画と協働」による地域づくり活動の浸透・定着をめざしてまいります。

参画と協働の進め方は、テーマや課題、分野、取り組み内容などに応じて多種・多様であり、また、日々変化しているものです。

このため、条例施行後3年目を迎える平成17年度には、条例附則の規定に基づき、参画と協働による施策の効果の検証を行い、「参画と協働」のさらなる推進のために方策を検討していくこととします。



## 2. 主な参画と協働施策の実施状況

### (1) 主な参画と協働施策の選択にあたって

ここでは、まず、参画と協働の考え方や状況について、広く県民にご理解いただくため、地域づくり活動への支援、県行政への参画と協働の推進に関する主な施策・事業をとりあげ、参画と協働の方法や、参画と協働の状況、参画と協働の今後の主な取り組み方法を明らかにしました。

#### 選択の考え方

「平成 16 年度参画と協働関連施策の展開方針」に記載した施策・事業の中から、各部及び各県民局それぞれ一つ(一部複数施策)、平成 16 年度新規施策・事業を優先しながら、次の視点で、主な施策を選択しました。

#### 【選択の視点】

- ・ 全庁的に取り組む、参画と協働のしくみとしての施策・事業
- ・ 多様な手法(チャンネル)を組み合わせる展開する施策
- ・ 事業・各地域の特性のある取り組みや、県民が多彩に参画・協働して実施している施策・事業

#### 選択した事業の一覧

##### 地域づくり活動への支援に関する施策(20 施策)

3つの方向	事業名	担当部	ページ
新たな活動を 生み、育む	地域づくり活動登録制度の運用	県民政策部	1 - 1
	兵庫県立大学 生涯学習交流センターの設置(新)	企画管理部	2 - 1
	思春期ピアカウンセリング事業	丹波県民局	3 - 1
	まちの子育てひろば事業の推進	健康生活部	4 - 1
	県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業の実施～オープンスクールの推進～	教育委員会	5 - 1
活動を高め、 支える	防災協働社会を担う人材の育成(新)	企画管理部	6 - 1
	コミュニティサポート支援事業(新)	総括部( 県土整備部)	7 - 1
	北はりま田園空間博物館交流推進事業の支援	北播磨県民局	8 - 1
	県民交流広場事業(仮称)の推進(新)	県民政策部	9 - 1
活動をつな ぎ、広げる	地域づくり活動応援(パワーアップ)事業	県民政策部	10 - 1
	『子育て応援ネット』(地域子育てネットワーク事業)(新)	県民政策部	11 - 1
	ひょうご美しいむらづくり推進事業(新)	農林水産部	12 - 1
	阪神・淡路大震災 10 周年記念事業の推進(新)	総括部( 企画管理部)	13 - 1
	六甲山自然保護センターの機能強化(六甲山活性化の推進)	神戸県民局	14 - 1
	地域環境力の向上による廃棄物不適正処理未然防止対策の推進	阪神北県民局	15 - 1
	いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクトの推進	東播磨県民局	16 - 1

	コウノトリと共生する地域づくりの推進	但馬県民局	17 - 1
	あわじ菜の花エコプロジェクトの推進	淡路県民局	18 - 1
	ひょうごボランティアプラザの運営	県民政策部	19 - 1
	ひょうごボランティア基金、阪神・淡路大震災復興基金による助成		19 - 5
	NPO 大学事業の実施		19 - 8
	NPO と行政の協働会議の開催		19 - 10
	ひょうごボランティア活動メッセ		19 - 12
	県民行動プログラムに基づく活動の促進 【県民行動プログラムの具体例】	各県民局	20 - 1
	農都・神戸づくりグループなどの行政と協働した取り組み 等	神戸県民局	20 - 3
	県民の自立と協働により、人と人、人と地域がふれあうなかで、それぞれの生活の質を高めよう 等	阪神南県民局	20 - 5
	多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる 等	阪神北県民局	20 - 7
	バリアフリー-東播磨基準づくり 等	東播磨県民局	20 - 9
	心肺蘇生法を普及させ「命の教育」を推進していこう 等	北播磨県民局	20 - 11
	水を通じたネットワークづくり 等	中播磨県民局	20 - 13
	出る杭大会の開催・出る杭大賞の選定等	西播磨県民局	20 - 15
	映像で但馬を発信 等	但馬県民局	20 - 17
	情報公開プロジェクト 等	丹波県民局	20 - 19
	まちぐるみ やさしいまちを知ろう調べようプラン 等	淡路県民局	20 - 21

県行政への参画と協働を推進する施策（10 施策）

3つの方向	事業名	担当部	ページ
県民と情報を共有する	県民参画による広報の展開(新)	広報課	21 - 1
県民と知恵を出し合う	県民意見提出手続(パブリック・コメント手続)の充実	県民政策部	22 - 1
	附属機関等の委員の公募に関する指針の運用	県民政策部	23 - 1
	御前浜水環境の再生(新)	阪神南県民局	24 - 1
県民と力を合わせる	地域ぐるみ安全対策事業(新)	県民政策部	25 - 1
	のじぎく兵庫国体募金(愛称:はばタン募金)の実施(新)	企画管理部	26 - 1
	県民とのパートナーシップによる維持管理	県土整備部	27 - 1
	被災地修景緑化支援事業(新)	県土整備部	28 - 1
	西播磨「水と緑の郷づくり」構想の推進	西播磨県民局	29 - 1
	NPOとの協働による地域課題解決に向けた取り組み(新)	中播磨県民局	30 - 1

(新)：平成 16 年度新規施策

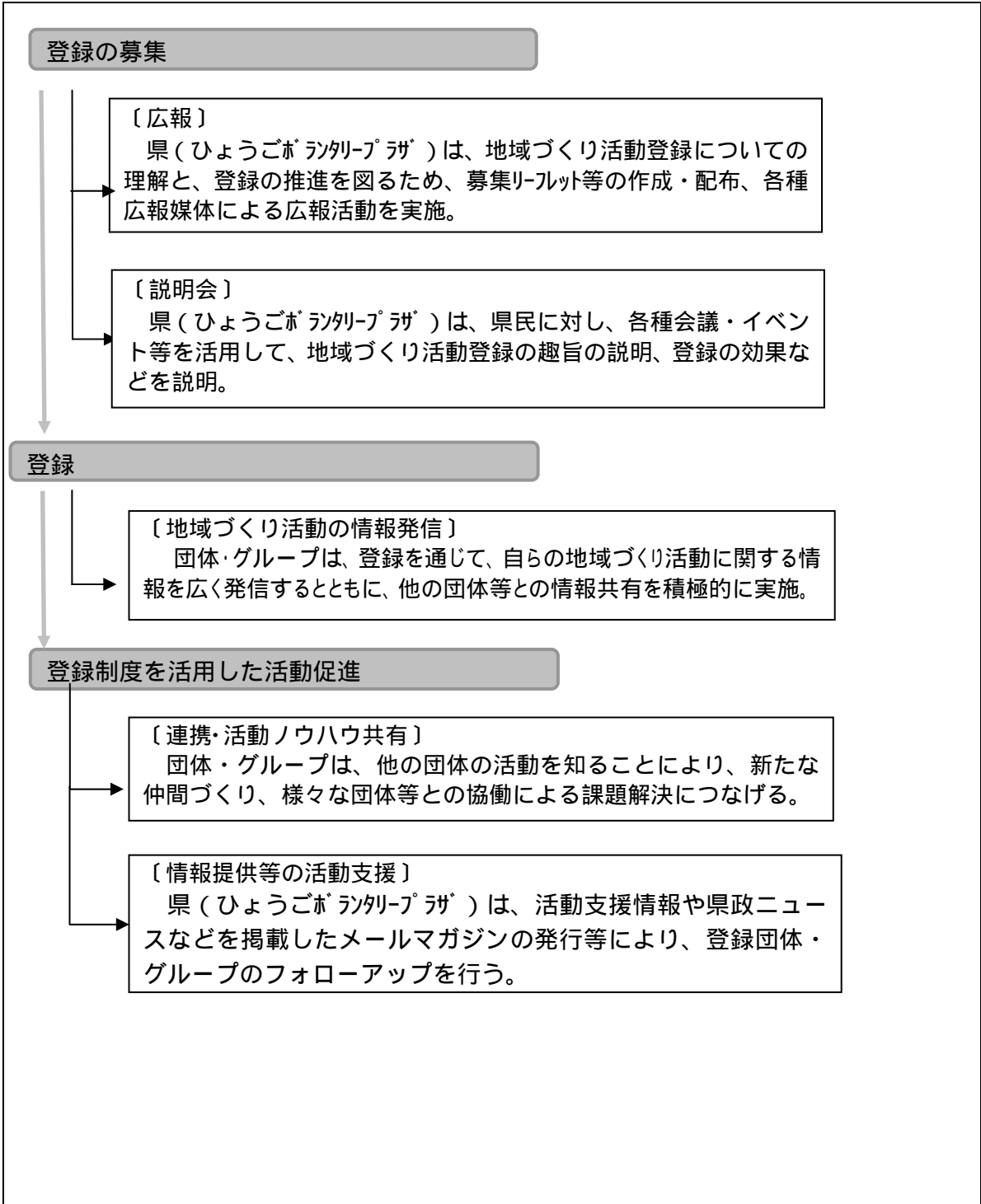
(2)地域づくり活動への支援に関する施策(20 施策)  
新たな活動を生み、育む

地域づくり活動登録制度の運用（県民政策部）

事業概要

団体等が自ら取り組む地域づくり活動の概要（活動の内容、活動分野、活動地域、団体の概要など）を登録し、情報発信することを通じて 地域・分野を超えた活動ノウハウ等の共有 共通する課題解決に向けた複数のアプローチの発見 複数のアプローチを協働して取り組むきっかけづくり、などによる地域づくり活動の活性化を応援するため、ひょうごボランティアプラザにおいて地域づくり登録制度を運用します。

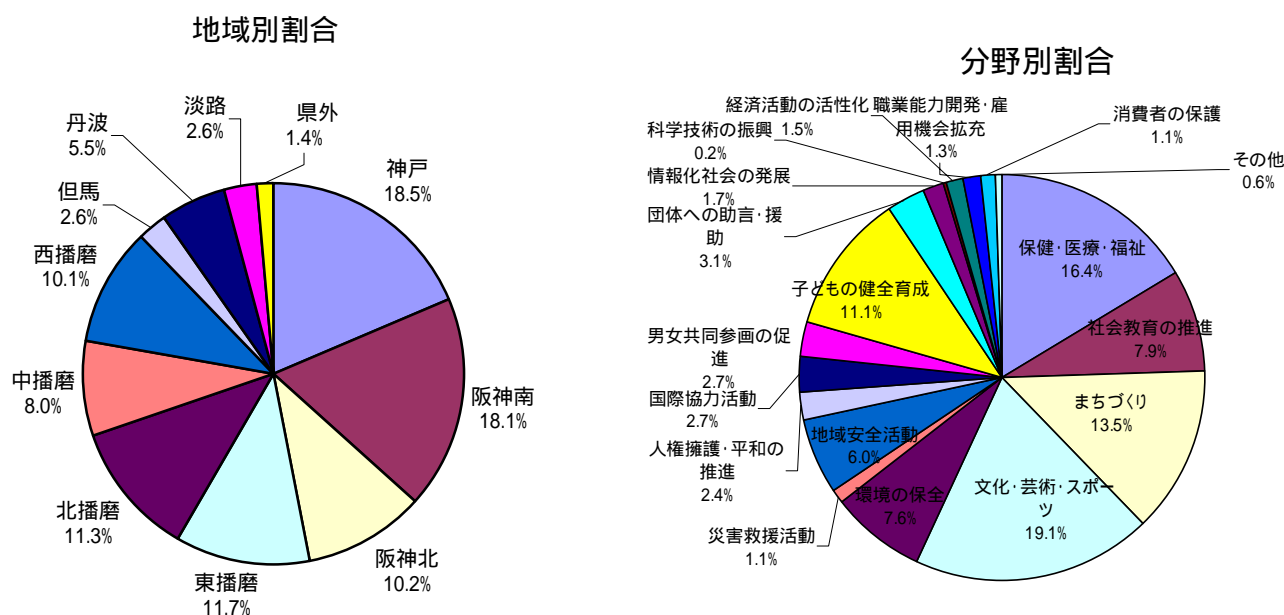
参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### 地域づくり活動登録件数

地域づくり活動登録制度は、平成 15 年 7 月から運用を開始し、活動登録件数は、2,515 件です。地域別、分野別、団体別の主な内訳は次のとおりです。



## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (登録数の充実)

現在の地域づくり活動登録件数は、2,515 件ですが、県内ボランティア活動の状況等からみて、さらに積極的に登録を呼びかけ、制度の充実を図ることが必要です。

このため、ひょうごボランティアプラザを中心として、地域別・分野別支援機関のネットワーク「活動支援ネット」を構築し、各支援機関の登録グループや、助成・顕彰・NPO法人認証等各種手続きの機会をとらえて登録を呼びかけるとともに、「県民だよりひょうご」「日曜フォーラム」等の各種媒体による広報、さらに、個人情報等への配慮及び登録手続の簡素化に関する周知を通して登録制度の普及を図るとともに、既に登録している団体向けに発行しているメールマガジンを活用して登録情報更新の促進を図ります。

### (登録制度の機能強化)

#### (1) 登録団体間の交流機会や登録団体と企業等のマッチング機会の創設など登録メリットの充実

登録団体の地域別・分野別交流会を開催するとともに、地域づくり活動支援情報提供システム「ひょうご活動支援ナビ(仮称)」(平成 17 年度開発予定)上において、登録団体に募集情報(イベントボランティアや寄附の募集)発信の場を提供することにより多様なマッチング機会を提供します。

#### (2) 登録制度における情報発信機能の強化

登録団体に対しては、現行の発信情報(「団体情報」「活動情報」「活動写真」)に「広報誌等」を追加掲載できるようシステムを改善して団体の広報活動をサポートするほか、「ひょうご活動支援ナビ(仮称)」上に集約される様々な支援情報を活用し、情報提供(メールマガジン)の一層の充実を図ります。

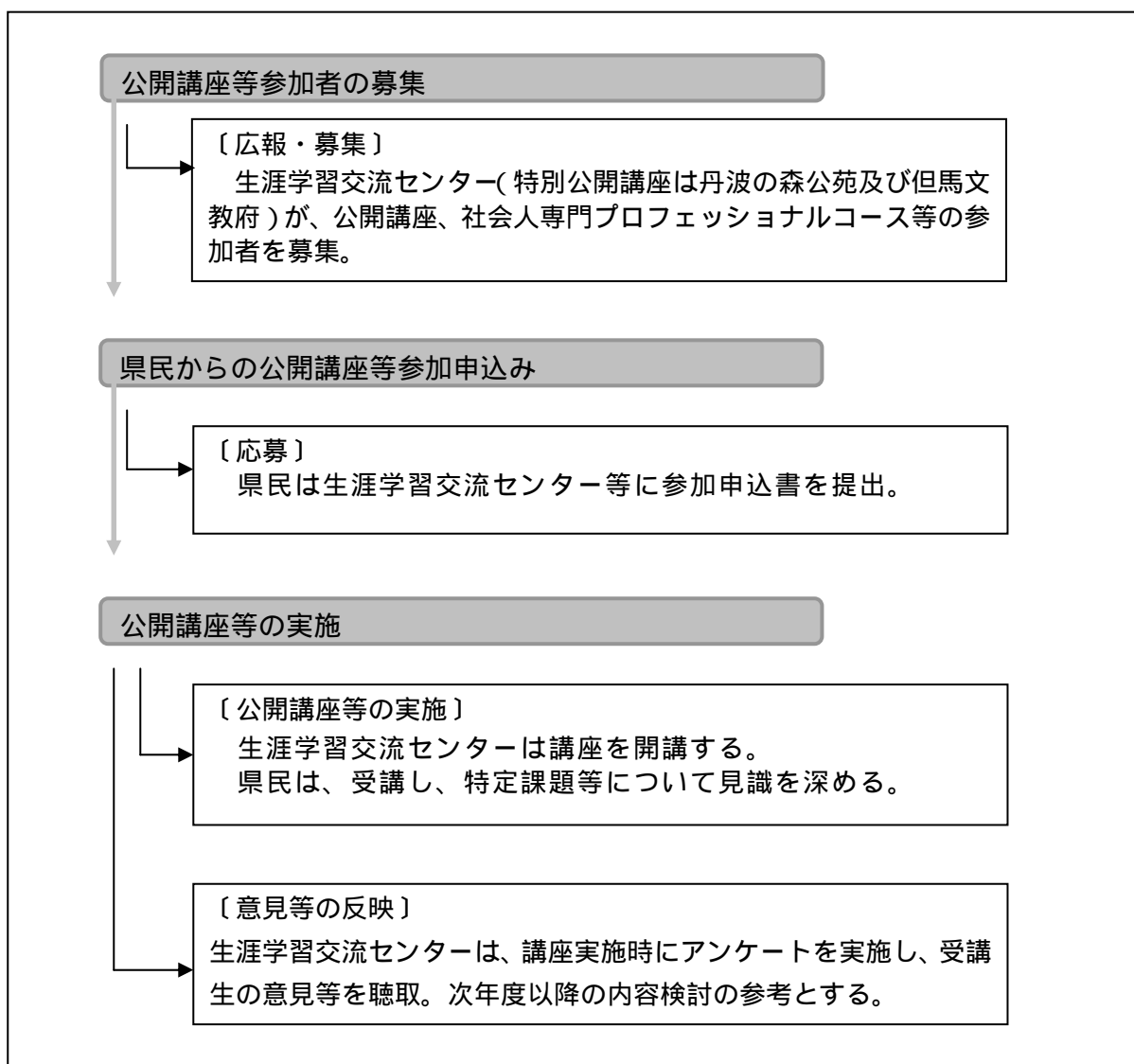
## 兵庫県立大学 生涯学習交流センターの設置（企画管理部）

### 事業概要

大学固有の専門的教育資源の活用に見点を置き、社会人のリカレント教育や高度な教養教育等、県民の多様な生涯学習ニーズにこたえるため、事業・制度の企画立案、学内の総合調整及びその推進をになう組織として「生涯学習交流センター」を設置し、大学の教育機能を活用し、広く県民に学習の機会を提供します。

リカレント教育：一度社会に出た者が、学校やそれに準ずる教育・訓練機関に戻ることが可能な教育システム。

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### 公開講座

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
パソコン教室 ホームラン(LAN)をつくりましょう	30名	33名	全3回	神戸学園都市 キャンパス
食文化教室 スローフードとイタリア	40名	18名	全3回	神戸学園都市 キャンパス
スポーツ教室 テニス	30名	34名	全6回	神戸学園都市 キャンパス
よくわかる最新の科学と技術	80名	56名	全8回	姫路書写 キャンパス
いざという時の命と健康を守る術	100名	24名	全2回	明石キャンパス

### 特別公開講座

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
くらしの中の科学と技術	50名	60名	全5回	丹波の森公苑
地域で役立つこれからの看護	50名	50名	全3回	但馬文教府

### 国際セミナー

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
情報通信技術(ICT)と次世代の 看護 - 看護実践の教育・研究におけ るICTの活用 -	400名	116名	全2回	明石キャンパス

### 社会人専門プロフェッショナルコース

講座の名称	定員	参加者数	回数	開催場所
起業家コース	20名	21名	全10回	神戸キャンパス

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(公開講座等の内容の充実)

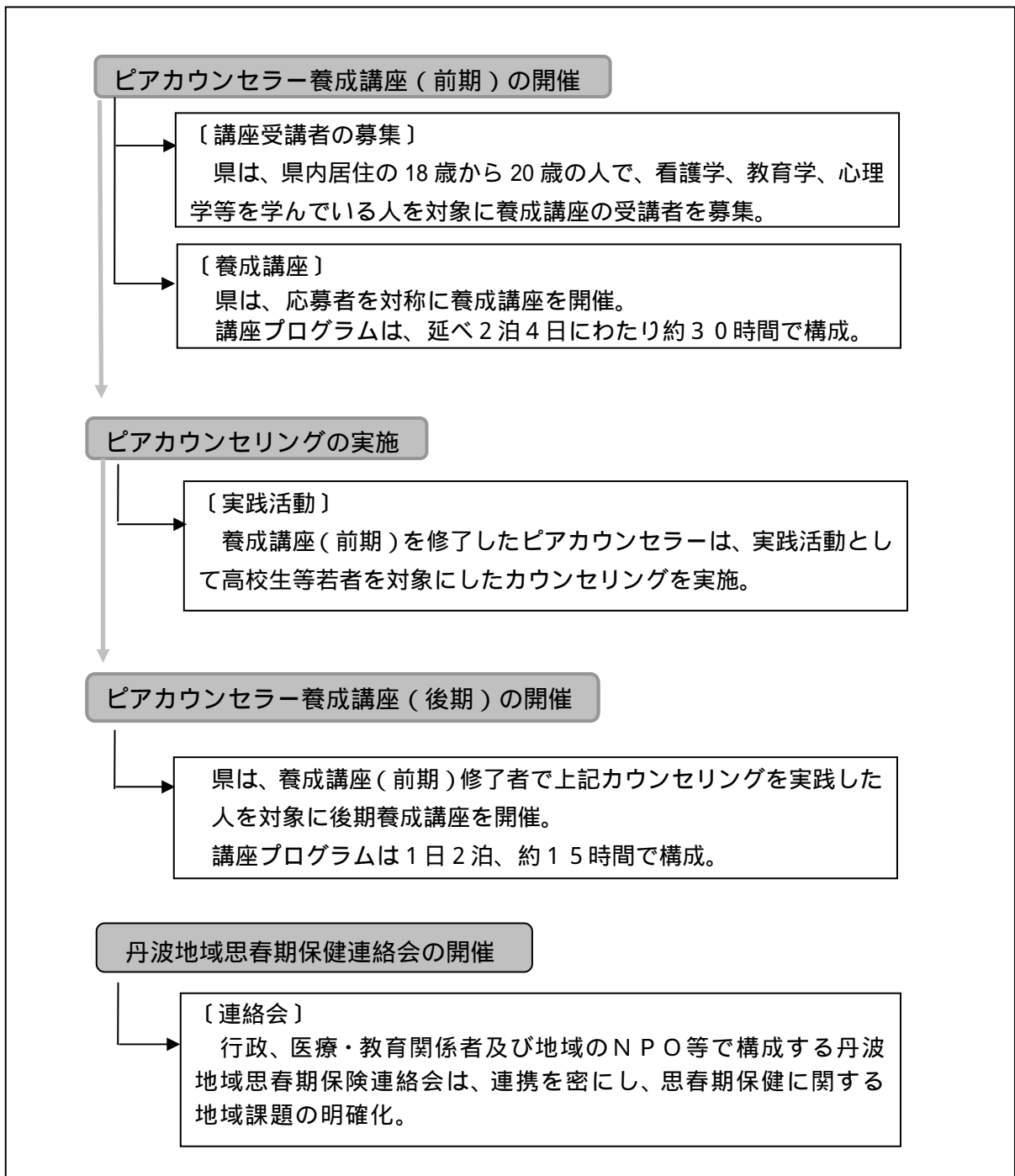
従来の公開講座を踏まえながら、今後地域交流型の講座を検討するなど、県民のニーズをよりきめ細やかに拾い上げていきたい。

## 思春期ピアカウンセリング事業（丹波県民局）

### 事業概要

丹波地域における中高生の健康や生（性）に関する課題に対応するため、同世代の若者をピア（＝仲間）カウンセラーとして養成し、中高生が相談しやすいカウンセリング体制を整えるとともに、課題に対する若者の自己決定能力を高める。

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

思春期ピアカウンセラー養成講座の受講者

養成講座には看護学生大学生が参加し、27名が修了しました。



(講義の様子)



(グループによる実演・発表)

思春期ピアカウンセリング事業の実施

地域の若者ゆうゆう広場や高校において思春期ピアカウンセリング事業を4回実施しました。



参加ピアカウンセラー 延べ49名  
高校生 延べ408名

広報

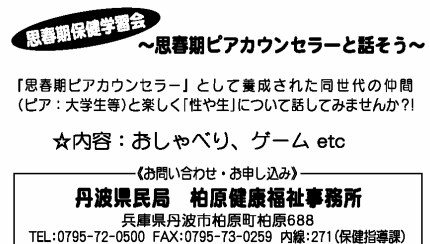
上記事業の実施に向けて、NPO法人の参画でホームページを立ち上げました。また、県が丹有学区の高校生7600名にPRカードを配布しました。

(PRカード)

表



裏



丹波地域思春期保健連絡会の開催

3回(平成16年7月26日、12月16日、平成17年3月25日)

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （思春期ピアカウンセリングの継続実施）

ピアカウンセリングには多くの高校生が参加し、カウンセリングを受けてよかったと好評だったので、引き続きピアカウンセラーによるカウンセリング事業（集団・個別相談）を実施します。

### （思春期保健連絡会の継続実施）

多様な関係団体が連携することにより地域の課題を共有できるとともに、事業の実施にあたっては協力して速やかに取り組めたので、当該事業の定着に向けて協議、連携を継続します。

### （事業の効果測定等）

この事業を実施してみて、関係団体から全県的に取り組む意義は大きいのではないかという意見も出されているので、事業の効果測定、評価を行い、全県事業として取り組むことを提言できるよう進めていきます。

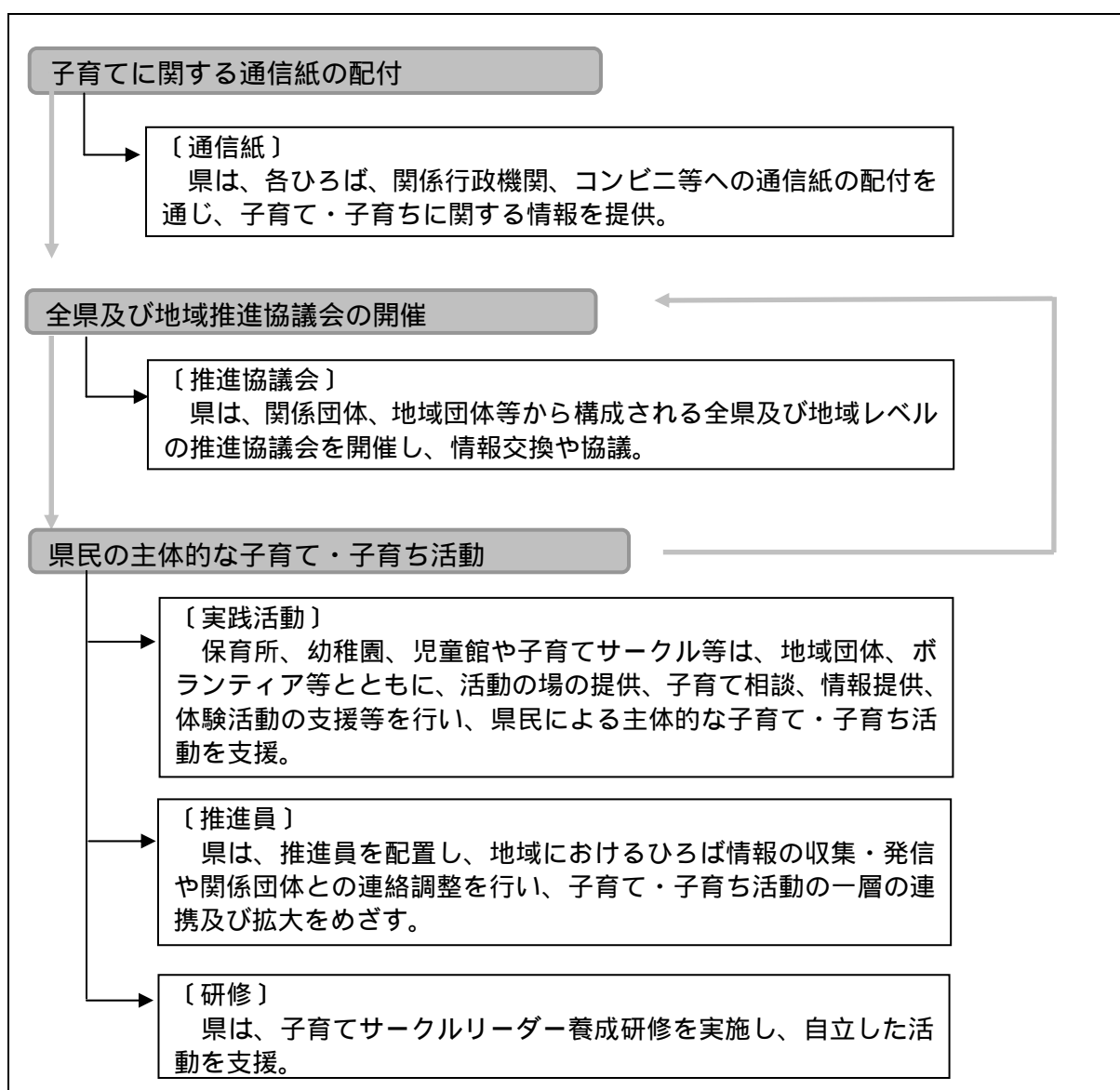
## まちの子育てひろば事業の推進(健康生活部)

### 事業概要

子育て中の親が気軽に集い、仲間づくりを通して子育ての悩みを解決し、情報交換ができる身近な拠点となる「まちの子育てひろば」(以下「ひろば」という。)の開設を促進し、地域団体やボランティア等との参画と協働により、子育て相談や親子の体験活動を支援するなど、地域全体で子育てを支える仕組みづくりを推進します。

### 参画と協働の方法

下記のような進め方を標準モデルに、具体的な手法については各地域で創意工夫を凝らし展開しています。



## 参画と協働の実施状況

### 「まちの子育てひろば」設置状況

(平成17年3月末現在)

県民局	保育所	子育てサークル	幼稚園	児童館	子育て学習センター	コープひろば	助産院	社会福祉協議会	まちの保健室	児童養護施設	乳児院	女性センター	その他	合計
神戸	28	71	91	116	0	14	3	0	2	0	1	0	68	394
阪神南	86	64	61	19	0	11	1	23	1	3	0	0	1	270
阪神北	16	99	43	11	0	4	5	1	1	0	1	1	7	189
東播磨	53	111	3	2	5	6	2	1	2	1	1	0	19	206
北播磨	52	31	2	10	8	1	1	0	0	0	0	1	2	108
中播磨	85	16	11	13	2	1	2	1	2	2	2	0	8	145
西播磨	42	27	0	9	9	3	1	9	0	1	0	0	2	103
但馬	39	39	0	3	14	0	1	2	0	0	0	0	6	104
丹波	21	10	0	4	6	0	0	0	0	0	0	0	1	42
淡路	14	0	1	3	3	0	1	0	0	0	0	0	0	22
合計	436	468	212	190	47	40	17	37	8	7	5	2	114	1583

### 活動内容

- ・ 親子で体験活動（親子体操、工作、料理、季節の行事など）を実施
- ・ ボランティアによる絵本の読み聞かせ、紙芝居、人形劇などの遊びの提供
- ・ 保育士、保健師、助産師等の専門人材による子育て相談の実施
- ・ 施設（園庭、自宅）開放 等

### 推進員の設置状況

ひろばに関する情報の収集・発信や関係団体との連絡調整等を行う「まちの子育てひろば推進員」を地域に配置します。

平成14年度	平成15年度	平成16年度
81名	103名	105名

配置個所	役割など
社会福祉課	全県下のひろば登録管理、助成金等交付事務、通信紙の発行等のため、3名配置
県民局	広域的な情報集約や連絡調整等を行うため、各県民局に1名ずつ配置
県立こどもの館	各ひろばに出向き、体験活動の指導や子育てリーダー研修を実施するため11名配置
保育所	保育所のひろばの情報集約や連絡調整等を行うため事務局及び各地区ブロック（旧県民局圏域）に1名ずつ配置
県社会福祉協議会	市町社協の推進員の情報集約や連絡調整等を行うため、2名配置
市町社会福祉協議会	各ひろばの情報集約や連絡調整等を行うため、各市町社協に1名ずつ配置（ただし人口の多い神戸市は11名、尼崎市、西宮市各2名配置）

### 子育てサークルリーダー養成研修の開催状況

- ・ 派遣市町数：13市6町（参考 11市9町）
- ・ 派遣回数：45回（参考 35回）
- ・ 参加人員：2,273名（参考 1,721名）
- ・ 研修内容：各地で広がりを見せている「子育てサークル」活動を支援するため、

その活動の中心的役割を果たす人材の養成及び子育てサークルリーダーとしての資質向上を図るための研修を実施。

#### まちの子育てひろば交流研修会の開催

まちの子育てひろばの活動の充実と相互交流を促進するため、ひろば開設者や老人クラブ、婦人会、民生委員・児童委員等のひろば応援団が参加し、事例発表や講演等を行う交流研修会を各県民局管内で開催しました。

県民局	日 時	参加人数
神 戸	H.17. 3.23	80 人
阪神南	H.17. 2.10	80 人
阪神北	H.17. 3.10	103 人
東播磨	H.17. 1.21	200 人
北播磨	H.17. 2.14	47 人
中播磨	H.16.11.30	95 人
西播磨	H.16.11. 1	115 人
但 馬	H.16.11. 8	85 人
丹 波	H.17. 2.26	250 人
淡 路	H.17. 3.23	14 人

#### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

14年度から実施しているまちの子育てひろば事業は、地域全体で子育てを支えるしくみづくりを推進してきた。その結果、1,500箇所を超えるひろばが開設され、気軽に身近に集える場としての「ひろば」づくりの促進という所期の目標は、ほぼ達成されました。

今後はひろばが親子にとって安心でき、子育てに夢が持てる場となるよう、専門家による相談機能の強化や、親子の社会性の涵養につながる多様な体験活動の実施など、家庭・地域・行政の力を結集して、ひろば活動の内容を充実させ、“魅力あるひろばづくり”をめざします。

なお、児童福祉施策全般との連携をより密接に図る必要があるため、17年度から所管課を社会福祉課から児童課へ移管しました。

##### (ひろばの相談機能の強化)

ひろばにおいて子育て相談機能を強化するため、保育士や教員OB等による「ひろば子育て相談員」を各県民局に登録し、ひろばからの要請に応じて派遣します。

##### (コーディネート機能の強化)

ひろば事業が充実して展開されるよう、各県民局、県保育協会、私立幼稚園協会、県社協等に「まちの子育てひろばコーディネーター」を配置し、ひろばの継続運営を支援するための情報集約や連絡調整等を行います。

(地域での子育て力支援体制の充実)

ひろば応援団に関する情報紙の発行や交流会の実施など、ひろば運営を側面的に支援するとともに、ひろば応援団機能の強化を図り、地域の子育てを支える環境づくりを一層推進します。

(行政における子育て支援専門機関による支援)

こどもの館に体験活動指導員を配置し、こどもの館を中心に多様な体験活動の指導によりひろばを支援するとともに、専門的機能を積極的に活用し、家庭・地域の子育て力の総合的な向上を図ります。

さらに、こども家庭センター、健康福祉事務所等が、これまで保育所や幼稚園などに通わなければ発見できなかったような障害、発達遅滞及び虐待事例等を早期に発見し、初期段階から専門家による適切な処遇につながるよう支援します。

## 県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業の実施～オープンスクールの推進～(新)

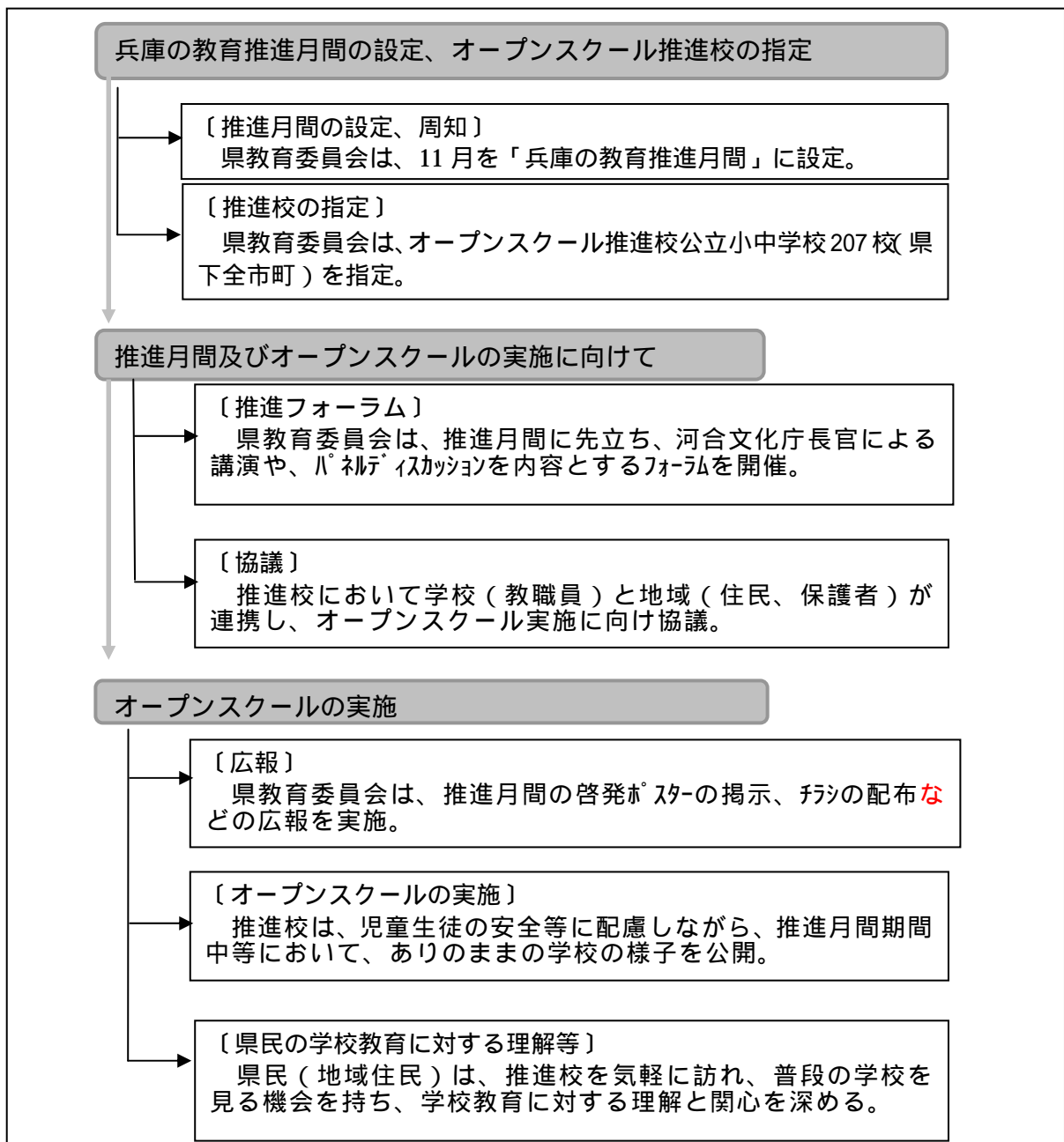
(教育委員会)

### 事業概要

学校、家庭、地域社会の連携のもとに展開されている教育活動の支援や、県民の教育への関心と理解を深めることを目的として、11月を「兵庫の教育推進月間」と設定し、広報活動等の実施により子どもたちの教育活動へのかかわりを促進します。

また、従来から実施されている授業参観や学校行事の参観をはじめ、普段の学校の教育活動を保護者や地域住民に公開しようとする取り組みとして「オープンスクール(学校公開)」を推進します。

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### 兵庫の教育推進月間の取り組み

学校、家庭及び地域社会の連携のもとに展開されている諸活動を支援し、子どもたちの教育への県民の関心と理解を一層高めるために、11月を「兵庫の教育推進月間」と設定し、オープンスクールなど、県民すべてがかかわる本県の教育を推進しました。

- ・「兵庫の教育推進月間」推進フォーラムの開催

(日時) 平成16年8月3日

(場所) 兵庫県公館

(参加者数) 県民、学校関係者、教育行政担当者、教育関係諸団体関係者など380名

- ・啓発ポスター、チラシの作成・配布

- ・教育委員会ホームページ等による広報

県内各地で推進月間中に実施される教育活動を集約、紹介



(啓発ポスター)

### オープンスクール実施に向けて

オープンスクールの実施に先立ち、教職員と地域住民、保護者がオープンスクールの実施内容、役割分担等について話し合う機会を持ち、受け入れ準備をすすめました。

### オープンスクールの推進

保護者や地域住民自らが受付や校内の巡視活動などに携わることや、保護者のみならず地域住民にもありのままの学校を見ていただくことで、子どもたちの教育への県民の関心と理解を高めることができ、学校、地域社会において下記のような効果がありました。

#### (学校)

開かれた学校づくりの促進

- ・家庭や地域社会との相互理解の促進
- ・地域の教育力の活用 など

#### (地域)

子どもたちを地域で育む意識の醸成

- ・学校教育に対する理解と関心の促進 など



オープンスクール受付の様子  
< 西播磨教育事務所管内 >

### 平成16年度県下の小・中学校におけるオープンスクールの実施状況

全体 69.2%

(小学校 67%、中学校 74.4%)

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(兵庫の教育推進月間の取り組み)

「兵庫の教育推進月間」を平成16年度に設定し、取り組みを実施し始めたところ  
です。

今後、「兵庫の教育推進月間」の趣旨を県民に周知するとともに、推進月間の定着を図り、子どもたちの教育に対する県民の参画と協働を促進し、県民すべてがかかわる本県の教育をさらに推進していきます。

(オープンスクールの本格展開)

平成16年度に実施したオープンスクール推進事業においては、学校と家庭、地域社会との相互理解のもと、受付や校内の巡視活動が保護者や地域住民の支援により行われるなど、一定の成果がありました。アンケート調査結果をみても、地域の学校のありのままの様子がよくわかり、学校を身近に感じる事ができたので、今後も継続して欲しいという意見がほとんどであるなど、好評を得ています。

一方、課題として、児童生徒の安全確保のために、より一層不審者対策を講じる必要があることや、学校が地域に対し積極的な情報提供を行い、より多くの地域住民等の参加を促すことが挙げられます。

これらの成果と課題を踏まえ、不審者への対応等児童生徒の安全確保に配慮しつつ、学校・家庭・地域の連携のもと、県下の全公立小中学校においてオープンスクールの実施を目指します。

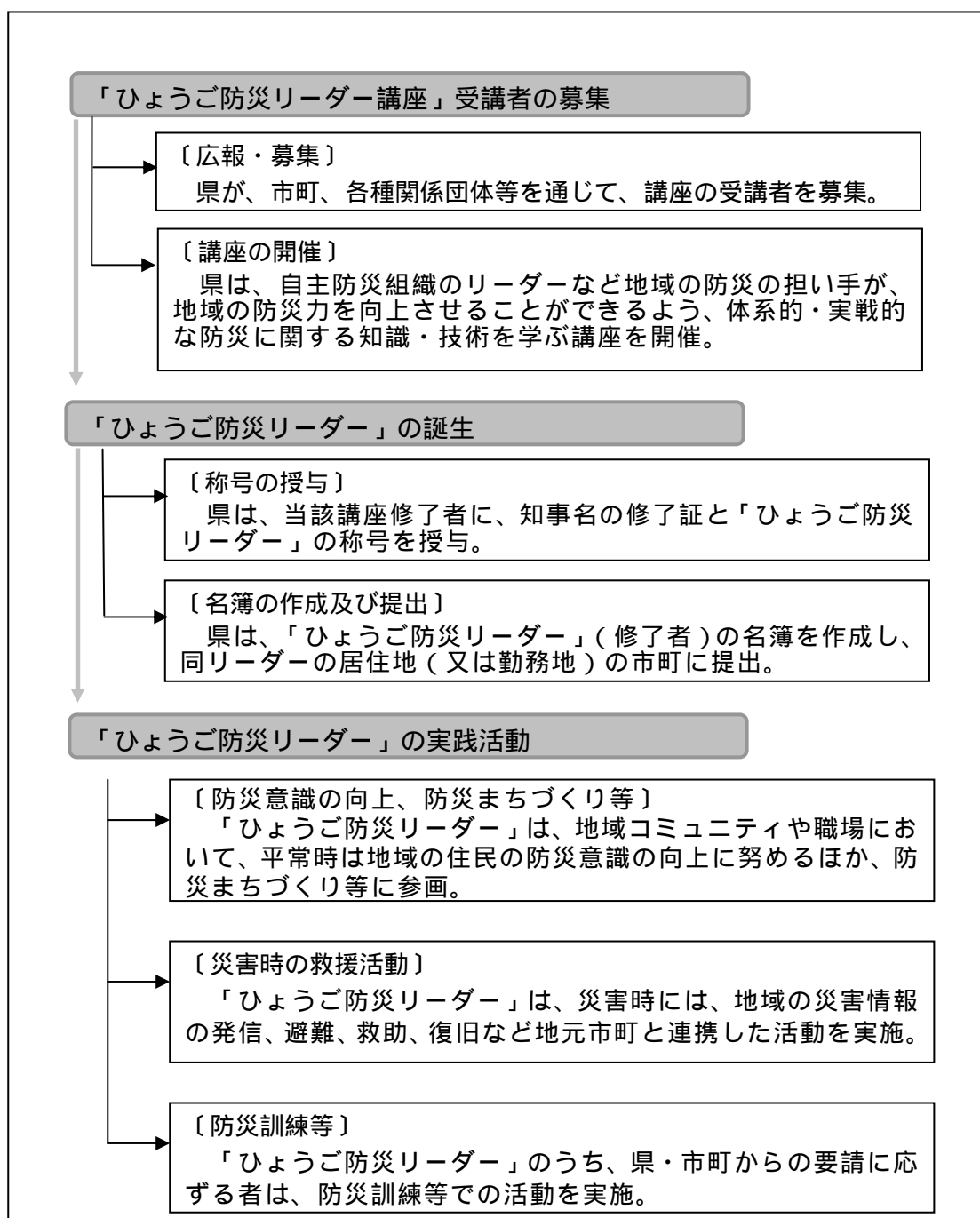
## 活動を高め、支える

### 防災協働社会を担う人材の育成(新) (企画管理部)

#### 事業概要

今世紀半ばまでに発生するといわれている東南海・南海地震などの地震や、近年数多く発生している台風や集中豪雨などの風水害等に的確に対応できるよう、自主防災組織のリーダーなど地域の防災の担い手が、防災に関する体系的・実戦的な知識・技術を習得し、地域の防災力を向上させることをねらいとして、「ひょうご防災リーダー講座」を開催します。

#### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### ひょうご防災リーダー講座の開催

防災に関する体系的な知識や実戦的な技術を身につけ、各地域や職場で防災リーダーとして活動できる人材を育成するため、「ひょうご防災リーダー講座」を平成16年度より実施しました。

#### 《受講者数等の状況》

項目	人数
受講希望者	149名
受講者	128名
修了者	113名

受講者募集にあたっては、県民局、市町等の協力も得て、予想を上回る希望者を得ました。このため、当初予定していた受講者の上限（100名）を引き上げ、128名を受講者としました。

講座では、災害のメカニズム、わが国の防災のしくみ、応急対策（火災消火、避難誘導、避難所運営等）のあり方等について、学識者、実務家等を招いて講義を行い、また、各種実習（応急手当、心肺蘇生法、ボランティア受け入れ、コミュニティ形成）、グループ討議等も行いました。

#### 《講座の開催状況》

12回開催（月2回×6か月）

1回の講座につき3講義（1講義90分）

（ただし、最終第12回第3時限は、NPO法人日本防災士機構が行う「防災士」資格取得試験を実施。）

ひょうご防災リーダーの登録数（ひょうご防災リーダー講座修了者数）

113人

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （講座内容の充実）

全体として、受講者からは、一流の講師による充実した内容の講義であり、今後の地域活動に大いに役立つと好評でした。しかし、次年度の課題として、実技の時間を増やすなど、地域の活動にすぐに役立つ実践的な内容を充実して欲しいなどの要望がありました。そのため、今後、これら受講者の感想・要望等を踏まえ、実技の時間を増やすなど、カリキュラムをより充実させていきます。

### （リーダーの活動をしやすいためのしくみづくり）

当該講座を修了した「ひょうご防災リーダー」については、リーダーが個々に地域や職場において防災活動の取り組みを行うことが中心となるように、また、県・市町と密接な連携を図れるように、しくみづくりを充実していく必要があります。

### （目標とするリーダー数）

当面5年間で600人（1年に120人）のリーダーを育成することを目標としており、目標達成に向けて今後も取り組んでいきます。

## コミュニティサポート支援事業(新) (県土整備部)

### 事業概要

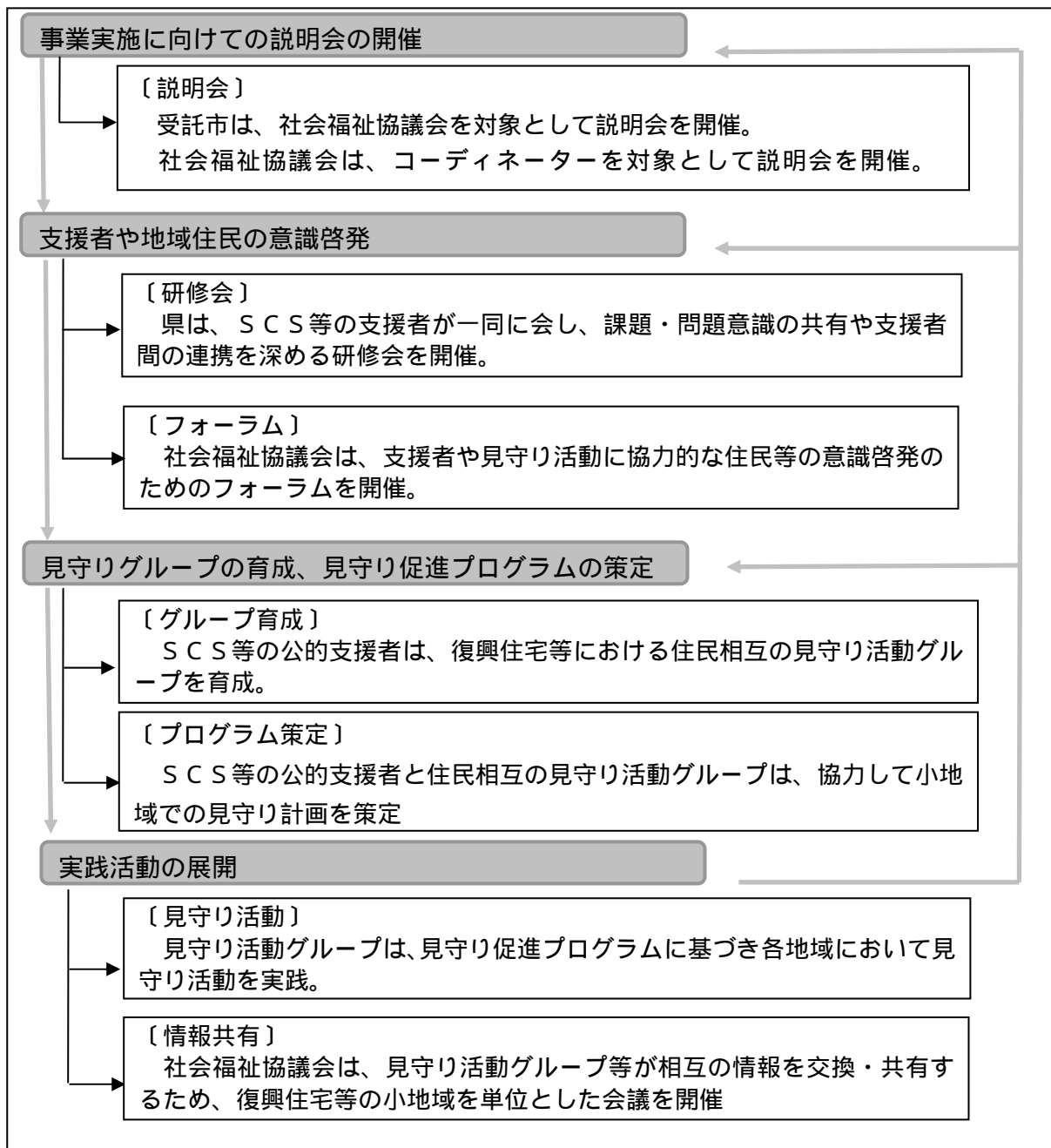
災害復興公営住宅では、高齢世帯生活援助員（ＳＣＳ）等の公的支援者を中心とした見守り等の支援を行ってきたが、今後訪れる超高齢社会においては、住民相互の見守りの重要性が高まると考えられます。

このことから、被災高齢者等への見守り体制の一層の充実を図るため、災害復興公営住宅等における住民相互の見守り活動グループ（コミュニティサポートグループ）の育成を促進するとともに、効果的な見守り活動を実践するための「小地域見守り促進プログラム」の策定を支援します。

事業の実施にあたっては、ＳＣＳを設置している被災市に委託します。

### 参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルとして、事業を実施しています。



## 参画と協働の実施状況

### コミュニティサポートグループの育成

神戸市と西宮市の災害復興公営住宅等において225グループが活動しました。

地域	グループ数
神戸市	200
西宮市	25
計	225

### 【参考：神戸市の取り組み状況】

#### (1) 育成手法

神戸市及び各区社会福祉協議会の指導・支援のもとに、災害復興公営住宅及び高齢化率の高い住宅・地域を対象に、高齢世帯生活援助員（SCS）、見守り推進員及びLSAがコミュニティサポートグループの育成を支援しました。

#### (2) 研修会の開催

各地区民生委員児童委員協議会単位で「小地域見守り連絡会」等を開催し、本事業の説明や情報交換会を開催しました。

平成16年9月及び平成17年3月にコミュニティ支援をテーマとした研修会を開催するとともに、コミュニティサポートグループ育成支援の事例発表を行いました。

#### (3) コミュニティサポートグループに対する主な支援内容

チラシ・掲示板その他により協力者に呼びかけ、キーパーソンの発掘に努めました。地域の協力者、キーパーソンとなる人に対する説明、協力依頼、検討会の開催を行いました。

説明会、研修会の開催により、グループ化につなげました。

グループ育成のために連絡会や情報交換会を継続して開催しました。

#### (4) 取り組みの成果

支援団地数 156団体（地区）

育成グループ数 200グループ

《活動内容による内訳》

活動内容	グループ数
友愛訪問	84
ふれあい給食	4
ふれあい喫茶	32
ミニデイ	4
趣味活動等	27
外出介助	1
その他	48
計	200

## 小地域見守り促進プログラムの策定

神戸市と西宮市の31地域で策定されました。

地域	プログラム策定地域数
神戸市	28
西宮市	3
計	31

### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

#### (コミュニティサポートグループの育成)

現在、住民相互の見守りグループは神戸市(200グループ)と西宮市(25グループ)の2市で育成されましたが、他の被災市町も含め概ね100戸の見守り対象世帯を1グループが見守るよう、平成17年度以降も住民相互の見守り活動グループの育成支援を継続して行います。

#### (仲間づくり交流事業)

災害復興公営住宅のコミュニティ活性化及び見守りグループに対する継続的なフォローを行うため、被災高齢者の仲間づくり・生きがいをねらいとした「仲間づくり交流事業」を実施します。

#### 仲間づくり交流事業の例

被災高齢者の交流会、セミナーや趣味の講座の開催、  
複数自治会による交流事業の実施など

#### (小地域見守り促進プログラム事例集の作成)

平成16年度にモデル事業として策定した小地域見守り促進プログラムを今後の地域における見守りの参考事例として広く発信することが必要であることから、策定されたプログラム等を冊子等にとりまとめ広く被災各市町へ情報発信を行います。

## 北はりま田園空間博物館交流推進事業（北播磨県民局）

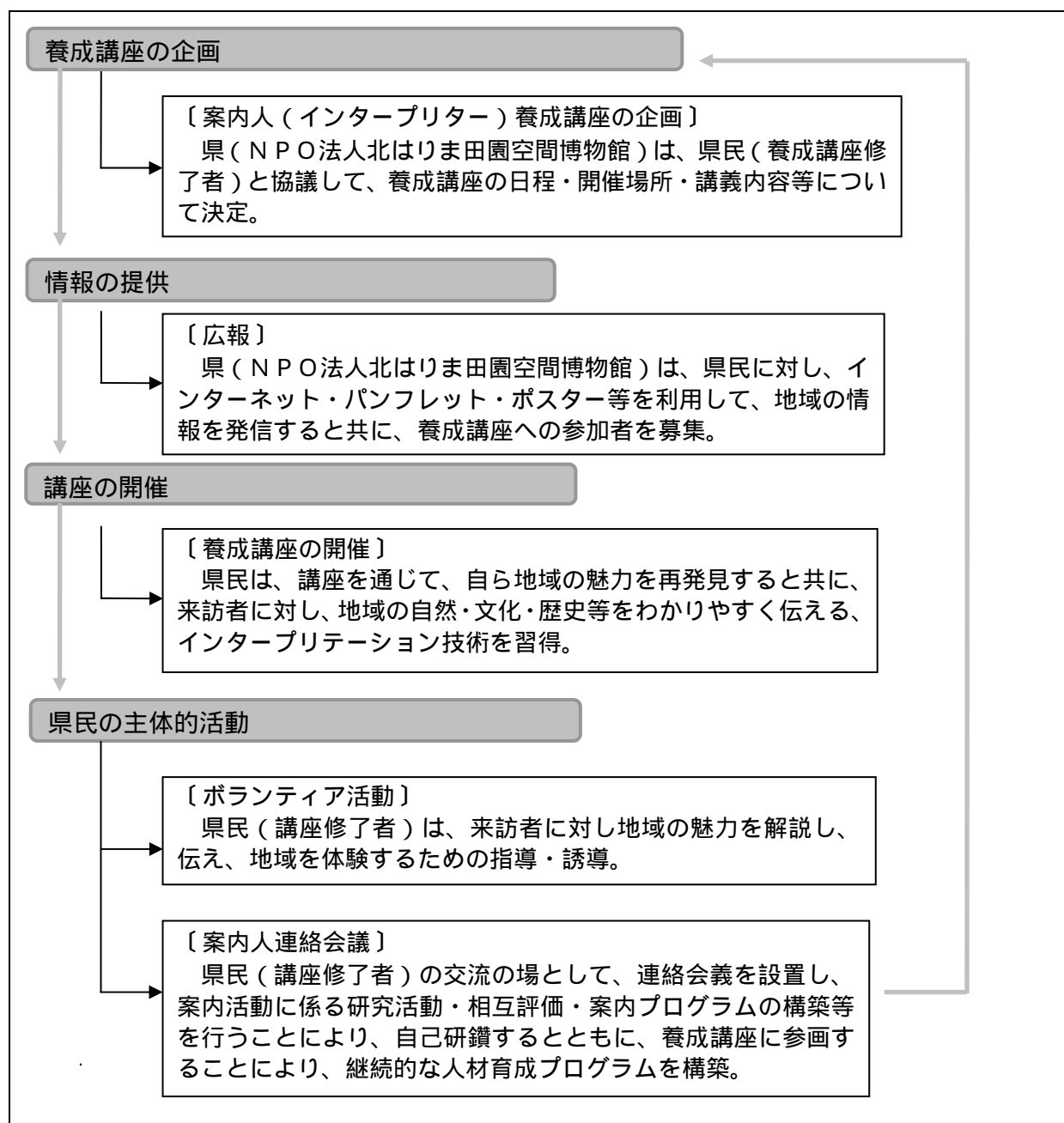
### 事業概要

北播磨地域における、都市と農山村との交流を通じた豊かな地域づくりのため、北はりま田園空間博物館を拠点として、地域情報の発信・地域案内人の育成を図り、行政と住民が連携し、北播磨地域が持つ様々な資源を生かして、都市住民との交流を図る北播磨交流の祭典を含む、住民の参画と協働による交流の舞台づくりを支援します。

なお、事業の実施にあたっては、住民主導の運動として実施し、事業完了後も地域に根付いた運動とさせるため、現在、北播磨地域において、地域づくりの中核的組織である NPO 法人北はりま田園空間博物館に業務を委託します。

### 参画と協働の方法

16 年度は、養成講座によりインタープリター（地域案内人）の養成を図るとともに、養成講座修了者が巡回講座の企画運営に参加し、自らの案内技術の向上を図りました。17 年度以降は、養成講座修了者が一般の来訪者に案内を行うシステムの構築を図ります。



## 参画と協働の実施状況

### 地域案内人（インタープリター）養成講座

講座名	内 容	月 日	場 所	参加者数
第5回講座	(1)インタープリターについての基礎知識	6.26・27（土・日）	中町 ココロ那珂	16
第6回講座		8.7・8（土・日）	黒田庄町 フォルクスガ-テン	12
第7回講座	(2)インタープリテーション技術の実技	10.16・17（土・日）	西脇市 テラ・ド-ム	13
第8回講座		1.15・16（土・日）	八千代町 なごみの里山都	27
第9回講座	(3)博物館案内の企画・実践	2.26・27（土・日）	加美町 エコミール加美	23
計				91

### 巡回講座

平成15年度に比べ、開催数（6回 10回）参加者数（143人 289人）が大幅に増加しています。

講座名	内 容	月 日	場 所	参加者数
第7回巡回講座	各サテライトの案内人を目指す人達が、サテライトを巡回し、それぞれのサテライト案内人の案内を聞き、自らの案内技術の向上を図る。	4.4（日）	西脇市周辺 桜めぐり	20
第8回巡回講座		5.23（日）	西脇市内サテライト6カ所	23
第9回巡回講座		6.19（日）	加美町内サテライト7カ所	26
第10回巡回講座		7.25（日）	八千代町内サテライト5カ所	30
第11回巡回講座		8.28（日）	中町内サテライト8カ所	33
第12回巡回講座		9.26（日）	黒田庄町内サテライト6カ所	24
第13回巡回講座		11.23（日）	加美町内サテライト7カ所	22
第14回巡回講座		12.12（日）	西脇市・加美町サテライト3カ所	38
第15回巡回講座		2.13（日）	中町・八千代町サテライト4カ所	33
第16回巡回講座		3.13（日）	八千代町サテライト5カ所	40
計				289

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （人材の育成と活用）

養成講座・巡回講座の実施により、住民自らが地域の風土・資源を再認識し、地域づくりの実践者としての意識の醸成を図るとともに、地域を訪れる来訪者に、地域の魅力を解説できる人材の育成が進んでいます。

また、養成講座の修了者により案内人連絡会議「<sup>てんこもり</sup>田湖森」が設立され、巡回講座の企画・運営などに携わることにより、案内技術の向上を図る機会が得られました。

一般の来訪者に対して案内を行うシステムが整備されていないので、今後、来訪者が気軽に案内を依頼し、地域案内人による案内を受けることができるシステムづくりを行っていきます。

**県民交流広場事業（仮称）の推進(新)（県民政策部）**

**事業概要**

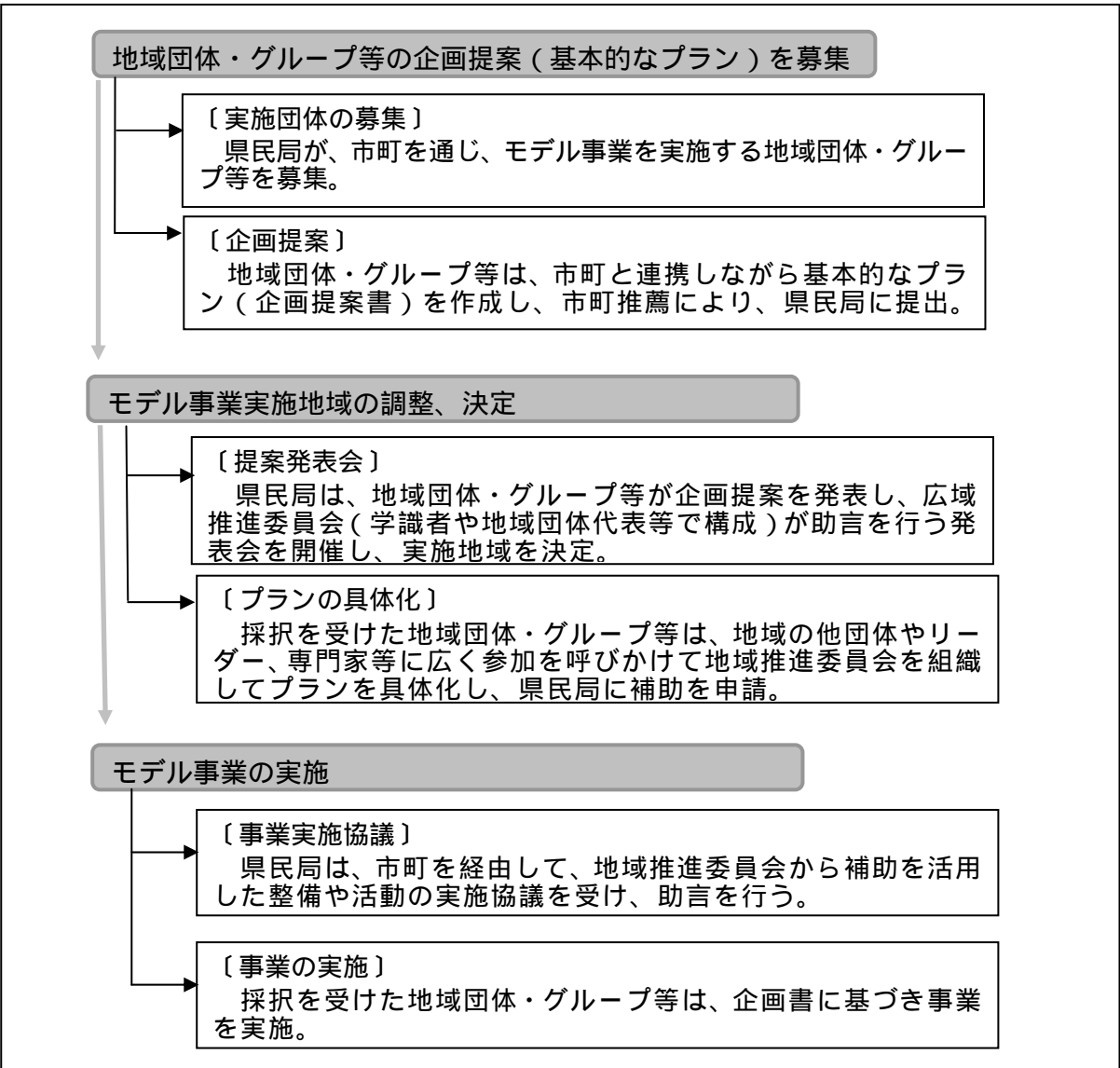
県民一人ひとりが、身近な地域を舞台に、多彩な分野で、実践活動・交流、生涯学習、情報収集・発信等に取り組むことができるよう、地域の主体的な企画提案のもと、身近な活動の場の整備や、広場を活用した地域づくり活動のきっかけや基盤づくりを支援し、参画と協働によるコミュニティの再生・構築をめざします。

16年度は、地域の課題やニーズなどの実情に即した効果的な事業スキームを検討するため、県民局毎に、以下の5タイプから基本となる整備タイプを設定してモデル事業を実施しました。

- 生活図書と学習の広場、生活情報の広場、パフォーマンスと活動の広場
- 地域まちかどギャラリー、地域ふれあいキッチン・工房

**参画と協働の方法**

16年度モデル事業については、下記のような進め方で、兵庫県（県民政策部、県民局）及び市町が連携して事業を推進しました。



## 参画と協働の実施状況

### 1 6年度モデル事業の概要

- ・実施地区 各県民局 概ね1小学校区
- ・補助内容 整備費 1,000万円以内  
活動費 必要に応じて、300万円以内
- ・実施主体 地域推進委員会(自治会、婦人会、老人クラブ、まちづくり協議会などの地域団体や地域内のリーダー等により構成される組織)

### 整備の基本タイプとモデル事業実施地域

それぞれの地区において、～の各整備タイプを基本とした活動の場の整備を進め、さまざまな活動を実施している。

生活図書と学習の広場 [生活図書室を中心とした学習活動や交流の拠点]	阪神南：芦屋市大原地区 東播磨：稲美町天満南地区
生活情報の広場 [パソコン等を備えた情報室を中心とした地域情報や交流の拠点]	阪神北：宝塚市長尾台地区 淡路：南あわじ市(南淡町)阿万地区
パフォーマンスと活動の広場 [簡易ステージ等の活動フロアを中心とした地域パフォーマンスや交流の拠点]	西播磨：宍粟市(千種町)鷹巣地区 丹波：丹波市(春日町)黒井地区
地域まちかどギャラリー [展示設備を備えたギャラリーを中心とした活動発表や交流の拠点]	中播磨：姫路市太市地区
地域ふれあいキッチン・工房 [調理室や工房を中心とした創作活動や交流の拠点]	神戸：神戸市長田区重池地区 北播磨：八千代町大和地区 但馬：浜坂町久斗山地区 / 豊岡市奈佐地区

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (事業フレームの確立)

各県民局ごとに、県民参加のワークショップ、市町意見交換会の実施等を通じて、様々な立場の方々のご意見を集約しながら、平成16・17年度に実施しているモデル事業の検証・評価を行い、これを踏まえて、「参画と協働による地域コミュニティの再生・構築」という事業趣旨に合致し、地域の実情に柔軟に対応できる事業のしくみを検討します。

### (事業趣旨やイメージの普及啓発)

地域の実情は様々であり、それに伴う課題やニーズも多岐にわたっていることから、地域の主体的な企画提案を基本とし、これに柔軟に対応できる事業としていく必要があるとの意見が多く出されています。そのためには、まず地域の方々に、モデル事業の実例等を通じて、事業趣旨やイメージを理解いただくよう、積極的なPRに努めます。

### (継続的な活動への側面支援)

モデル事業での成果や課題を踏まえながら、各地域の継続的な広場運営や活動に向け、広場を支える人材の確保方策検討や広場と広場、広場とその支援者のネットワーク化、高齢者の地域づくり活動への参画推進等、側面的支援を検討・展開します。

## 活動をつなぎ、広げる

### 地域づくり活動応援(パワーアップ)事業(県民政策部)

#### 事業概要

地域団体(自治会、婦人会、老人クラブ、子ども会等)が提案する、地域をよりよくするさまざまな取り組みの企画に対して、県民局単位で助成します。〔助成金額1件あたり50万円以内(中間支援組織である広域団体等(市町域を越える地域団体の連合組織等)による取り組みや市町域を越える活動拠点への支援については、1件あたり100万円以内)各県民局1,000万円を限度とします。〕

なお、事業の実施にあたっては、より地域の主体的な取り組みを推進するため、県民局が、各地域における地域団体のネットワーク組織であるところ豊かな美しい地域推進会議(以下「地域推進会議」という。)に補助し、同会議が募集、助成決定、交流・報告会の開催等を行います。

#### 参画と協働の方法

##### 事業の広報・募集

###### 〔広報・募集〕

県・地域推進会議は、事業の正確な理解と県民の参加意識の向上を図るため、募集リーフレット等の作成・配布、広報誌等による広報。

###### 〔説明会〕

県・地域推進会議は、説明会を開催し、事業概要の説明、県民が事業を展開するにあたって活用できる県の支援メニューを紹介。

##### 県民からの事業の提案及び助成事業の決定

###### 〔事業の提案〕

県民は、取り組もうとする活動の概要をとりまとめ、その活動への助成を申請。

###### 〔相談〕

県は、県民の主体性を尊重しながら、提案された事業が実施できるよう、情報提供や活動拠点などさまざまな相談に**対応**。

###### 〔決定〕

地域推進会議は、提案発表会を開催し、助成する事業を決定。  
地域推進会議は、県民の主体性を尊重しながら、提案された事業に対して、さまざまなアドバイスを**実施**。

##### 県民主導の事業の実施

###### 〔事業の実施〕

県民は、県からの情報提供等さまざまな支援を活用しながら、多様な主体と連携し、提案した活動を**実践**。

###### 〔活動登録〕

県民は、それぞれが取り組む活動の内容、活動するうえで参考となるノウハウなどをひょうごボランティアプラザが運用する「地域づくり活動登録」に登録し、情報発信。

###### 〔助成〕

地域推進会議は、県民が取り組む活動の事業費を助成。

##### 活動ノウハウの共有

###### 〔交流・報告会の開催〕

県と地域推進会議は、県民が自らの事業を振り返り、次の展開に生かすことができるよう、また、事業を通じて得られたノウハウを広く共有できるよう、交流・報告会を開催するとともに、事例集を作成。

参画と協働の実施状況

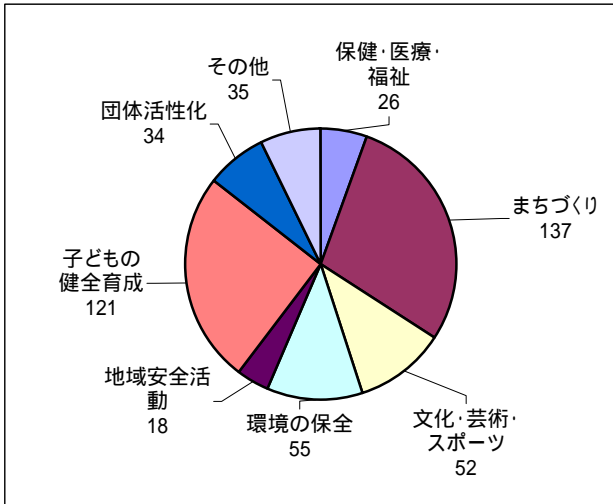
県民局ごとの助成状況

(単位：件、千円)

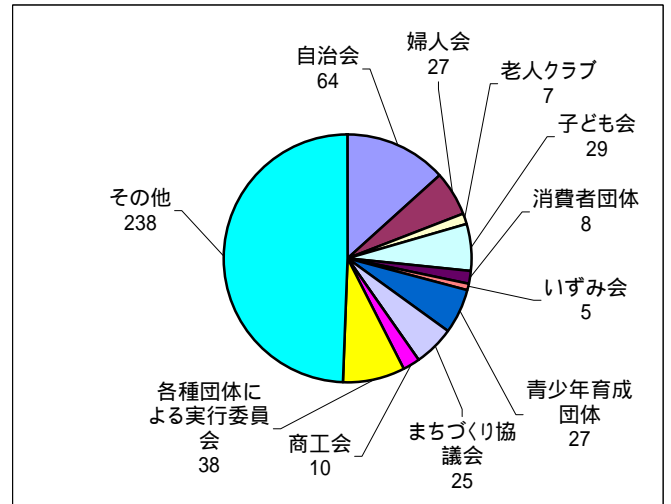
県民局名	申請 件数	助成 件数	助成額	成果及び活動例
神戸	49	48	9,870	<p>青少年の健全育成や安全・安心なまちづくりなど都市部特有の課題に加え、外国人との相互理解を図る事業など、神戸の地域特性に応じた事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病気や障害を抱える人、不登校や引きこもりの人などと共に生きる地域社会をめざしたフォーラム開催事業</li> <li>・国際理解を図るため、地域で暮らす留学生を生涯教育の場等へ派遣し、文化・歴史等について学ぶ事業</li> </ul>
阪神南	78	49	9,972	<p>都市部特有の課題を踏まえた取り組みや地域団体の活性化はもとより、親子・世代間・地域の交流をめざした事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人形劇の上演技術の向上を図り、親子で楽しむ人形劇の開催事業</li> <li>・「川サミット」を開催し、都市河川の自然保護を啓発するとともに、市民グループの役割について考える事業</li> </ul>
阪神北	63	48	10,000	<p>保健・福祉、文化、環境、まちづくりなど幅広い分野で、地域や世代を越えた交流を図る事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ゴミ堆肥化のためのコンポスト作成講習会を行い、家庭から出る生ゴミの減量化を促進する事業</li> <li>・「ありがとう」の文字で作成される芸術作品を普段は交流のない「高齢者」「障害者」「子どもから大人」が協働で作成することによる協働事業</li> </ul>
東播磨	57	54	9,537	<p>まちづくりや環境保全の取り組みについて、平成15年度助成事業の内容や地域を拡大・発展させた事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹炭を使用した河川の水質浄化の実施及びフォーラム・講習会の開催事業</li> <li>・地域伝わる「わらべうた」を収集・CD化し、幼稚園・老人ホーム等に配布する事業</li> </ul>
北播磨	66	61	9,950	<p>子育て支援、青少年の健全育成、昔遊びによるまちづくりなど多彩な地域課題に応じた事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生にビジネスの模擬体験をさせる経済教育事業</li> <li>・JR加古川線の電化開通を記念したイベント及び乗車促進キャンペーン事業</li> </ul>
中播磨	57	47	10,000	<p>市部、郡部それぞれの地域課題に応じ、歴史や自然を生かした事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城下町として賑わった地域の歴史探訪や町づくり講座の開催、史跡説明版設置等による歴史を生かしたまちづくり事業</li> <li>・小学校の廃校跡の活用方法について、地域住民が交流しながら検討するとともに、地域行事や観光資源を活用し地域の活性化を図る事業</li> </ul>
西播磨	39	38	9,750	<p>地域の自然・文化・伝統等の地域資源を活用した多彩な事業が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業などの体験を経て郷土料理の講習を行い、子どもたちに地元産食材のすばらしさの理解を促す事業</li> <li>・演奏機会の少ない町の音楽家や高校生、大学生等が相互に協力し、町を挙げて実施する音楽祭開催事業</li> </ul>
但馬	62	54	9,690	<p>豊かな自然環境の保全や伝統文化等の地域資源を活用した地域づくり活動が展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空家を利用した修理体験や交流イベントによるコミュニティ形成事業</li> <li>・重要有形民俗文化財である農村舞台における農村歌舞伎の練習、公演を通じた村づくり事業</li> </ul>
丹波	47	42	9,510	<p>都市と農村の交流をはじめ、森林や河川等の自然を活用した交流基盤の形成を図る事業が多く展開された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放置されている湧き水を再生し、「湧き水を再生した森遊びの砦」として整備する事業</li> <li>・農産物の生育・収穫体験と交流イベントによる都市・農村交流事業</li> </ul>

淡路	42	37	9,989	子育て支援、障害者福祉、環境保全等の多彩な分野で、他の地域のモデルとなり得る事業が展開された。 ・空ペットボトルの活用など環境面も考慮して市街地をライトアップする街の装飾事業 ・地域文化である人形浄瑠璃、雑俳等を集大成した記念誌の発行と住民への普及・交流事業
合計	560	478	98,268	

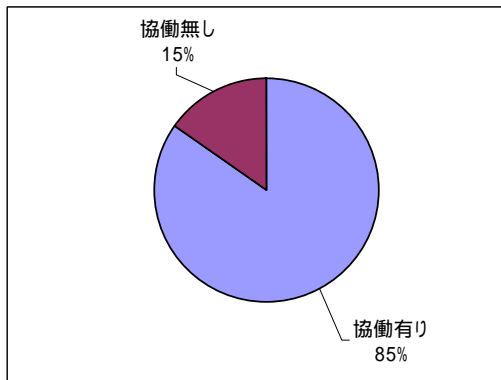
助成した団体の活動分野別内訳 (団体数)



助成した団体の属性別内訳 (団体数)



助成した団体の協働の状況



助成した団体の活動内容の内訳

活動内容の区分	平成15年度(初年度)		平成16年度	
	団体数	構成比(%)	団体数	構成比(%)
新たな取り組み(他の団体との協働の場合を含む)	277	54.7	129	27.0
平成15年度助成事業のさらなる展開を図る事業			151	31.6
平成14年度以前から実施している活動に新たな工夫を加えた事業	219	43.3	198	41.4
中断していた活動をパワーアップ事業を契機に復活した取り組み	10	2.0		
合計	506	100.0	478	100.0

広域活動枠事業の状況

地域	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	計
件数	11	2	2	0	2	4	3	5	5	3	37

(団体数)

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (広域的な活動への支援)

平成15年度に開始した本事業が、地域の課題を自ら見つけ出し、自ら解決しようとする活動の一つの契機となりました。

このため、「地域づくり活動支援指針」において、地域づくり活動の支援にあたっての県の役割は、広域課題への対応を基本とし中間支援組織である広域団体への支援を図ることとしており、このような考え方に基づいて、「広域活動枠」を創設し、助成限度額を優遇しましたが、助成件数は37件(7.7%)にとどまりました。

今後は、地域づくり活動サポーターによる指導・助言を行うことにより広域活動枠の活用を促進するなど、広域的な活動への支援を進めていくこととします。

### (ネットワーク化への支援)

協働の取り組みの多くは地域団体相互の協働による取り組みでしたが、地域団体がグループやNPOと協働した取り組みや地域団体が各種専門家と協働した取り組みなど今までになかったネットワークづくりも多く見受けられました。

今後、地域団体とグループ、NPO、企業といった多様な団体による協働の取り組みが、一層多彩に展開されて、ネットワーク化による効果が図られるよう、地域づくり活動サポーターによる相談・助言等の支援を展開していきます。

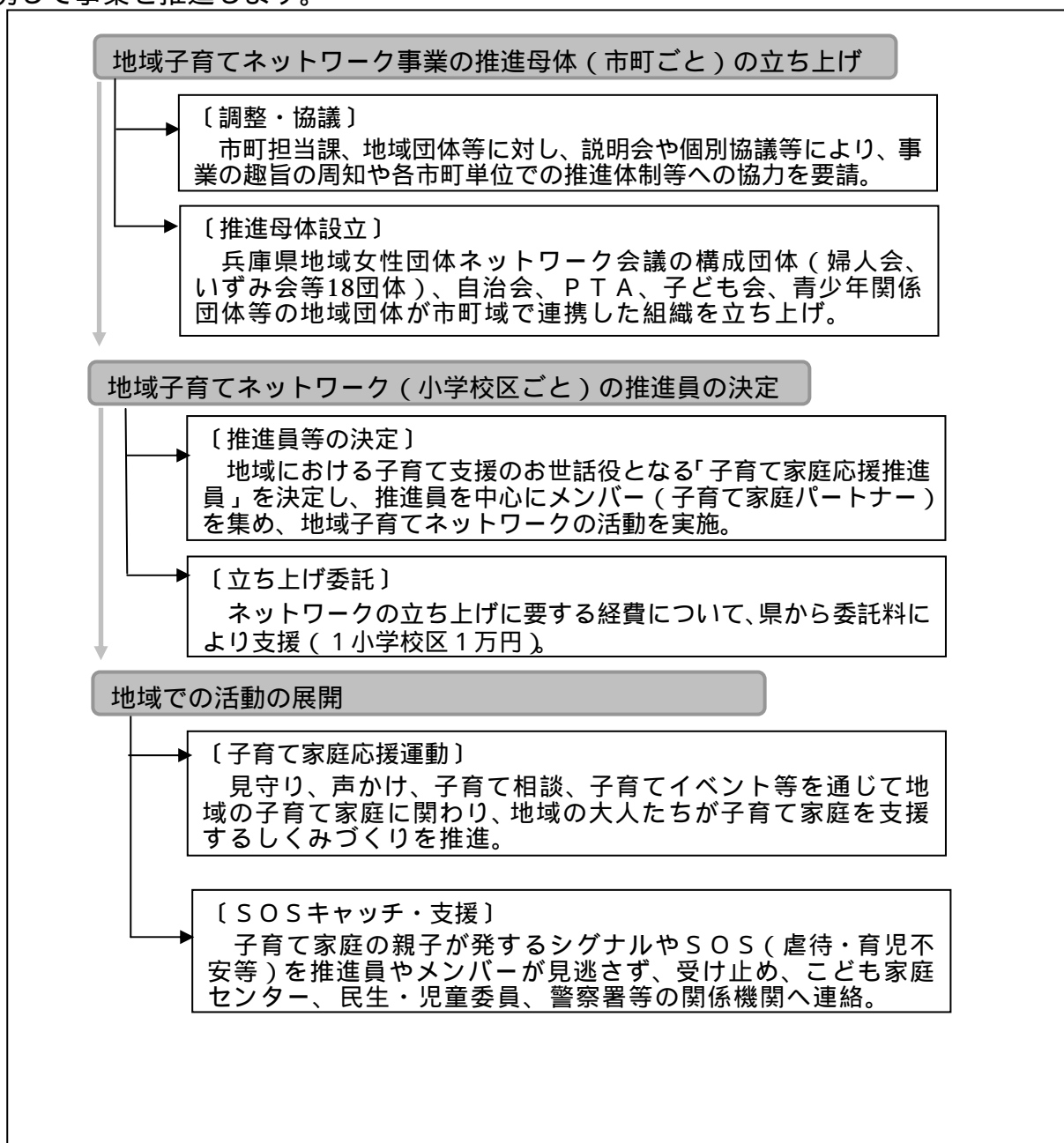
## '子育て応援ネット'(地域子育てネットワーク事業)(新)(県民政策部)

### 事業概要

地域を舞台に、県民、団体、事業者等が協働して、地域ぐるみで子育て家庭を応援する環境をつくるため、地域の団体や住民がネットワークを組み、子育て家庭への見守りや声かけ、子育て相談などを行う子育て家庭応援運動を展開するとともに、その中で、虐待や問題行動等のシグナルやSOSを見逃さずにキャッチし、関係機関に連絡すること等の子育て家庭応援の活動を全県的に推進します。

### 参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルに、兵庫県(県民政策部、県民局)市町、地域団体等が連携して事業を推進します。



## 参画と協働の実施状況

### 地域子育てネットワークの設立状況

身近な地域を舞台に、兵庫県地域女性団体ネットワーク会議の構成団体（婦人会、消費者団体、いずみ会などの18団体〔下表参照〕）、自治会、子ども会、青少年関係団体、PTA等の地域の団体などがネットワークを組み、子育て家庭を支援しています。

平成17年3月末現在、下記の38市町で489のネットワークが立ち上がり、活動が展開されています。

神戸市、尼崎市、芦屋市、宝塚市、川西市、猪名川町、高砂市、稲美町、播磨町、西脇市、小野市、社町、滝野町、東条町、中町、加美町、姫路市、家島町、夢前町、神崎町、市川町、福崎町、香寺町、大河内町、赤穂市、新宮町、揖保川町、上郡町、竹野町、香住町、美方町、浜坂町、温泉町、朝来町、篠山市、丹波市、東浦町、南あわじ市

### 兵庫県地域女性団体ネットワーク会議（18団体で構成）

兵庫県連合婦人会、神戸市婦人団体協議会（神戸市消費者協会）、兵庫県消費者団体連絡協議会、兵庫県生活学校連絡会、兵庫県交通安全協会婦人部連絡協議会、兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会、兵庫県いずみ会、兵庫県愛育連合会、兵庫県民生委員児童委員連合会、兵庫県更生保護女性連盟、兵庫県老人クラブ連合会、兵庫県婦人共励会、神戸市母子福祉たちばな会、兵庫県商工会女性部連合会、兵庫県J A女性協議会、兵庫県生活研究グループ連絡協議会、兵庫県女性農漁業士会、兵庫県漁協女性部連合会

### 推進員等の状況

平成17年3月末現在、子育て家庭応援推進員として、950人の方にネットワークのお世話役となっていただき、メンバー（子育て家庭パートナー）を集め、活動していただいています。

### 取り組み例

各地の推進母体では、平素から子育て家庭に対する見守り、声かけ、子育て相談などを行うとともに、地域の実情に応じた特色ある取り組みを行っています。

（16年度の取り組み例）

- ・ 自宅等に「子育て家庭応援運動ステッカー」を掲示するとともに、子育てに関する事業や関係機関を紹介する「子育て家庭応援手帳」や子育て支援に役立つ情報を盛り込んだ「地域子育てネットワークだより」（月1回発行）を活用し、子育て家庭への情報提供や相談への対応
- ・ 登校時に子どもたちに声をかけるおはよう運動の実施
- ・ 親子で参加する料理教室やおにぎりコンクール、人形劇などの子育てイベントの実施
- ・ 小中学校のオープンスクールへの参加
- ・ 登下校時に子どもたちを見守るパトロールの実施
- ・ 子育てのチラシの各戸配布やポスターの掲示

等

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (全市町でのネットワークの立ち上げ)

平成16年度に引き続き、市町や地域団体等との調整を行い、県内全市町全小学校区でのネットワークの立ち上げを進めていきます。

### (参加団体や参加者を増やし、裾野の拡大)

推進母体は、地域の状況に応じ、様々な地域団体等が連携した形となっています。

今後、その参加団体や参加者等を増やし、活動の裾野を拡げ、子育て家庭への支援の輪が一層大きくなるよう、市町や推進母体等との連携を進めていきます。

### (活動の地域への定着)

16年度から各地で始まりつつあるネットワークの取り組みを、より地域に根ざしたものとする必要があることから、県の広報媒体等を活用し、各地域のネットワークの活動状況等の積極的なPRを進め、事業の趣旨をより多くの県民に広めていきます。

また、引き続き、活動の一層の広がりや活発化を図っていくため、「地域子育てネットワークだより」や「子育て家庭応援手帳」を充実させ、作成・配布していきます。

### (活動の一層の展開)

市町ごとに、地域の実情に応じたネットワークの取り組みが進んでいる状況を踏まえ、すでに立ち上がっている推進母体等の子育て家庭の応援活動について、今後、一層の展開が図られるよう、推進母体(地域団体等)市町への働きかけを行っていきます。

また、子育て支援者間の交流、情報交換や研修等を一層図っていく必要があることから、各地域でネットワーク交流大会等を開催します。

さらに、立ち上がったネットワークの活動が、地域に定着し、将来にわたって継続した取り組みへと発展していくよう、活動経費に対する助成を行います。

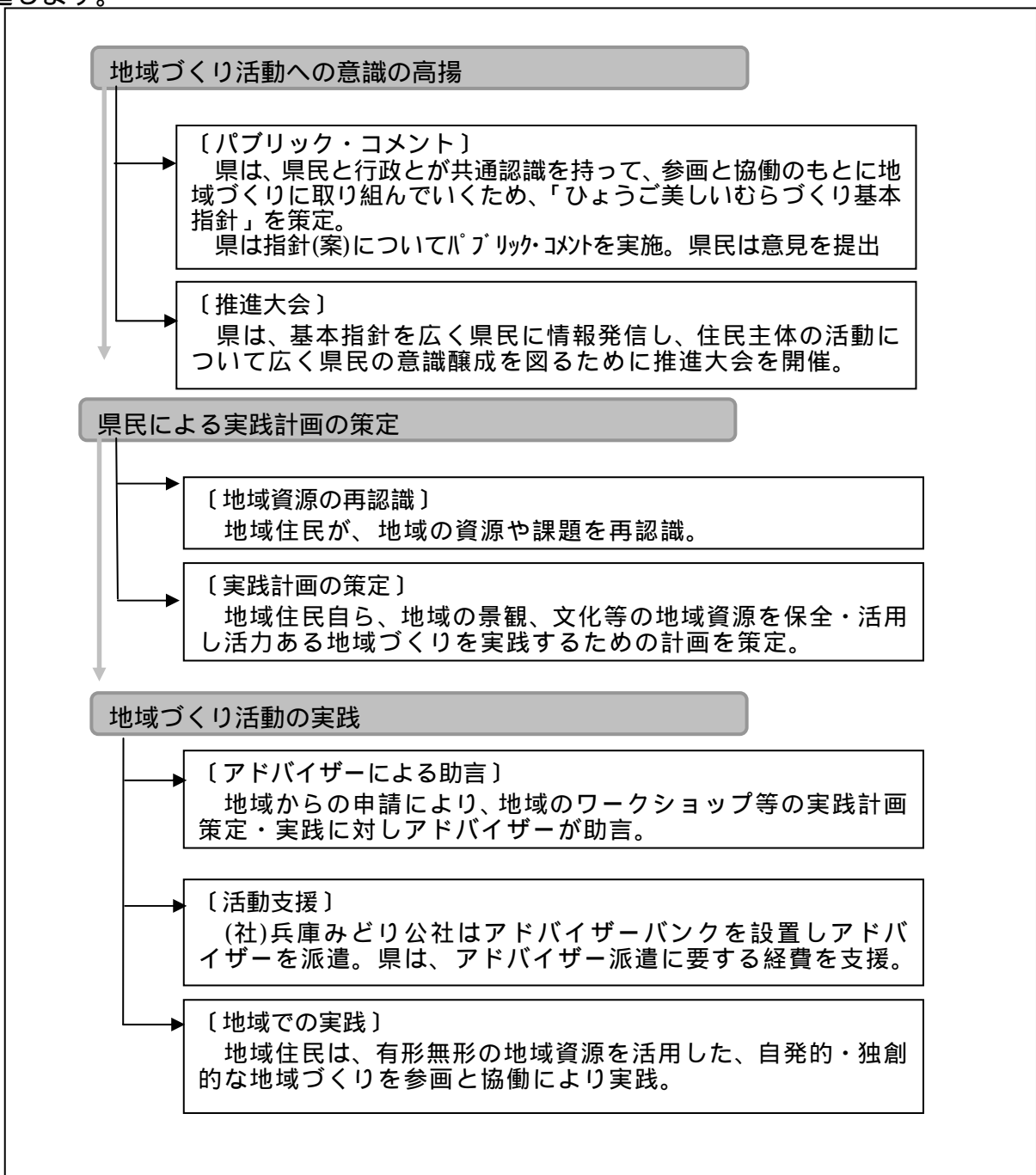
## ひょうご美しいむらづくり推進事業(新) (農林水産部)

### 事業概要

本県の多様な地域特性や多彩な地域資源を再認識し、住民が主体となり地域固有の美しい景観や伝統的文化等を活用した魅力ある地域づくりを全県的に展開し、愛着と誇りを持った活力ある農山漁村づくりを推進します。

### 参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルに、兵庫県(農林水産部、農林(水産)振興事務所、農業改良普及センター、土地改良事務所)及び(社)兵庫みどり公社が連携して事業を推進します。



## 参画と協働の実施状況

### 推進大会の開催

地域資源を活用した住民主体の地域づくりを広く県民に周知し、取り組みについて動機づける「推進大会」を農山漁村集落代表、地域活動リーダー、行政関係者等640名の参加により開催しました。

### アドバイザー登録数、実践活動実施集落数等（H17.3.31現在）

地域の実践活動への助言のため、住民から申請のあった29集落に対してアドバイザーを派遣し、ワークショップの開催等、各集落の取り組み状況に応じた助言活動を行いました。

実践集落では、地域を再点検し地域の魅力を再発見するもの、地域内のため池などの水辺空間の活用を図るもの、自然再生への取り組みとしての地域景観づくり、環境にやさしい営農の推進など、地域の特色を生かした取り組みが住民主体により展開されました。

項目	実績
実践活動実施集落数	29集落
アドバイザー登録数	45人



（推進大会の開催）



（実践活動でのアドバイザー助言）

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （地域に対する普及啓発の継続）

住民の参画と協働による地域資源を活用した地域づくりの意義を積極的に啓発し、住民主体の取り組みを全県的に展開していきます。

平成16年度は29集落にアドバイザーを派遣しましたが、取り組みが県下各地に広がるよう各種広報媒体による啓発のほか、地域との積極的な連絡・相談等により、新たな集落が実践を開始するよう住民の意識を高めていきます。

また、多様な地域の要望に対応するためアドバイザーの充実など地域支援体制の充実を図ります。

### （実践活動の向上・拡大へのしくみづくり）

地域づくり活動の継続的、発展的実践のため、実践計画の点検や地域のめざす姿のチェックを住民自らが継続的に行い、取り組み内容の向上を図ります。

住民自らが描く地域のめざす姿に対し、必要に応じ関連施策を実施するなど行政も支援を行います。

実践地区の意識の高揚や、内容の向上に繋げる活動発表の場の創設や、情報発信による他地域との連携について検討していきます。

## 阪神・淡路大震災 10 周年記念事業の推進（企画管理部）

### 事業概要

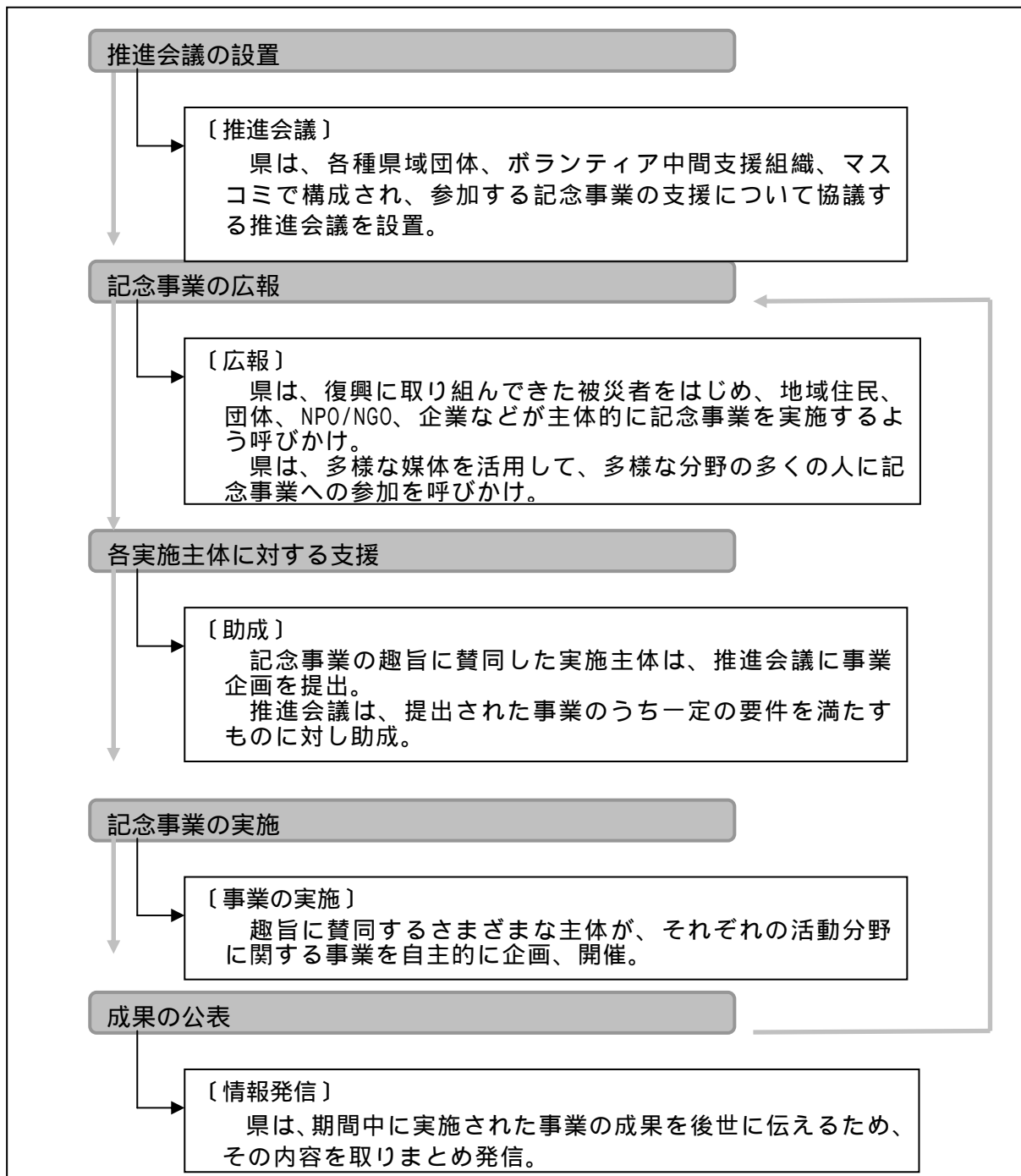
阪神・淡路大震災から 10 年の節目を迎え、これまでの創造的復興の歩みを振り返り、その成果を確認し、支援や励ましへの感謝の気持ちを表すとともに、未来へのステップを踏み出すため、被災地が一体となって、阪神・淡路大震災 10 周年記念事業を展開します。

テーマ：「1.17 は忘れない」

開催期間：平成 16 年 4 月～平成 18 年 3 月

開催場所：原則として、被災地内（12 市 1 町）

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### 推進会議の開催状況

	開催日	協議内容
設立総会	平成15年12月11日 (木)	推進会議規約決定、役員選出、記念事業開催の意義と事業内容、記念事業の推進方針
第2回総会	平成16年3月26日 (金)	阪神・淡路大震災10周年記念事業実施計画、平成16年度事業計画、平成16年度収支予算
第3回総会	平成17年3月28日 (月)	平成16年度事業報告、平成16年度補正予算 平成17年度事業計画、平成17年度収支予算

### 記念事業数（平成17年3月末現在）

#### （助成事業）

共同企画事業：県・関係県民局・被災市町が参画する実行委員会が実施する事業

自主企画事業：各種団体・グループ・NPO/NGO等が自主的に企画、開催する事業

#### （届出事業）

記念事業の趣旨に賛同し、実施を届け出た各種団体による事業

	共同企画事業	自主企画事業	その他届出事業	合計
神戸市	157	349	108	614
阪神南地域	34	52	69	155
阪神北地域	6	19	8	33
東播磨地域	8	7	5	20
北播磨地域	2	4	0	6
淡路地域	23	5	25	53
その他	11	18	21	50
合計	241	454	236	931

### 助成状況

助成予定件数 695件

助成予算総額 約1,900百万円（2ヶ年度）

### 各事業の内容・実施報告について発信

パンフレット・ポスターの作成

広報資材等の作成

「記念事業かわら版」の作成

インターネットを活用した情報発信 等

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

事業趣旨が浸透し、県民主体の自主企画事業が65%を占めるといった成果があったので、引き続き記念事業への参画を呼びかける。

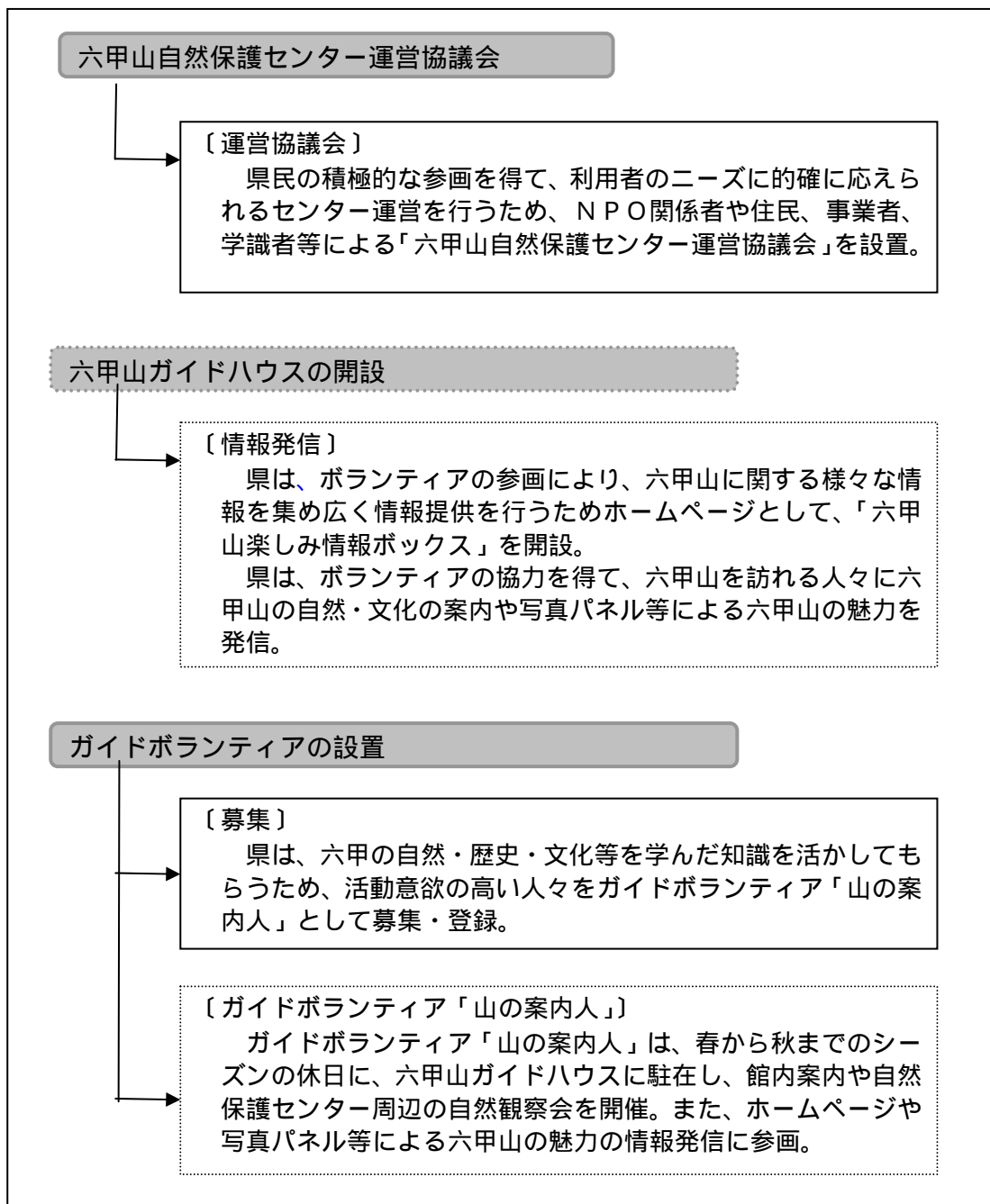
## 六甲山自然保護センターの機能強化(六甲山活性化の推進) (神戸県民局)

### 事業概要

多様な地域資源を横断的に活かし、六甲山を人と自然との共生のシンボルとして、環境の保全と創造のもとで、都市と農村が交流した神戸らしい循環社会と賑わいのある都市生活の実現を推進します。そこで、六甲山自然保護センターが六甲山の活動拠点、情報発信拠点となるよう機能強化を図ります。

### 参画と協働の方法

都市に近接し交通至便の地ながら豊かな自然に恵まれている六甲山の活性化に資するよう、インフォメーション機能を持つ「六甲山ガイドハウス」を開設します。あわせて、県民の主体的な参画を得て、公園利用者への案内や自然観察会、六甲山に関する様々な情報の提供等を行うなど、同センターの機能強化を図ります。



## 参画と協働の実施状況

県立六甲山自然保護センター分館として、六甲山のインフォメーションセンター機能を持つ六甲山ガイドハウスを平成17年4月29日にオープンすることとし、オープン後の施設が積極的に県民に活用いただけるよう次の取り組み等を行いました。

### 六甲山ガイドハウスの開設準備

六甲山ガイドハウスでは、春から秋までのシーズンの休日に、ガイドボランティア「山の案内人」が駐在し、施設の案内や自然保護センター周辺の自然観察会を実施するほか、ホームページや写真パネル等によって六甲山の魅力の情報発信を行うこととしました。

### 「六甲山自然保護センター運営協議会」の設置

県立六甲山自然保護センターに関し、県民の主体的な参画を得て、六甲山の活性化に資するよう有効かつ円滑な運営を図るため、NPO関係者、住民、事業者、学識者等による「六甲山自然保護センター運営協議会」を設置しました。

第1回運営協議会 開催日：平成17年2月10日

委員：16人

### ガイドボランティア「山の案内人」の募集

六甲の自然・歴史・文化等を学んだ知識を活かしてもらうため、活動意欲の高い人々を募集・登録し、ガイドボランティア「山の案内人」として、館内案内をはじめとした案内や自然観察会を行ってもらうこととしました。

登録人数：57人

### 「六甲山楽しみ情報ボックス」の開設

ボランティアの参画により、六甲山に関する様々な情報を集め広く情報提供を行うためホームページとして、「六甲山楽しみ情報ボックス」を開設しました。

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (取り組みの継続に向けた支援)

六甲山自然保護センター及び六甲山ガイドハウスの運営方針については、設置主体である兵庫県に加え、関係行政機関、住民、活動団体、事業者、学識経験者で構成する「六甲山自然保護センター運営協議会」において協議されるなど、様々な主体が一体となって取り組む体制が整備されたことが画期的でした。そこで、平成17年度においては、この協議会を活用して、運営方法についての様々な提案を受け、さらに利用者の立場に立った運営を進めます。

また、活動意欲の高い人々からなる「山の案内人」については、六甲山ガイドハウスに駐在し、案内や自然観察会を実施するなど、県立六甲山自然保護センターのビジターセンター機能の充実に大きな役割を果たしていただきます。

こうした取り組みを通じて六甲山活性化に向けた県民の主体的な取り組みをさらに進めていきます。

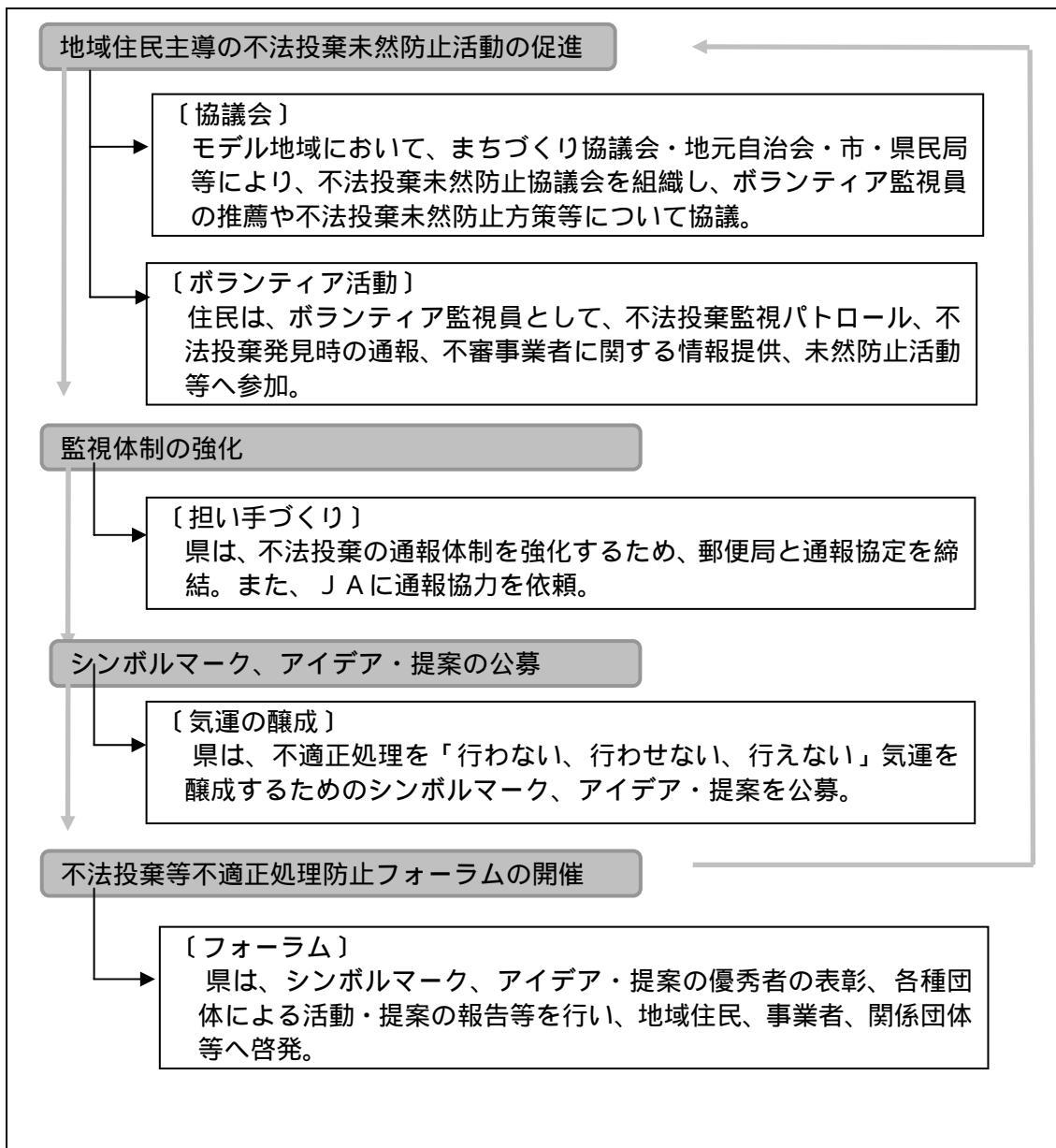
## 地域環境力の向上による廃棄物不適正処理未然防止対策の推進（阪神北県民局）

### 事業概要

阪神北地域は都市近郊の自然に恵まれているものの、大都市圏の後背地に位置していることから、廃棄物の不適正処理事案が多発しており、その未然防止対策の強化が求められています。そのため、地域住民、企業、NPO等の様々な主体が一体となって「地域環境力」を高め、廃棄物不適正処理の未然防止に取り組みます。

地域環境力：地域全体でより良い環境を創造しようと取り組む意識や能力

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### 地域住民主導の未然防止活動の促進

宝塚市西谷地区をモデル地域として、「宝塚市西谷地区不法投棄未然防止協議会」を立ち上げました。

(活動内容)

- 協議会、地域住民による合同パトロール
- 住民ボランティア監視員の登録
- 不法投棄防止啓発看板、不法投棄防止フェンス等の設置



(合同パトロール)

### 郵便局、JAとの通報体制の整備

外務職員が配達途上などで不法投棄を発見した場合に県に情報提供をいただきました。

### シンボルマーク等の応募状況

- ・シンボルマークの応募数 308件
- ・不法投棄防止のためのアイデア・提案件数 39件

### 不法投棄未然防止フォーラムの開催

県民、廃棄物処理業者等250名の参加のもと、不法投棄未然防止フォーラムを開催しました。公募したシンボルマークなどの優秀作品の表彰、廃棄物処理対策の事例発表、廃棄物処理対策に関する演劇や講演を行いました。



(フォーラムの開催状況)



(シンボルマーク最優秀賞作品)

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(活動の地域への定着)

モデル地域において、住民によるパトロールやハイキングを楽しみながらごみ拾いを行うクリーンハイキングなどを行い、不法投棄未然防止活動の地域への定着を図ります。また、クリーンハイキングには都市域の住民の参加を呼びかけ、より多くの県民の不

法投棄未然防止活動への意識が高まるよう努めます。

（活動の地域の拡大）

モデル事業地域の活動をふまえ、その成果や課題を生かしながら地域住民の活動支援地域を拡大します。

さらに、住民だけではなく、廃棄物処理業者や建設業者からの不法投棄物除去機材の提供や、企業の住民パトロールへの参加などの事業者の地域活動への参画を促し、地域全体としての廃棄物不適正処理未然防止活動を促進します。



## 参画と協働の実施状況

### いなみ野パールプロジェクト

東播磨地域の固有種・ドブガイによる淡水真珠 いなみ野パールづくりの可能性を探るもので、行政とため池管理者・地域住民が力をあわせて放流・メンテナンスを行いながら実証実験を続けています。

- ・実施場所：西中下の池（加古川市） 阿弥陀新池（高砂市） 琴池新池（稲美町） 大池（播磨町）

### 「ため池協議会」の設置・運営支援

ため池管理者や地域住民が、各ため池などの維持管理・利活用に主体的・自律的に取り組んでいくための組織である『ため池協議会』を設置・運営するため、瓦版づくり、アンケート、地域集会、研修会、ワークショップ、イベントなどの取り組みを地域主導・住民主役で展開しています。

- ・ため池協議会設立（29）：【明石市】釜谷池ため池協議会、西島ため池協議会、黒星池ため池協議会 【加古川市】峠池を考える会、寺田池を語る会、寺田池協議会、野田池なかよしの会、神野21C水辺リフレッシュ推進協議会、野村池友の会、西牧ため池協議会、ながいけの会、皿池の未来を考える会、志方ノ上・中・下の池ミュージアム協議会、レイボープラン水足ため池に親しむ会 【高砂市】堂池ため池協議会、阿弥陀新池ため池協議会、魚橋鴻ノ池ため池協議会、私池ため池協議会 【稲美町】アサザを育む会、内ヶ池ため池協議会、和田新池公園協議会、梶ヶ池ため池協議会、おにおいたため池協議会、竜ヶ池につどう会、葡萄園池ため池協議会、後池・天井池につどう会、加古の池を愛する会、琴池を愛する会 【播磨町】かがやきの北池コミュニティ

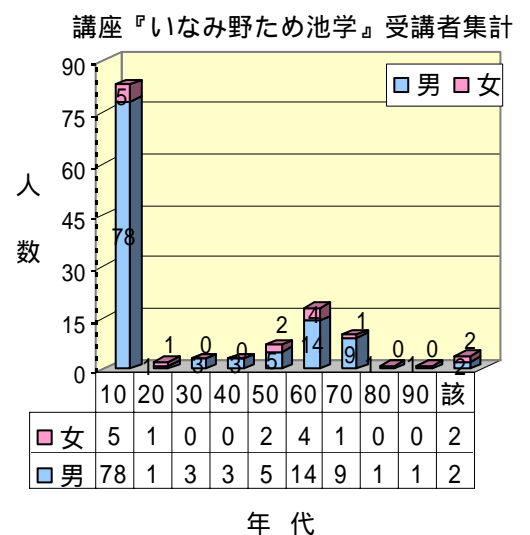
### 講座『いなみ野ため池学』第2期の開設

ミュージアムに関連する各分野での専門的人材の発掘・育成を図るため、水辺を活かしたまちづくり講座を兵庫大学の正規カリキュラムとして開設しました。

- ・開設場所：兵庫大学
- ・内容：座学11回、フィールドワーク1回
- ・参加者：一般聴講生72名(高校生23名)、兵庫大学生60名

計132名

(一般聴講生のうち修了者：57名)



## 『いなみ野ため池塾（仮称）』試行

講座『いなみ野ため池学』第1期の受講生に、フィールドワークを中心としたプログラムを提供。約50名が自ら設定した課題研究に取り組み、ミュージアム活動推進の核となる“塾”設立をめざした新たな芽が誕生しました。

## 草の根講座の開設

管内の各市町で、市民グループ等が主催するため池を学ぶ、7つの“連続講座”（延べ約50講座）が開設され、延べ約2,000名が受講しました。

講座名	実施主体（主なもの）	特 色
水辺の達人養成講座	水辺に学ぶプロジェクト	全般（フィールドワーク中心）
あかし楽講座	明石の自然とまちづくりネット	自然環境（座学中心）
ため池楽校「水質管理セミナー」	播磨町消費者協会	水質（座学中心）
水質サークル隊	播磨町水利組合連絡協議会	水質（フィールドワーク中心）
いなみ野ため池楽校	播磨環境ボランティアサークル	自然環境（中・高生対象）
あかし・ため池楽校	スポーツクラブ 21 大久保南	自然環境（小学生対象）
くらしと自然の関わりを考える	加古川北公民館	全般

## 水辺の魅力・再発見リレーイベント～いなみ野ため池ミュージアムの創設をめざして～の開催

ため池などの水辺空間を地域みんなで守り育てていく気運を高めるとともに、『いなみ野ため池ミュージアム』創設に向けた活動の輪を大きく広げていくため、毎週末に東播磨地域のどこかの水辺空間において地域主導・住民主役の個性的なイベントを開催しました。

- ・実施回数：104回
- ・開催場所：603のため池を中心とした東播磨地域の水辺空間
- ・参加者数：約10,000人

### （地域別開催状況）

地 域	合計
明石市	23
加古川市	33
高砂市	15
稲美町	25
播磨町	15
その他	8
合 計	119

### （内容別実施状況）

項 目	回数
ウォーキング	8
自然観察	29
文化学習	8
フォーラム	7
ふれあい交流	11
クリーンキャンペーン	24
その他	17
合 計	104

（複数市町で同時開催した場合は、重複して計上）

## ホームページの運営・管理

平成15年度に開設したホームページ『ため池王国・東播磨の挑戦～新たな地域づくり「いなみ野ため池ミュージアム」の創設をめざして』の運営管理を行うとともに、将来の「いなみ野ため池ミュージアム・パルチャル博物館（仮称）」を見据えながら質的な充実を図りました。平成

17年3月31日現在、19,140人が閲覧されました。

#### ため池 魅力・イメージアップ 事業の展開

東播磨に位置するため池や水路等の魅力・イメージアップを図るとともに、それを地域内外に広くアピールするため、「いなみ野ため池ミュージアム」や「ため池や水路」などのシンボルマーク 利活用アイデア 写真を広く内外に募集しました。

項目	応募状況
みんなで進めよう～“いなみ野ため池ミュージアム”シンボルマーク募集	95点(うちジャンル78点)
もっと愛され親しまれる“ため池活用術”アイデア募集	44点(うちジャンル30点)
バーチャルミュージアム/“ため池自慢”フォトギャラリー・展示作品募集	19人29点

地域の水辺空間を活用した多様な活動を“地域主導・住民主役”で行うことにより、地域のため池等の価値や魅力を再発見し、地域への愛着や誇りが生まれつつあるとともに、伝統文化の継承と新しい文化の創造ができています。また、地域住民の郷土意識や連帯意識の高揚により、地域の活力をうみだすことにつながっています。

東播磨地域のみならず、隣接する地域、県内各地・他府県の住民の参加も多く、地場産業振興や観光客誘致など経済的波及効果がみられます。

また、マスメディアに頻繁に取りあげられ、地域の知名度・イメージアップに貢献しています。近隣府県からの視察も多く、地域づくりの取り組み例として注目されています。

#### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(持続的発展可能な活動のための支援)

今回のプロジェクトをきっかけとして、個々のため池における「協議会」に象徴されるように、地域のため池を次代によりすばらしい姿で引き継いでいこうとする団体や、水辺の保全・活用に係る研究や実践活動を広域的に繰り広げていこうとするグループが生まれたり、清掃活動や花壇づくりなど、魅力ある地域づくりをめざす取り組みが始まった地域も数多くあります。地域全体ではミュージアム創設の機運がおおいに高まっていますが、地域によって熟度の差が見られます。

このような状況を踏まえ、多様な主体のネットワーク化を図り、いなみ野ため池ミュージアム創設の地域の中心的な役割を担うグループが自律的・主体的に活動を展開できるよう、住民主役・地域主導かつ、持続的発展可能な運営組織づくりと、それを担う人材の育成に、今後も力を注いでいきます。

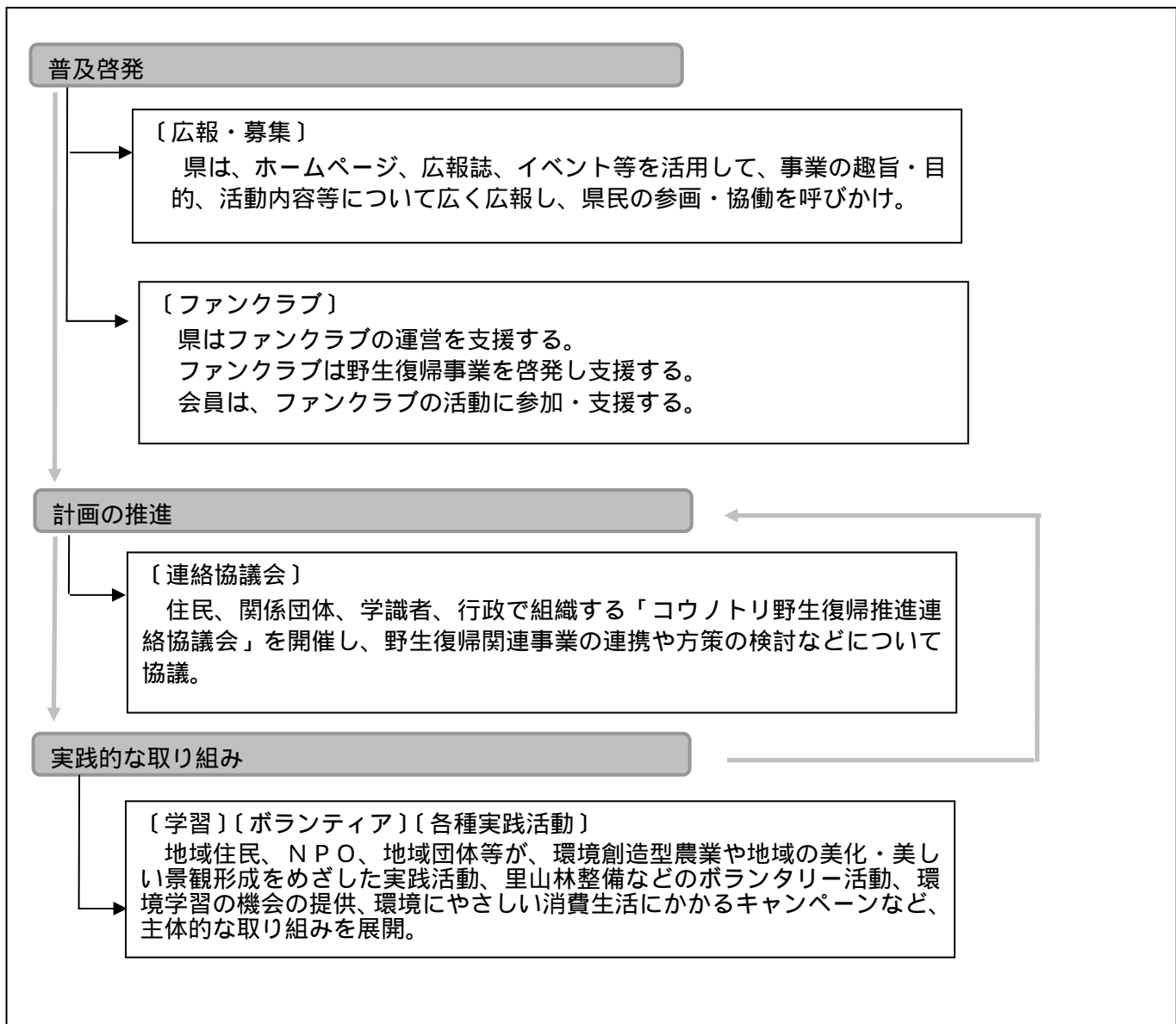
## コウノトリと共生する地域づくりの推進（但馬県民局）

### 事業概要

昭和46年に、国内の野生コウノトリが但馬地域を最後に姿を消して以来、30余年が経過する中、地域あげでの保護・増殖の取り組みにより、現在、県立コウノトリの郷公園において100羽を超えるコウノトリを飼育するに至っています。

このような状況下、平成17年9月の自然放鳥に始まるコウノトリの野生復帰に向け、平成15年3月に「コウノトリ野生復帰推進計画」を策定し、平成15年7月には、この計画の具体の推進に向けて、住民、関係団体、学識者、国・県・市町の行政で組織する「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を設置し、コウノトリと共生する地域づくりを推進します。

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### (1) コウノトリ野生復帰推進連絡協議会の開催状況

- ・住民、関係団体、学識者、行政で組織する「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を開催し、野生復帰関連事業の連携や方策の検討などについて官民協働による事業の総合的な推進を図っています。

時期	内容
平成16年9月	「第3回コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」開催
平成17年3月	「第4回コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」開催

- ・コウノトリの野生復帰の取り組みに、より県民の理解を得るため、「コウノトリ野生復帰推進連絡協議会」を公開し議事概要をHPに掲載しています。
- ・関係団体の具体的事業・活動を「コウノトリ野生復帰推進事業・活動一覧」としてとりまとめ、住民の参画と協働によるコウノトリと共生する地域づくりの普及啓発に努めました。

### (2) コウノトリファンクラブの設立

- ・コウノトリの野生復帰の取り組みに地域内外の理解と参加を得るため、平成16年12月にコウノトリファンクラブを設立し、会員を募集しました。
- ・平成17年3月末会員数  
一般会員 648人 賛助会員33人

### (3) 住民参加による具体的な取り組み

	内容	実施時期、実施回数	参加者数
転作田のビオトープ化・常時湛水稻作等環境創造型農業の推進	野生復帰を推進する上で大きな課題は、餌場の確保である。農家の理解と協力を得て、転作田のビオトープ化や常時湛水稻作、有機栽培農法等の環境創造型農業の促進を図り田園の餌場としての機能を確保している。	H15 7.9ha	94人
		H16 12.8ha	94人
ボランティアによる里山林整備	かつてのコウノトリの営巣地において営巣木を再生するため、森林ボランティアによる林間歩道・松林等を整備している。	H15 5回 H16 6回	177人 149人
花いっぱい事業	コウノトリの郷公園周辺の地域住民が主体となって「花のあるまちづくり」を進め美しい風景、生活環境の整備を図っている。	H15 4ヶ H16 4ヶ	156人 156人
クリーン但馬5万人大作戦	地域住民がより一層クリーンなまちづくりについて意識を高め、但馬をアメニティに富んだ地域とするため、毎年、但馬全域の住民が参加する美化活動「クリーン但馬5万人大作戦」を実施している。	H15 36日 H16 38日	H15 69千人 H16 68千人
田んぼの学校等	NPOのコウノトリ市民研究所では、生き物調査を通じて子供たちの環境に対する意識を高め、自分たちの生活環境を見直す、田んぼの学校等を実施している。	H15 12回 H16 12回	H15 1000人 H16 1000人
環境にやさしい消費生活の促進	但馬地区消費者団体連絡協議会では、「環境にやさしい消費生活」を推進するため買い物袋持参運動をはじめとする「環境にやさしい買い物運動キャンペーン」を実施している。	H15 5回 H16 5回	H15 1134人 H16 953人

平成16年度は、台風23号の影響により里山林整備などで参加人員が減少しました。

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （参加の促進）

各団体の取り組みやコウノトリファンクラブの設立により、コウノトリと共生する地域づくりの取り組みに理解と参加が得られつつあります。

9月の自然放鳥に始まるコウノトリの野生復帰に向けて、餌場の確保となる水田のビオトープ化・常時湛水稻作等の環境創造型農業や河川の自然再生、また、営巣木確保のための里山林整備の推進、放鳥後のコウノトリのモニタリングなどについて、より多くの人々の理解と参加が必要となります。

今後、コウノトリ野生復帰推進連絡協議会を中心に関係団体や行政等の連携、また、愛知万博等への出展、コウノトリファンクラブの会員拡大等により事業への理解と参加を促します。

### （主体的活動への支援）

住民の多様な取り組みに対応するため、主体的活動への支援の方法を検討していく必要があります。

### （コウノトリファンクラブ事業の推進）

平成17年9月の自然放鳥に始まるコウノトリの野生復帰に向けた取り組みを地域住民と行政が一体となって進めているところですが、これらの取り組みの一層の推進を図るため、地域内外の人々に理解と参加を得るためのコウノトリファンクラブ事業を推進します。

## あわじ菜の花エコプロジェクトの推進（淡路県民局）

### 事業概要

淡路花博の開催により形成された「花と緑の島」としてのイメージのもと、休耕田や棚田等に菜の花を栽培し、観光資源として活用したうえで、菜の花から菜種油を精製して特産物とするとともに、廃食用油を回収してバイオ・ディーゼル燃料(BDF)等に再生利用することにより、公共水域の保全、大気汚染防止、地球温暖化防止に取り組み、「資源循環型淡路島づくり」の実現をめざします。

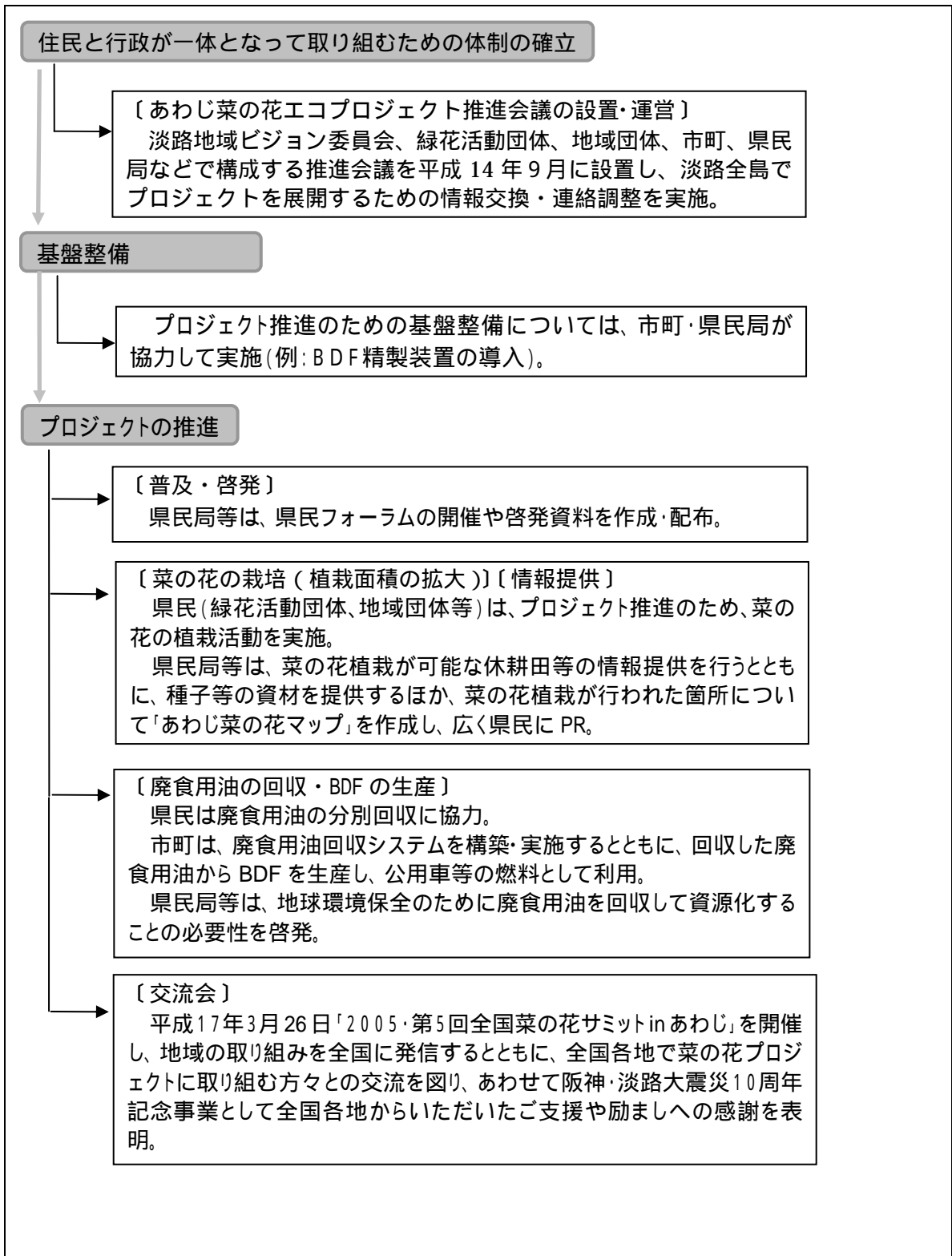
### 参画と協働の方法

（各主体の役割分担と推進計画の概要）

あわじ菜の花エコプロジェクトは、淡路地域ビジョン推進プログラムにおいて、県民行動プログラムと行政推進プログラムの両方に位置づけられており、住民主導の推進体制のもと、県民、行政など多様な主体が次のような役割分担により、地域が一体となって取り組んでいます。

区分		平成16年度まで	平成17年度以降
県民		<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜の花栽培・収穫</li> <li>・菜種の搾油</li> <li>・廃食用油回収への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菜の花栽培・収穫</li> <li>・菜種の搾油</li> <li>・廃食用油回収への協力</li> <li>・環境学習の実施</li> </ul>
行政	市町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃食用油回収システムの構築・実施</li> <li>・BDF精製機設置（東浦町、五色町：各1基）</li> <li>・BDF生産(精製機運用)と公用車等への利用</li> <li>・2005・第5回全国菜の花サミット開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃食用油回収システムの構築・実施</li> <li>・BDF生産(精製機運用)と公用車等への利用</li> <li>・環境教育の実施</li> </ul>
	県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議設置・運営（地域ビジョン委員会、関係団体、地域団体、県、市町等）</li> <li>・BDF精製機設置補助（2基）</li> <li>・普及啓発（フォーラム開催、マップ作成等）</li> <li>・2005・第5回全国菜の花サミット開催支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進会議の運営</li> <li>・ナタネ収穫まつり（仮称）の開催</li> <li>・フォーラム開催等による普及啓発</li> <li>・第6回全国菜の花サミット参加</li> </ul>

(具体的な手法)



参画と協働の実施状況

項目	平成15年度	平成16年度
推進体制	推進会議の運営	推進会議の運営
菜の花栽培	種子を花づくりグループに配布し、植栽面積の拡大を図った。(下表参照)	
花づくりグループ数	706グループ(8,578人)	730グループ(8,849人)
廃食用油の回収 BDFの生産	<p>五色町 (廃食用油) 公共施設等から毎月100~200ℓ回収。平成15年12月からは都志地区において家庭からも回収を開始。 (BDF)平成15年4月以降月に1~2回程度生産し、公用車に使用。</p> <p>東浦町 (廃食用油) 4月~5月はモデル町内会で、6月からは全町において廃食用油を分別回収品目に加え、毎月200~300ℓ回収。 その他、事業所等から毎月300~500ℓ持ち込みがある。 (BDF)平成15年7月以降月に4~5回程度生産し、公用車に使用。</p>	<p>五色町 (廃食用油) 平成16年12月から町内の全世帯、公共施設等から毎月200~300ℓ回収。 (BDF) 月に1~2回程度生産し、公用車に使用。</p> <p>東浦町 (廃食用油) 全町内において廃食用油を分別回収品目に加え、毎月200~300ℓ回収。 その他、事業所等から毎月300~500ℓ持ち込みがある。 (BDF) 月に4~5回程度生産し、公用車に使用</p>
普及・啓発	<p>あわじ菜の花フォーラムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成16年3月28日</li> <li>ウェルネスパーク五色</li> <li>満開の菜の花の中、パネルディスカッションのほか、地元でとれた菜種油で揚げた天ぷら試食等のイベントを通じてプロジェクトを紹介した。参加者8,000人。</li> <li>あわじ菜の花マップの作成・配布</li> </ul>	<p>「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年3月26日~27日</li> <li>ウェルネスパーク五色、GOGOドーム外</li> <li>初日： 基調レポートや講演の後、児童生徒による環境学習発表会やパネルディスカッション、全国各地でプロジェクトに取り組む9団体の活動報告も行われ、約1,000人が参加。</li> <li>2日目： 「あわじ環境立島まつり」として廃食用油を利用したバイオディーゼル燃料(BDF)によるカートの乗車体験やBDF精製装置、風力発電施設の見学会などを実施。</li> <li>あわじ菜の花マップ2005年版の作成配布</li> </ul>

花づくりグループ数は、毎年増加しており(631、706、730)あわせて参加者数も増加傾向にあります(7587、8,578、8,849)。また、五色町では、廃食用油の回収対象が、平成16年12月から町内の全世帯に拡大されるなど、資源循環型淡路島づくりに向けた取り組みは確実に進んでいます。

## 花づくりグループ等による菜の花の植栽面積

(単位:a)

市町	平成16年春開花(平成15年秋播種)分					平成17年春開花(平成16年秋播種)分				
	切り花	生食	採油	景観形成	合計	切り花	生食	採油	景観形成	合計
洲本市	30				30	30	30		187	247
津名町	1,000				1,000	1,000			500	1,500
淡路町				10	10				70	70
北淡町				50	50				200	200
一宮町			366		366			380	250	630
五色町		80	200	500	780		100	200	800	1,100
東浦町	586			650	1,236	600			1,100	1,700
緑町			30	10	40				100	100
西淡町				40	40				100	100
三原町					0				250	250
南淡町					0		100		50	150
合計	1,616	80	596	1,260	3,552	1,630	230	580	3,607	6,047

花づくりグループ等を中心とした取り組みにより、菜の花植栽面積は約1.7倍と大きく増加しています。特に、生食と景観形成での伸びが大きくなっています。また、島内全市町で植栽が進んでいることがわかります。

参画と協働の今後の主な取り組み方向
-------------------

## (活動の普及啓発)

フォーラムや県民局の各種イベント等におけるPRを通じてプロジェクトの認知度は徐々に高まってきています。特に17年3月に開催された「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」では、「震災の島から花の島へ」をテーマに全国各地から約1000人の参加者を迎え、あわじ菜の花エコプロジェクト等資源循環型の島づくりの取り組みをはじめ1000万本菜の花の装い事業等により、元気になった淡路島を全国に発信し、交流を深めることができました。

今後はこの成果を踏まえ、「菜の花種まきの集い(仮称)」や環境立島まつりを開催してプロジェクトの実証展示を行うとともに、地域の児童・生徒をはじめとする地域住民のプロジェクトを題材とした環境学習・環境教育を推進し、全島的な取り組みとしていくため一層の普及啓発に取り組みます。

## (住民主導で継続できる推進体制の構築)

菜の花植栽面積の一層の拡大を図るため、住民・事業者・花づくり団体・行政が一体となって1000万本菜の花の装い事業に取り組みました。今後、休耕田等への植栽から菜種の採取、菜種油の搾油とその利用等の「採油」システムの構築を図ります。また、東浦町、五色町の町内全世帯実施の成果を踏まえ、島内の全市町において廃食用油の分別回収が実現するように取り組みを進めていきます。これらを通じて、住民主導で恒久的に継続していくことのできる推進体制の構築に取り組んでいきます。

## ひょうごボランティアプラザの運営（県民政策部）

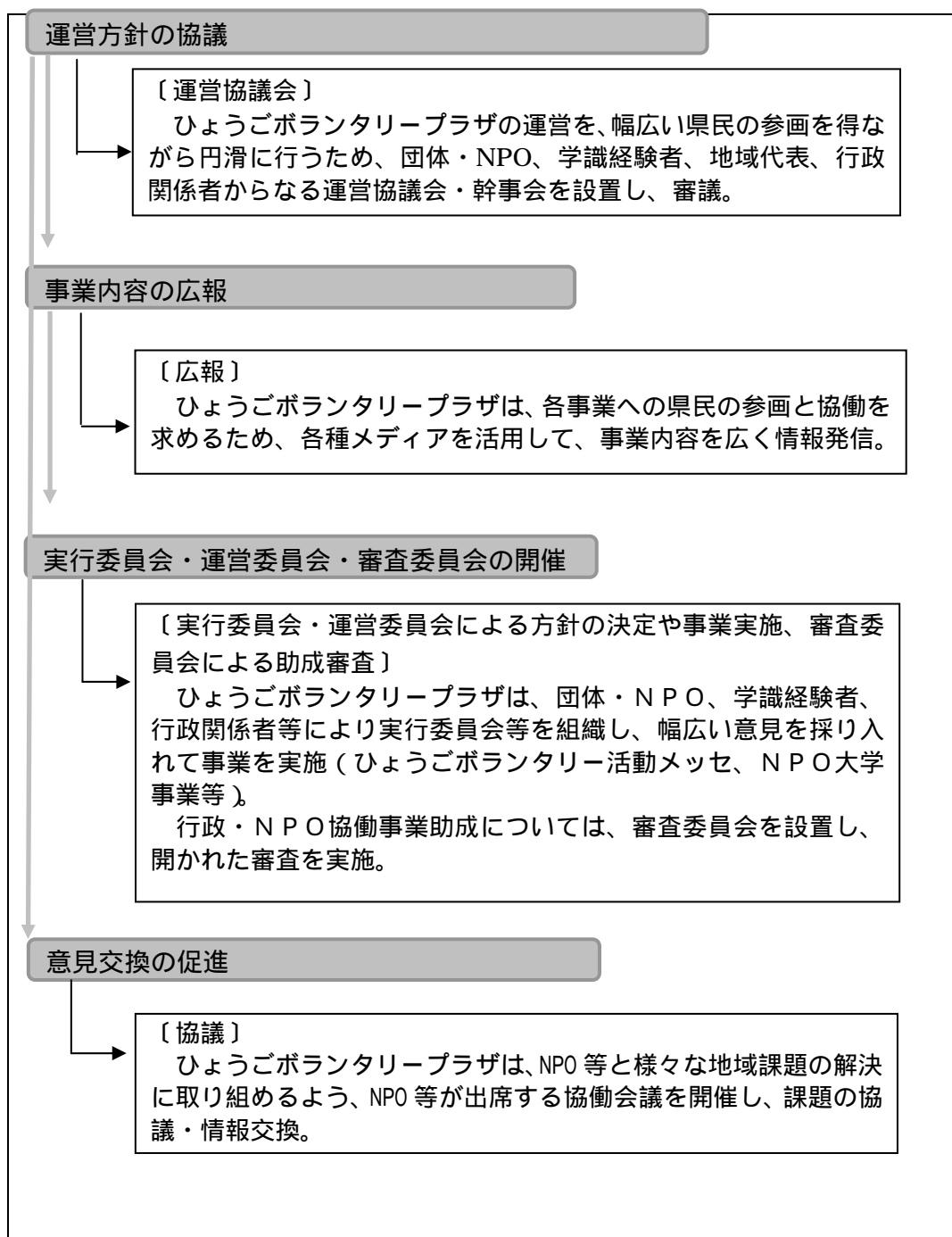
### 事業概要

県民ボランティア活動を支援・促進する全県的なネットワーク拠点として、開かれた、見える、柔らかい運営を基本的な考え方として、交流ネットワーク、情報の提供・相談 人材養成 活動資金支援 調査研究を実施する「ひょうごボランティアプラザ」の効果的な運営を行います。

なお、運営にあたっては、団体・NPO や県民が主体的に参画できるようにするため、市町の社会福祉協議会ボランティアセンターや地域の基盤的団体とのネットワークを有している兵庫県社会福祉協議会に運営を委託するとともに、ひょうごボランティア基金を同協議会に設置し、県民ボランティア活動の基盤的・総合的支援を展開します。

### 参画と協働の方法

ひょうごボランティアプラザは、参画と協働を進めるための多彩な事業を展開していますが、運営の基本的な枠組みについても、次のようにプロセスを重視しています。





## 台風等災害救援ボランティアの支援

福井における水害、台風 23 号による水害並びに新潟県地震においては、県とひょうごボランティアプラザが連携してボランティア募集に関する情報発信を行うなど、災害ボランティア活動の支援を行いました。

特に、台風 23 号による水害ではひょうごボランティアプラザにおいて災害救援本部を設置し、先遣隊を県 4 箇所（但馬、北播磨、淡路 2 箇所）に派遣するとともに、被害が非常に甚大である豊岡市・洲本市へ現地ボランティアセンターの立ち上げ支援のためにボランティアプラザ等の職員を派遣し、また、被災市町支援のためボランティアバスの運行を行いました。

## NPO 専門相談(法律、会計・財務)の実施

NPO の運営に関する法律や会計・財務などの諸問題に対し、弁護士・公認会計士による専門的な対応が可能な相談窓口を設置しました。

- |          |                |      |      |
|----------|----------------|------|------|
| ・法律相談    | 原則として毎月第 1 土曜日 | 実施件数 | 7 件  |
| ・会計・財務相談 | 原則として毎月第 3 土曜日 | 実施件数 | 13 件 |

## 調査研究事業の実施

ボランティア活動に関する課題や支援方策等について、毎年テーマを設定し、調査研究を行う「団体・NPO 等活性化調査・研究事業」を実施しました。

- ・市民活動の基盤強化にかかる調査研究  
ボランティア活動を振興する観点から中間支援組織に関する調査研究事業として、ひょうご市民活動協議会（HYOGON）に委託して、ひょうごボランティアプラザと協働して調査研究を行いました。
- ・ボランティアセンター基盤強化に関する研究事業  
市町域でのボランティア活動推進団体により「市町域でのボランティア活動推進方策検討委員会」を設置し、市町ボランティアセンターが抱える課題を中心に、県域でのボランティアセクター形成のための研究、協議を行いました。

## 県民ボランティア活動実態調査

県内のボランティア、市民活動を行う団体やグループの活動実態や課題、ニーズ等を把握し今後のボランティア活動の推進・支援方策等を検討するための基礎資料としました。また、震災を契機としたボランティア・市民活動の動向を検証しました。

## 地域づくり活動の登録制度の運用（14 ページ参照）

ひょうごボランティア基金、阪神・淡路大震災復興基金による助成（59 ページ参照）

NPO 大学事業の実施（62 ページ参照）

NPO と行政の協働会議の開催（64 ページ参照）

ひょうごボランティア活動メッセ（66 ページ参照）

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

（全県ネットワークセンターとしての機能強化）

全県的ネットワークセンターとしての機能を強化するため、地域生活創造情報プラザ（文化会館等）などの県関係機関や市町社協ボランティアセンター等の広範な機関とよ

り一層連携を密にし、協力して支援策を充実していきます。

活動支援ネット及びサポーターズネット等による全権的支援ネットワークの構築

活動支援ナビによる情報提供機能の充実

災害救援ボランティア支援機能の充実

特に、全県的ネットワークセンターとして、情報発信・調査研究機能、活動資金支援機能の充実をめざします。

(活動・交流拠点機能の充実)

ボランタリーセクターの形成をさらに支援するため、団体・グループ、NPO、企業、学識経験者等と協働しながら、ボランタリー活動の充実を支えるしくみづくりに取り組んでいきます。

また、地域、世代、活動分野を超えた交流会の開催などを通じて、団体・グループ、NPO等の多様なネットワーク化によるボランタリー活動の広がり、深まりを支援します。

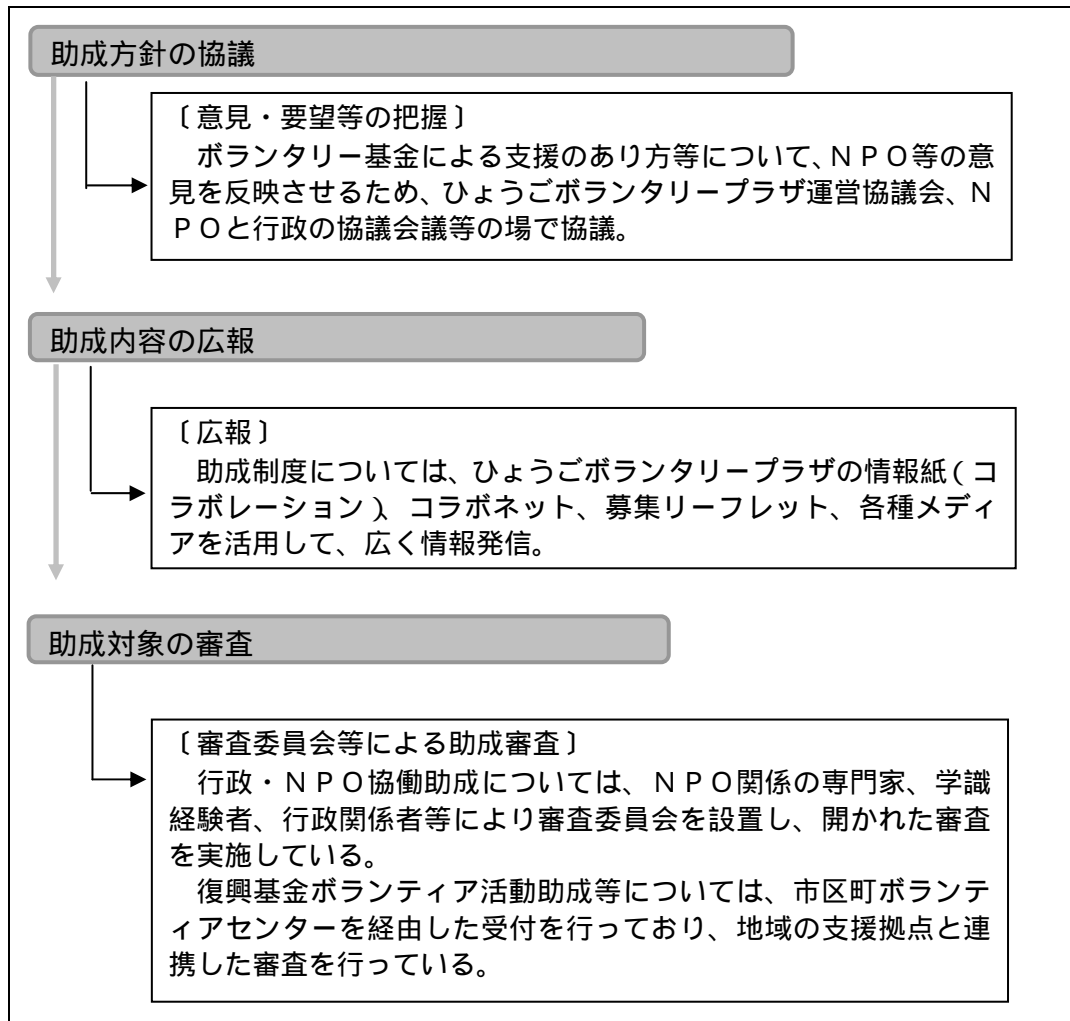
## ひょうごボランティア基金、阪神・淡路大震災復興基金による助成（県民政策部）

### 事業概要

県民ボランティア活動の支援強化を図るため、県社会福祉協議会に平成14年4月に創設したひょうごボランティア基金を活用し、ボランティアグループへの活動助成を行います。

また、阪神・淡路大震災復興基金については、平成7年度から被災者の生活や自立を支援するボランティア活動団体への助成を実施しています。

### 参画と協働の方法



### 参画と協働の実施状況

#### ひょうごボランティア基金事業の概要

##### ・ボランティアグループ活動助成

ボランティアグループの安定的かつ継続的な振興を図るため、ボランティア活動を行うグループ及び団体等に対し、助成しています。

- ・ 1グループ及び団体に対し、30,000円を助成
- ・ 件数 999件（29,970千円）

・ボランティア活動振興助成

ボランティア活動を行う団体等の健全な発展を促進するとともに、県民のボランティア活動への意識の高揚を図ることを目的に、団体等の事業に対して助成しています。

- ・ 1件あたり、原則300,000円を限度に助成
- ・ 件数 14件(1,586千円)

・行政・NPO協働事業助成(復興基金と併用)

NPOが企画した行政との協働事業を進めるために、第1年次に事業企画を提案し、第2年次にNPOが行政の協力を得て事業化計画を立案し、第3年次で事業を軌道にのせる3段階の助成プログラムで実施しています。

区分	第1年次	第2年次	第3年次
助成対象となる活動	地域の課題解決や活性化を目的に、NPOと行政とが協働して取り組む事業の提案作成活動	第1年次に作成した提案の事業化に向けた具体的計画策定活動	第2年次に策定した計画に基づくNPOによる協働事業の実施
助成金額	30万円以内	60万円以内	100万円以内
助成件数	7件	11件	8件

・NPOパワーアップ助成(復興基金と併用)

NPOの組織としてのマネジメント能力を高め、NPO全体の社会的信用を高めることを奨励するため IT活用による情報公開 定期的な機関紙、情報紙の発行 セミナー、講演会等の開催を通じた団体ミッションの普及啓発事業の実施 役職員のスキルアップのための研修会等への参加 団体のマネジメント能力向上のための体制整備 - の特定の項目の要件を満たす場合に助成しています。

- ・ 1項目5万円(各項目1回限り、3項目以上の規準を満たした段階で申請)
- ・ 件数 82件(4,100千円)

阪神・淡路大震災復興基金事業(災害復興ボランティア活動補助)の概要

阪神・淡路大震災の被災者の生活及び自立を支援するボランティア活動を行うグループ・団体に対して助成しています。

・一般経費助成(活動を行うに必要な経費)

- ・ 1グループ・団体に対し、30,000円~100,000円
- ・ 件数 1,761件(120,301千円)

・特別活動経費助成(事業を行うために必要な経費)

- ・ 1事業あたり150,000円以内(年間2回を限度)
- ・ 件数 59件(7,934千円)

・事務所借上経費助成(活動を行うために利用する事務所の借上経費の一部に対する補助)

- 500,000円以内(借上経費の1/2)
- ・ 件数 53件(16,300千円)

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(復興基金終了後に備えた助成制度の見直し、充実)

被災地内活動に対応してきた復興基金事業が平成 17 年 3 月に終了することに伴い、平成 17 年度以降は、被災地外活動に対応してきたボランティア基金事業を全県版に拡大することとしました。

これに伴い助成メニューも見直し、グループ・団体等による草の根の活動から NPO による中間支援活動まで、多様な活動内容に対応したきめ細かなメニューとしました。

〔主な助成メニュー〕

- ・ 県民ボランティア活動助成  
福祉、環境創造、国際協力等 NPO 法 17 分野のボランティア活動に助成し、団体の自立支援を促す。(上限 3 万円・1/2 助成)
- ・ チャレンジ事業助成  
地域課題の解決のための広域性の高い活動や斬新な活動の拡大、発展を図る。  
(新規事業 100 万円上限、既存事業 50 万円上限)
- ・ インターン助成  
団体が海外及び国内の先進事例、現状の調査研究を支援する。  
(海外 30 万円上限、国内 15 万円上限)
- ・ 中間支援活動助成  
「ネットワーク構築」「調査研究」「講座等の開設」及び「情報提供・相談」等の活動・事業に実績があり、このうち特定部門の機能強化を重点的に行おうとする中間支援活動のレベルアップを図ることを目的に支援する。  
(1 団体年額 100 万円上限)

(寄附のしくみづくり)

できるだけ多くの方の寄附によるボランティア基金のさらなる充実を図るため寄附者の意向を重視した多様なボランティア基金メニューの検討や寄附者が目的や助成先等を指定できる仕組みづくりの検討を行う。

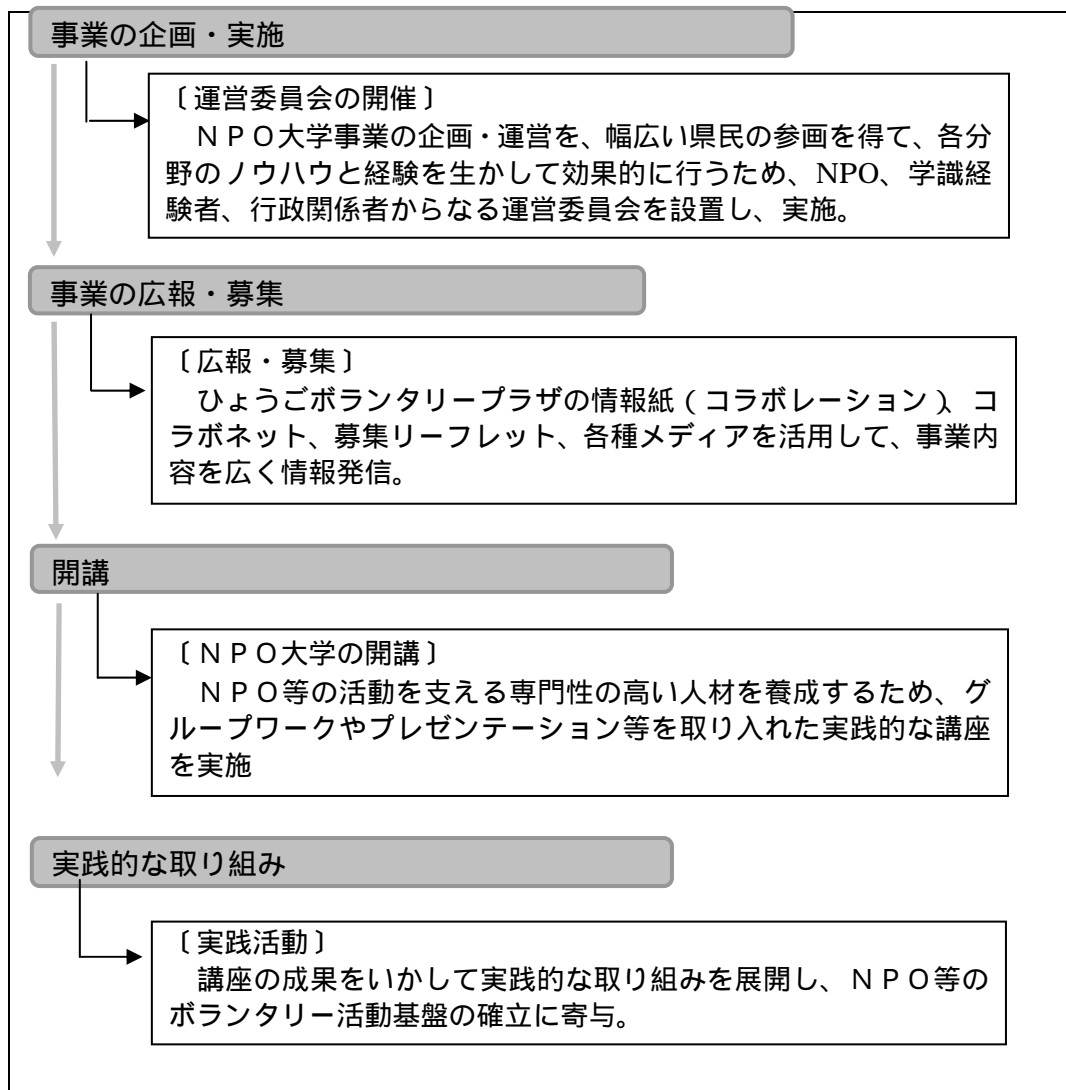
## NPO大学事業の実施（県民政策部）

### 事業概要

NPO など、ボランティア活動を行う団体の運営基盤の確立を支援するため、組織運営、人材活用、資金調達などに関して、専門性の高い知識や技術等を習得する講座を、NPO・行政等で構成する運営委員会方式により実施します。

### 参画と協働の方法

学識経験者、NPO、行政関係者等で構成される運営委員会方式で事業を実施しています。



### 参画と協働の実施方法

NPOマネジメントコース、NPOガバナンスコースの2コースで実施。

#### （NPOマネジメントコース）

NPOでの実務経験が2年以上のスタッフ又は常勤の実務経験者を対象に、NPOの基盤を確立するために必要な知識を学びます。

#### （NPOガバナンスコース）

マネジメントコース修了者又はこれに準ずる方（団体代表者等）を対象に、NPOの適正な経営とさらなる発展を学びます。

## NPO大学事業の応募・受講状況

	NPO トライアルコース		NPO マネジメントコース		NPO ガバナンスコース	
	応募数	受講者数	応募数	受講者数	応募数	受講者数
H14 年度	44人	40人	41人	30人	46人	20人
H15 年度	54人	40人	36人	30人	24人	20人
H16 年度	-	-	13人	13人	18人	18人

- ・ 毎年、受講者や修了者から講義内容についても好評を得ており、人材養成のひとつとして効果をあげています。
- ・ NPO トライアルコースについては、平成14年度、15年度にNPO向け講座の少ない神戸市以外の地域で実施し、中間支援組織等の実施する講座とのすみ分けを図りました。
- ・ 中間支援組織等で実施している初心者向けのNPO講座との分野調整を図るとともに、PR面については協力して制度を周知させるなど、事業実施面で連携を図っていきます。

H16年度では、NPOが育ってきていることから、NPO トライアルコースを廃止し、NPO マネジメントコース、NPO ガバナンスコースの2コース制とし、中間支援組織で実施しています。

### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(NPO等の基盤強化)

NPO大学事業の受講者数は平成9年度の開講以来、延べ618名に達しており、NPO法人の実務経験者や役員等が受講するなど、人材面での基盤強化に役立っています。

今後ともNPOの活動への参画とNPOの運営基盤の確立を支援するためにNPOと協働して、組織運営、人材活用、資金調達などに関する知識や技術等を習得するためにグループワークやプレゼンテーション等を取り入れた、実践的な講座を実施し、内容のさらなる充実を図ります。

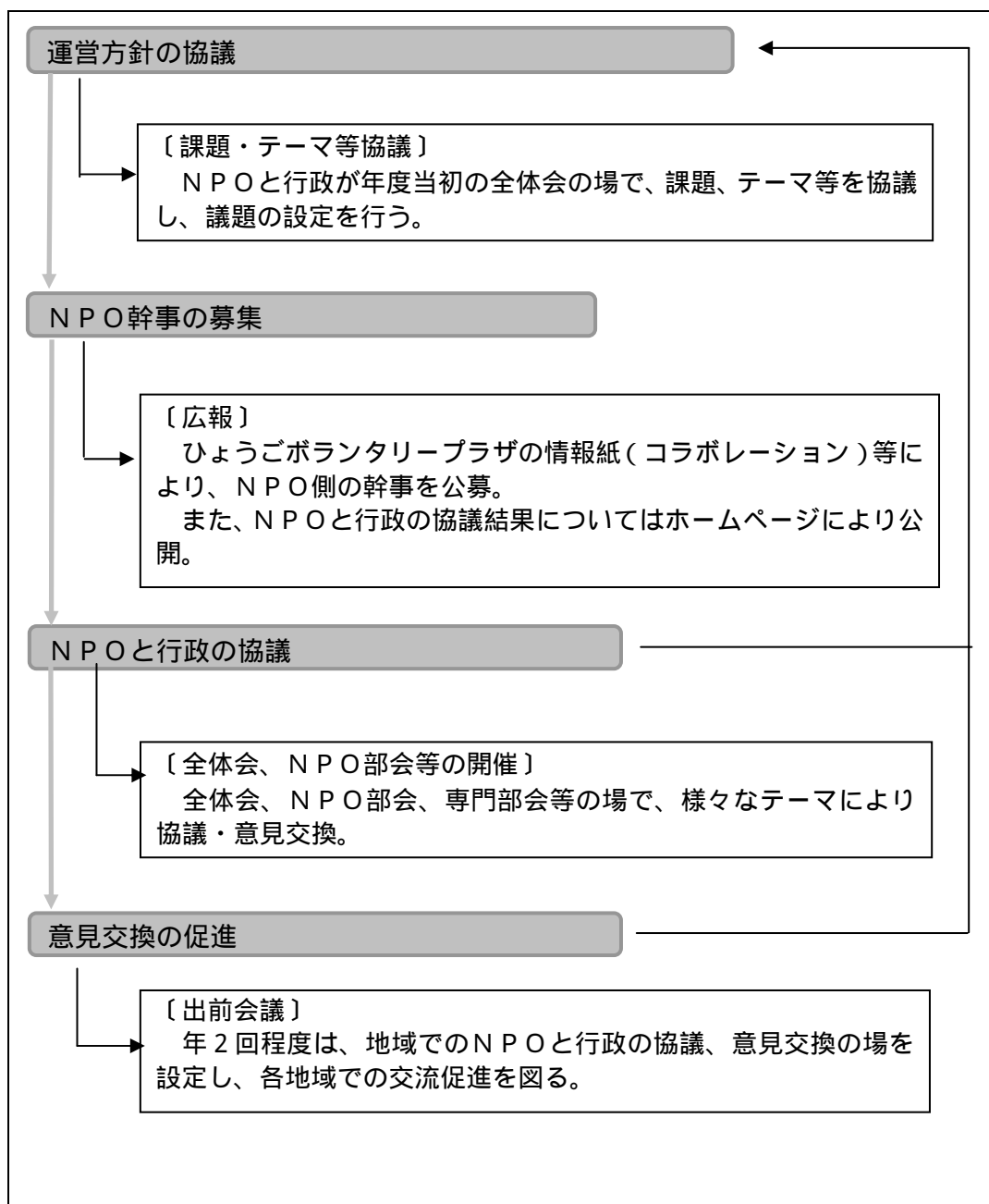
## NPOと行政の協働会議の開催（県民政策部）

### 事業概要

平成9年7月に被災地におけるNPO等と行政の関係者が、地域課題への対応について、意見交換する場として「生活復興ラウンドテーブル」を設置しました。平成11年6月には、これを拡充し「NPOと行政の生活復興会議」とし、全体会、NPO部会の設置等の現在の枠組みを整えました。平成13年10月からは、被災地のみでなく、全県的な視点に立った「NPOと行政の協働会議」として開催しています。

この会議は、NPOと行政と協働して、福祉、子育て、環境、まちづくり等の様々な地域課題に取り組みめるよう、対等の立場で定期的に協議・情報交換を行う、先駆的なしくみとして実施・運営しているものです。

### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### NPOと行政の協働会議の設置

- ・全体会議  
NPO部会構成員、行政部会構成員の全員、テーマに応じた県関係課室が集まり、地域課題解決に取り組むための施策や事業について、協議・情報交換を行っています。
- ・NPO部会(NPO関係者から構成員を公募)  
NPOとしての課題整理や提案内容を公開で議論しています。(おおむね月1回開催)
- ・行政部会  
NPOとかかわりの深い業務を担当する課室長を構成員とし、NPOと協働で実施する施策の情報交換等を行っています。
- ・専門部会  
NPOと行政の協働に関して、特に集中的に協議・情報交換、調査研究等を必要とする特定のテーマについて随時設置しています。

### 全体会議(出前出張会議を含む)の開催状況

	開催数	会議のテーマ
全体会議	10回	・「協働のしくみづくり」について ・「施設管理」について ・「ポスト復興基金」について 等
全体会(出前出張会議)	2箇所で開催 (姫路・豊岡)	姫路：NPOと行政の協働について 豊岡：NPOと行政の協働について

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (意見交換の実効性の向上)

NPOと行政の協働会議は、様々な地域課題をNPOと行政が協働して解決していくため、関係者が施策等の企画段階から協議、意見交換を行い、NPOと行政が施策検討、論議する過程を通じて、相互理解を深め、参画と協働による県民ボランティア活動支援施策を推進していきます。

これまでに「NPO活動応援貸付制度」「ひょうごボランティアプラザの開設」等の新たな制度の立ち上げを協働作業で行ってきました。

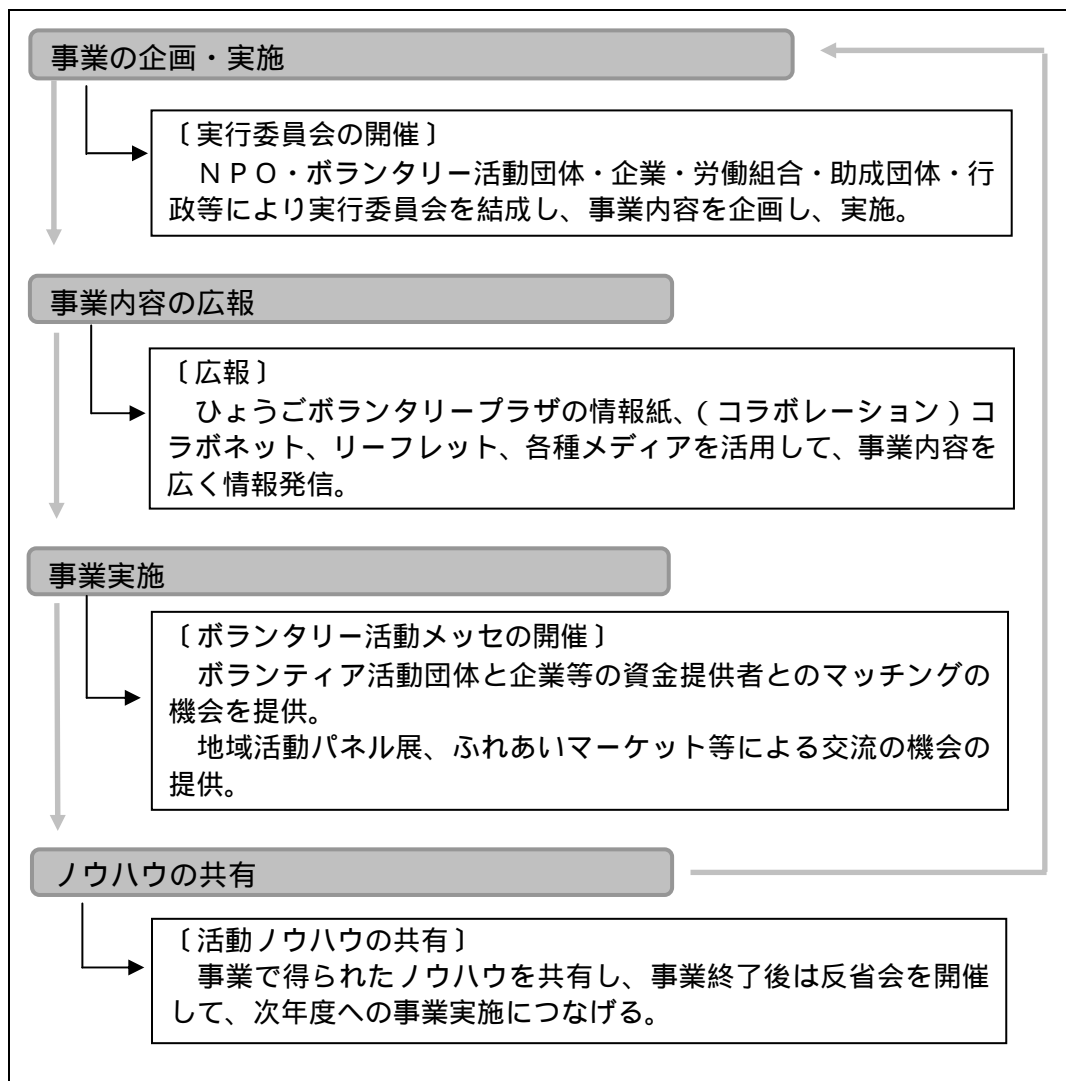
今後は、県下各地域で多様な地域課題に取り組んでいるNPOの声を、より本会議に反映させるしくみづくりや、各地域における活動ネットワーク形成に対する支援など、本会議の地域展開を通じてより効果的な会議運営を図ることとします。

## ひょうごボランティア活動メッセ（県民政策部）

### 事業概要

活動団体間の交流の促進、活動団体と企業等の資金提供者とのマッチング等を促進するとともに、県民の県民ボランティア活動への理解と参加の促進を図るため、県内各地域のボランティア活動団体が一堂に会するイベントをNPO等との実行委員会方式により開催します。

### 参画と協働の方法



### 参画と協働の実施状況

#### 開催日・開催場所

神戸クリスタルタワー3階クリスタルホール等で、平成17年1月29日(土)、30日(日)の2日間を中心に実施しました。

#### ボランティア・市民活動元気アップアワード

アワードという新たな仕組みにより、活動団体がこれから取り組もうとする事業等の提案発表を通じて、活動団体と企業等の資金提供者とのマッチングの機会を提供し、県民のNPO等への寄付意識の醸成を図りました。

コース	応募団体数	受賞団体数	
元気アップコース	49	元気アップ大賞（賞金 100 万円） 元気アップ賞（賞金 20 万円）	1 団体 4 団体
こつこつコース	79	こつこつ大賞（賞金 20 万円） こつこつ賞（賞金 5 万円）	1 団体 15 団体

元気アップコース：企画提案型のコースで、これからの新たな企画内容を審査

こつこつコース：活動実績評価方のコースで、これまでの活動実績を審査

### ボランティアステージ

ボランティア・市民活動団体、その他開催趣旨に賛同する団体（地元の学校、音楽グループ等）の活動を発表する場として開設しました。

### ふれあいマーケット

ボランティア活動の PR を行うとともに、障害者の社会参加について広く市民に啓発することを目的として開催し、県内のボランティア活動団体の情報交換と交流を図りました。

### ひょうごボランティア・市民活動フォーラム

「見つけよう新しい地域連携！手をつなぐ地縁と NPO・ボランティア」をテーマに、パネルディスカッション、グループディスカッションを行いました。

### 地域活動パネル展

県内の地域団体等が、取り組み事例の報告やパネル等の成果物を展示し、地域組織と NPO 等の交流連携及び地域活動の一層の活性化を図りました。

また、県民ボランティア活動標語・写真コンテスト入賞作品を展示し、県民のボランティア活動への啓発を図りました。

### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

#### （参画の促進）

多様な主体が参画・協働する実行委員会の特色を活かし、さらにより多くの主体の参画を得られるよう広く呼びかけを行っていく。また、「寄附のしくみづくり」の検討を踏まえた新たな工夫を行うことにより、県民ボランティア活動への理解を促進し、企業、団体、個人等の資金提供者の拡大を図ります。

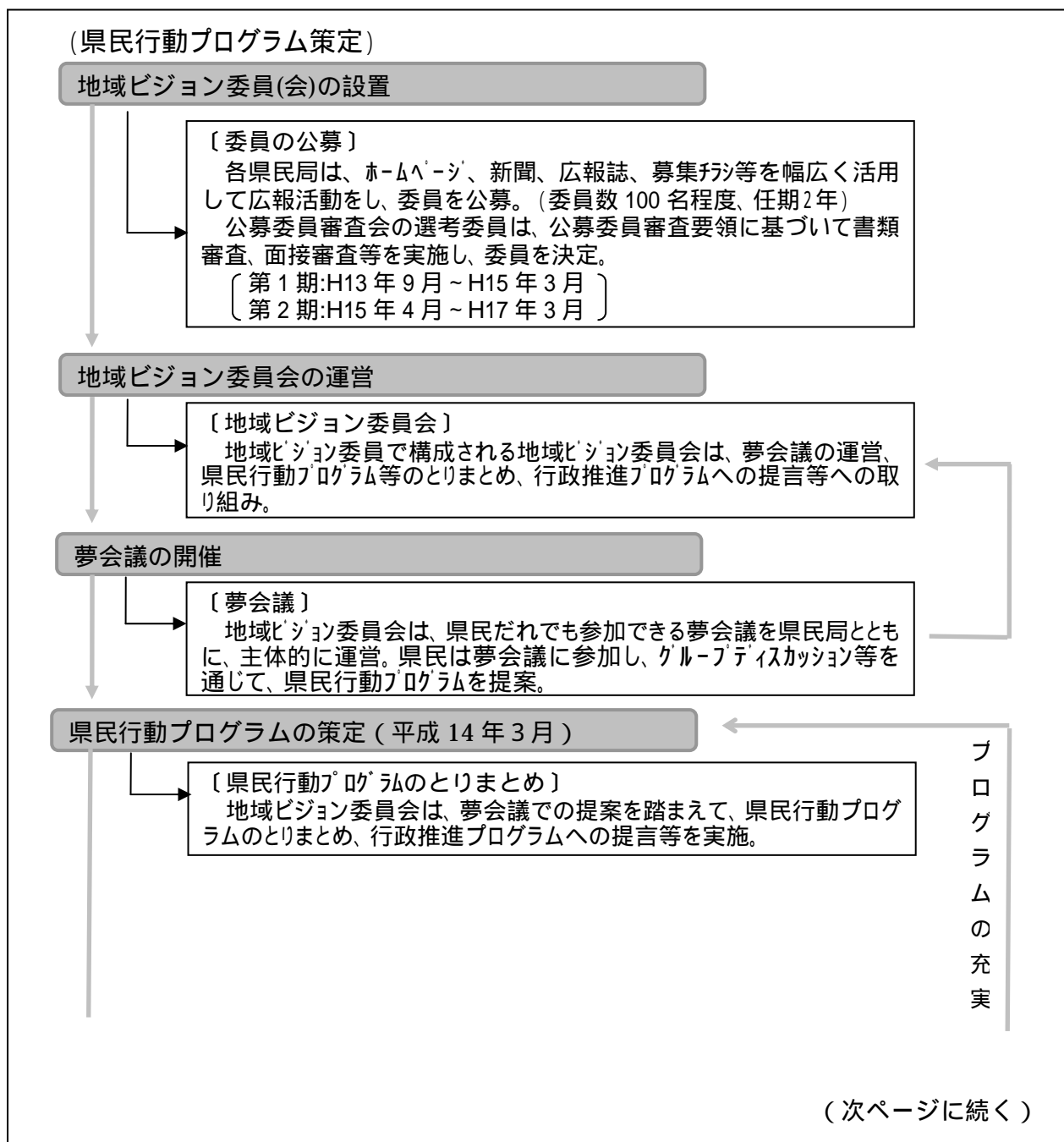
## 県民行動プログラムに基づく活動の促進（県民政策部）

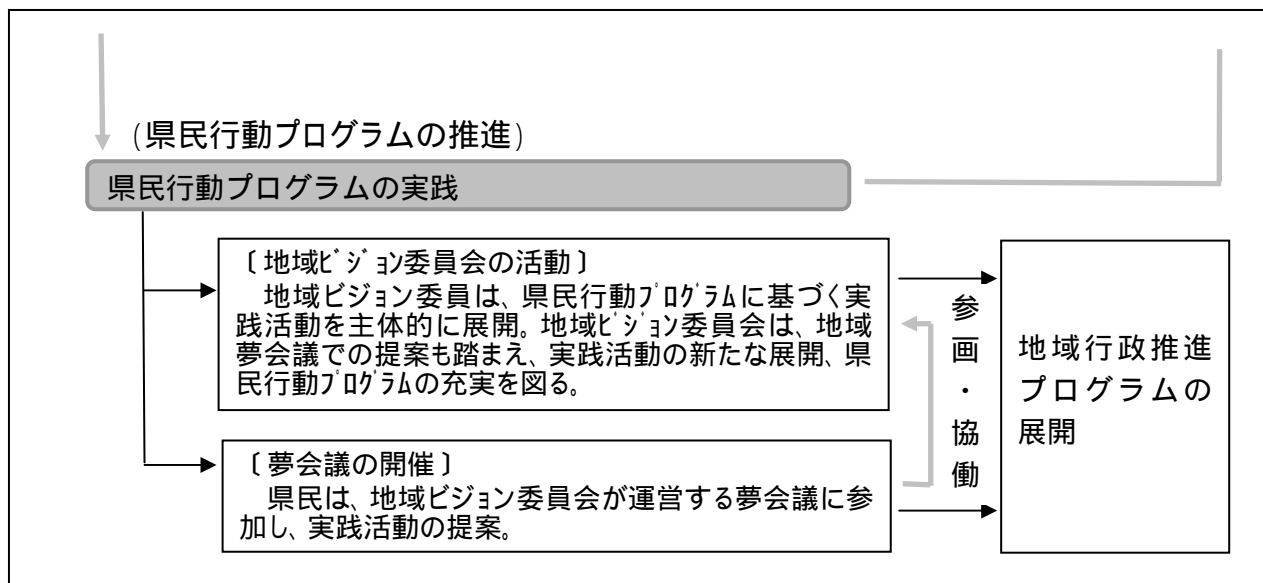
### 事業概要

地域ごとの個性と特色を生かし策定した地域の将来像である「地域ビジョン」の実現をめざし、県民の主体的な取り組みとして策定した「県民行動プログラム」の展開を支援します。県民局では、各種情報や議論の場の提供、関係機関との連携方策の助言などの支援のほか、中期的な施策体系である「地域行政推進プログラム」を進める中で、相互に連携しながら取り組んでいます。

### 参画と協働の方法

県民行動プログラムは、以下のようなサイクルで各地域がそれぞれ工夫しながら展開しています。県民局や地域ビジョン委員が協働し、事務局として会議の準備や活動支援を行っています。





今後の主な取り組み方向

(これまでの取り組みの本格的な評価・検証、次期プログラム策定への反映)

県民行動プログラムは、多くの県民の方々の参画と協働を得て、議論を積み重ね、とりまとめられました。

ビジョン策定から5年を経過することから、今後、第3期地域ビジョン委員(平成17年4月~平成19年3月)による地域ビジョン委員会を設置し、引き続き、実践活動の展開を図るとともに、幅広い県民の方々の参画のもと、地域夢会議を開催しながら、これまでの取り組みの点検・評価を行い、次期プログラムの策定に取り組んでいきます。

## 神戸地域県民行動プログラムの推進状況

### 1 神戸地域ビジョン委員会の取り組み

#### (1) 地域ビジョン委員が中心となり取り組む実践活動

平成15年4月に第2期神戸地域ビジョン委員会が発足して以来、委員自らがグループをつくり、プログラムの「行動提案」に呼応した先導的実践活動に取り組んでいる。

なお、委員会が取り組む実践活動について、研究会等資料等の提供、広報・調査実施経費の助成、活動成果物印刷・配布など、県民局としても、支援又は協働して取り組んでいる。

グループ名・活動概要	活動状況
<p><b>農都・神戸づくりグループ</b></p> <p>「農」と結びあえるまち「農都・神戸」づくりに取り組む。地産地消をテーマに、神戸で盛んに行われる農業、漁業の現状を学ぼうと、現地を訪れ、生産者と交流・意見交換を行ってきた。</p>	 <p>地産地消をテーマにして産地・直売所情報をまとめた「農都・神戸マップ」づくりに取り組み、このほど完成した。今後、マップを使ったスタンプラリーや食文化イベントの開催なども視野に入れて、活動を広げて行く。</p>
<p><b>六甲山グループ</b></p> <p>多くの市民に六甲山に上がってもらおう、良さを知ってもらおうと、一昨年から「六甲山の楽しみ発見」ウォークを開催してきた(5回)。参加者と一緒に見つけた楽しみをとりまとめて「楽しみ発見マップ」を作った。</p>	<p>また、県立六甲山自然保護センターを知ってもらおうと、周辺散策マップも作成。</p>   <p>今年度は、これらのマップを使っ てのイベントを企画開催(3回)。</p>
<p><b>神戸経済の活性化グループ</b></p> <p>地域の核をめざす商店街を考えた第1期。第2期は、周辺から商店街を活性化するにはと、商店街を舞台に活動する学生たちの取り組み事例を調べた。</p>	  <p>今年度は、経済の分野で人と人をつないでいくしくみ(コミュニティファン等)の研究から始めた。</p>
<p><b>グローバルな魅力づくりグループ</b></p> <p>留学生と地域コミュニティとのコーディネート活動がテーマ。留学生が地域で活躍できるしくみづくりや、多文化共生の課題を考える。</p>	<p>今年度は留学生と市民が交流できる企画を実施。留学生とともに北区の田植えと東灘の酒蔵を訪ねる「留学生のための酒づくり体感ツアー」などを開催。</p>  
<p><b>環境・循環型社会グループ</b></p> <p>「環境にやさしく美しいまち神戸」をめざして、「神戸らしいリサイクル」をテーマに生ごみリサイクル活動の事例とくに生ごみの堆肥化の実践事例を調べてきた。</p>	  <p>今年、生ごみの堆肥化装置を使った実践とそれを使っての花づくりの実践レポートを作成したうえで、循環型社会をめざした提案づくりに取り組んでいる。</p>

### 子育ての支援グループ

子育ての悩みを抱え引きこもりがちな若いお母さんに、子育て情報の整理・発信など、地域ぐるみで子育て中の母親を支援するしくみを考える。



夢会議「日本と外国の子育ての違い」

HPで子育て情報の受発信実験



地域での子育て支援活動の事例を集めてきたが、今年度は引きこもりの母親に対して情報発信や相談などができる情報システムづくりに取り組んでいる。

### 青少年育成グループ

地域で青少年の健全育成に取り組む委員たちそれぞれの活動を、新しい結びつきによって拡大し、深めていこうとしている。本年4月初旬に、夢会議「子どもがつくる人・まち・こころ」(子ども絵画展、科学実験教室、若者の居場所づくり

フォーラムの共同企画)を開催したが、今年度も「ひかりの公募展 2005」フォーラムなどの共同イベントを企画開催する。(3/31~4/3)



居場所づくりフォーラム

わくわく！科学実験教室

### 高齢者が高齢者のお世話をするグループ

高齢社会では、高齢者をお世話する人材の不足と高齢化が大きな問題と、高齢者の生きがいづくりやより良い介護方法の研究などに取り組んだ。

夢会議「育ち喜び～高齢者のための園芸療法」  
バリアフリー体験も



夢会議「癒される音～高齢者のための音楽療法」

今年度は、介護を受ける側の心理や園芸療法・音楽療法など、高齢者のお世話をする上で、必要な知識や考え方などの勉強会から始めている。勉強会は委員以外の参加も求め、得た情報を事例として発信、悩み相談のしくみづくりにも広げていく。

### 担い手の連携グループ

自治会・婦人会・PTA・ボランティアグループなど、地域づくりの様々な担い手たちが、連携して地域を支える仕組みや場の提供などについて考える。



大規模単独自治会や地域円卓会議の運営事例の研究や、地域の中での各地縁団体の連関図作成・分析など、担い手の連携を進める上での課題解明を進めていく。

また、公的施設の指定管理者制度についての、研究・議論へも進めていきたい。

### 楽校ネットワークグループ

趣味や一芸を出前して子どもたちと一緒に楽しみ、青少年の健全育成や地域のコミュニティづくりに役立ててもらおう「楽校(がっこう)」のしくみとネットワークづくりに取り組んできた。



夢会議「楽校の開校式」

出前メニューの一例



一昨年11月に開校以来、各地で活動を進めており、今後は分校づくり(メニューの豊富化、出前先の拡充)に取り組んでいく。

## (2) 実践活動事例の収集と発信

行動提案の実践成果や地域ビジョンネットワークでの情報交流などから、様々な活動事例を収集し、行動提案集や情報誌等で広く県民に提示する。

平成15年度地域ビジョン委員会の活動事例等を取りまとめ、「神戸地域県民行動プログラム(第3集)」を作成した。(本年度第4集作成中)

## 2 神戸地域ビジョンネットワークによる交流と連携

地域で活動する団体・グループ・個人などが、様々な活動の情報を交換し、相互の活性や交流に取り組む「神戸地域ビジョンネットワーク」を運営している。

情報誌「神戸ゆめネット」の発行(年4回発行)  
ホームページ「web版神戸ゆめネット」の運営



## 阪神南地域ビジョン推進プログラムの進捗状況

## 1 県民行動プログラムの進捗状況

阪神南地域の県民行動プログラムは、ビジョンの実現と阪神市民文化社会を築くため、次の三つを行動目標にして、県民の参画と協働により推進している。

**行動目標Ⅰ 県民の自立と協働により、人と人、人と地域がふれあうなかで、それぞれの生活の質を高めよう**

**行動目標Ⅱ 県民自らによる都市環境を維持し、創造する取り組みを進めよう**

**行動目標Ⅲ 県民のアイデアと行動により、地域経済の活性化を進めよう**

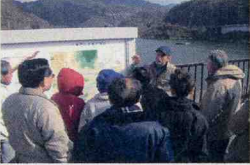

## (1) 実践グループの活動状況

【行動目標Ⅰ 県民の自立と協働により、人と人、人と地域がふれあうなかで、それぞれの生活の質を高めよう】




グループ名	これまでの取り組み (H15)	今後の主な取り組み
①活動グループ間のネットワークづくり	市域を超えて様々な出会いができる仕組みをめざした活動グループ間の交流会の実施 (尼崎市1回:37名、芦屋市1回:21名)	3市で個別に活動する市民グループの活動の輪を拡げるためのネットワークづくりフォーラムや交流会の開催 ㊸
②いきいきフォーラム・シニア21	高齢者の元気・勇気・やる気づくりのため、杉良太郎の「ボケたらあかん長生きしなはれ」の歌に踊りの振り付けをした〈長生き音頭〉の作成・普及 (発表会等参加者:延べ238名)	高齢者の積極的な社会参加を促進するためにも、阪神南100万人健康体操や老人クラブ、婦人会、各町内会とも連携を図りながら、〈長生き音頭〉の普及啓発を推進するとともに、友好グループとも合同してイベントを計画する。㊸・㊹
③青少年健全育成	「明るい家庭、住みやすい地域」を作るため「家族」のあり方をテーマにフォーラムの開催(H15.2.7:参加者数45名)	若者に家族、地域のあり方を考えてもらうための「子育てフォーラム」の開催 ㊸
④ユニバーサルデザインによるまちづくり	阪神武庫川駅西側のバリアフリー化に向け、調査活動の実施	阪神武庫川駅のバリアフリー化の推進、オスメイト・難病者等にやさしい街づくりの研修、高齢者・妊婦等にやさしい歩道確保への実施調査 ㊸・㊹
⑤芸術文化スポーツ王国づくり	県立芸術文化センター(仮称)などで活躍できるアーティストの育成のため、県民交流コンサートの開催(3回:参加者数延べ251名)	県立芸術文化センター(仮称)を核とした芸術文化スポーツの振興と人材の発掘 ㊸
⑥阪神2号線文化街道づくり	国道2号線を文化街道と位置づけ、国道沿いの企業、文化芸術家等の協力による音楽会の開催(3回:参加者数延べ170名) 音楽会の開催	文化芸術への関心を高めるとともに、機運の醸成を図るため、県立芸術文化センター(仮称)の完成に向けたプレイベントの開催 ㊸

【行動目標Ⅱ 県民自らによる都市環境を維持し、創造する取り組みを進めよう】

グループ名	これまでの取り組み (H15)	今後の主な取り組み
⑦土地・花・緑	「美しいまちづくりに向けた花と緑づくり」を推進するため、「生ゴミを使った堆肥づくりセミナー」や『テラリウム』実践セミナーの開催 (参加者数延べ260名)	西宮浜における四季折々の花づくりの実施、目で楽しむだけでなく、心身の向上を促すための園芸療法講習会の開催、子どもたちによる「うつくしいまちなみ絵画展」など花とみどりのイベント等の開催 ㊸・㊹

⑧ 阪神環境ネットワークづくり	ごみ問題、川の保全、自動車の削減を念頭とした『E C Oライフの推進』のためのイベントへの出展、交流会、見学会の開催	引き続き、ごみ、川の保全、E C Oライフの推進に取り組む。 ㊦ 川サミット (11/13 芦屋川) に参加 ㊦
⑨ 21世紀の森・阪神エコベルト	尼崎、西宮、芦屋の海岸沿いに人と自然の共生できる環境エコベルトを構築し、自然・健康・眺望・商業・産業等についてエコをテーマとした見学会の実施 (4回)  <p style="text-align: center;">見学会</p>	阪神南地域・再発見運動と連携を図りながら、阪神南地域のPR、イメージアップ、振興に寄与するため「阪神南地域ガイド養成講座」の開講 ㊦ (講座回数:10回)  <p style="text-align: center;">6/17 実地講座 (戎社)</p>

【行動目標Ⅲ 県民のアイデアと行動により、地域の経済の活性化を進めよう】

グループ名	これまでの取り組み (H15)	今後の主な取り組み
⑦ 土地・花・緑 (再掲)	地域経済の活性化を図り、地域のにぎわいをもたらすため、土地活用の現状と課題についての学習会の実施(15.10.29: 48名)	土地の有効活用を推進するため、低未利用地の活用についてのフォーラムの開催 ㊦
⑩ もの・ひとづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の資源を生かした“食”と“職”の創造セミナーの開催(2回:参加者数延べ59人)</li> <li>・丹波地域 (おさん茂兵衛交流列車) との交流の実施(15.3.20)</li> </ul>  <p style="text-align: center;">“食”と“職”のセミナー</p>  <p style="text-align: center;">おさん茂兵衛交流列車</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲料メーカーと連携して「菱」と「はす」で作るお茶の製作、実用化の検討 ㊦</li> <li>・引き続き、丹波地域との交流の実施 ㊦ 「尼名産一寸豆交流栽培結果の視察とホタル鑑賞会」(6/19~20)</li> </ul>  <p style="text-align: center;">尼名産一寸豆交流</p>

(2) 阪神南地域での独自の取り組み

① 地域の中間支援組織づくりに向けた地域活動促進会議の開催

地域ビジョン委員、地域団体、NPO、管内3市等の関係者が一堂に会して地域の課題解決に向け、公民協働による「中間支援組織づくり」に取り組む。(H15 2回開催)

② 地域ビジョン委員会ホームページ等に対する支援

(ア) ビジョン委員会が企画・運営するホームページに情報提供等の支援をする。

(H15 ホームページ開設初期費用等への助成)

(イ) 情報誌「ビジョン広報だより」作成の支援をする。

③ 委員会活動グループへの活動費助成

県民行動プログラムで提案された事項についての調査活動及び実践活動を進めるグループ等を支援するため、一定の活動経費を助成する。(H15 8グループに助成)

(3) 次期地域ビジョン推進プログラムづくりに向けた取り組み

① 地域ビジョン推進プログラムのフォローアップ

次期地域ビジョン推進プログラムの策定準備に向け、地域ビジョンフォローアップ検討委員会を設置し、専門委員をコーディネーターに、ワークショップ方式で意見交換会(4回)を行い、その意見を踏まえ、企画部会と連携して検討委員会(2回)で地域指標を用いた地域づくり診断を行い、県民行動プログラムの総合的な点検・検証を行う。

② IT等を活用した若者との対話・交流会の開催

若者の意見や提案を次期地域ビジョン推進プログラムに反映させるため、インターネット等を活用し、大学生、高校生を対象にした意見交換会を行う。






フォローアップ意見交換会

# 阪神北地域ビジョン推進プログラムの進捗状況について



## 1 県民行動プログラムの進捗状況について

地域ビジョンの以下の4つの行動目標に即し、地域ビジョン委員会を中心にビジョン実現に向けた取組を進めている。




### 行動目標1 多様で個性的なライフスタイルを育むことができる社会をつくる

活動目標	主な取組内容
プレーパークづくりなどを通じた社会活動への参加促進	<p>「冒険広場(プレーパーク)」を、猪名川町つつじが丘及び川西市北陵地区の地域住民との協働により実施。プレーパークのノウハウが川西市多田小学校区防災会の防災訓練に展開。</p> <p>地域団体の活動情報のITネットワーク化の検討のため、管内のコミュニティを対象に「ホームページ設置についてのアンケート」を実施。</p> 
世代間交流を通じ、高齢者の地域活動を考える	<p>高齢社会における新たなライフスタイルを考える「高齢者ふれあいフォーラム」を宝塚市で開催。地域の方々から募集した「高齢者の主張・提案」を発表するとともにパネルディスカッションを実施。</p> <p>定年退職した男性の社会復帰方策や、地域での子育て支援のあり方などを考える「世代間交流のあり方を考える」フォーラムを、三田市、伊丹市で開催。</p> 
小中高生参加交流イベントなどを通じて青少年の育成を支援	<p>スポーツのすばらしさを通じ青少年の目を外に向けさせようと、地域のファミリースクールやNPO、地域のスポーツ団体などと協働。プロスポーツ選手を招き、中高生参加の交流イベント「ドリームスポーツ」、小中学校生を対象とした「バスケットボールクリニック」を開催。</p> <p>「青少年の健康について考える講演会」を宝塚市で開催。</p> 


### 行動目標2 自律と協働による温かいコミュニティをつくる

活動目標	主な取組内容
特に高齢者、障害者を対象に、健康で安心して暮らせるコミュニティづくり	<p>「シニア組織の活性化」に向け、川西市内の老人会をモデルに、現状を検証。川西市に新しい発想で発足した“悠々シニアクラブ”の事例を研究し、シニアの活性化、組織率の向上方策を検討。</p> <p>高齢者でも安全にすることができ、減塩など栄養バランスにも配慮した料理をつくる「元気で長生きできる料理教室」を各市で開催。</p> 
地域の温かいコミュニティづくり	<p>イベントを通じたコミュニティづくりに向け、ありまふじフェスティバル実行団体の一員として、健康増進や参加者相互が交流する「ふれあい健康ウォークラリー」を実施。“音楽でつなごう温かい地域コミュニティの輪”をテーマに、阪神北地域の合唱団体等が参加し、「阪神北地域ふれあいこんさあと」を宝塚市で開催。</p> <p>活動内容を紹介したホームページを作成。</p> 


### 行動目標3 自然と豊かに調和した安全・快適な都市環境を創造する


活動目標	主な取組内容
ゴミの再資源化等への取り組み (地球温暖化防止の取り組みを含めて)	 <p>「エコバスツアー」に参加し、リサイクルやゴミ処理の現状について学習するとともに、各市町のゴミ収集状況の調査を実施。            「環境家計簿」を作成し、各委員家庭でエネルギー使用量の対前年比10%減に取り組むとともに、ゴミの減量化や再資源化に向け、環境家計簿の普及方策などの活動を実施。</p>
河川愛護への参画	<p>一般県民の参加もえて、青野ダムなど武庫川流域の現状を調査する「エコ研修バス」を実施。            武庫川、猪名川の市民の視点で見た親水拠点を紹介するマップ「川に親しむ ~みんなの水辺を取り戻そう~」を発行。            各小学校での環境改善に向けた取り組みを紹介し、今後の取組を探る「こどもと地域の環境会議」を、伊丹市で県民局と協働開催。</p> 
不法看板撤去等への取り組み	<p>美しい都市景観を守るため、市民による不法看板・違法広告物の撤去活動について、宝塚市から「ボランティア活動員」などの説明を受け、実際に撤去作業を体験。            「不法看板等の実態と対策に関する提言」を作成して、市町や県と意見交換を実施。また、夢会議等で、市民、事業者に啓発。</p> 

### 行動目標4 豊かさにとぎわいを創出する新たな阪神経済を展開する


活動目標	主な取組内容
地域経済の活性化	<p>地産地消の取組を進めている「道の駅いながわ」や「パスカル三田」などの現地調査を実施、地域の産物を再発見。            互いにミステリーハンターの気持ちで、地域の見どころ、食べどころ、名物、名産等を調査探索。夢会議などで「おすすめ散策ルート」を紹介するとともに、「散策ルートマップ」を作成して活動成果を集約。</p> 

### ビジョン活動の普及啓発等


活動内容	主な取組内容
広報活動	<p>ビジョン委員会だより「夢じゃーなる」の発行や活動紹介パネルにより、委員活動を普及啓発。夢じゃーなるでは、管内市町長へのインタビュー「トップと語る」シリーズの実施や委員所属の団体の活動も発信。            県民だよりひょうご 阪神北版(ビジョン委員コーナー)や県民局ホームページ「各グループの活動状況」を、県民局と協働運用。</p> 
ビジョン勉強会	<p>ビジョンをもっと深く知ろう、そして活動につなげようと委員有志で開催。全県ビジョンの輪読や講演会などによる勉強会を実施。</p>

<p><b>ハートランドぐり石ネット</b></p> 	<p>地域のボランティア活動をサポートするため、登録バンクの設置、新サービスの開拓やスキルアップ研修等を行い、ボランティアの振興を図る。</p>	<p>・これまでホームページの開設、「ボランティアの井戸端会議」、「東播磨レクリエーション大会」などの研修会の開催のほか、「東播磨ちょっといいとこシリーズ」冊子の発行、「坐禅と手打ちうどんにチャレンジ」などのイベントを開催した。 ・また、今年度から県民局から「地域づくり活動サポーター設置事業」の委託を受け、地域づくり活動の支援やネットワーク化の活動事業に着手した。</p>	<p>今後とも地域のボランティア活動をサポートし、その振興を図っていく。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------

【いつまでも美しいハートランド】

プラン名	目標	実施状況	今後の取組
<p><b>水辺に学ぶプロジェクト</b></p> 	<p>東播磨の個性である川やため池など水辺について自ら学び、行政への参画、協働により、美しい水辺空間にするための取り組みを行う。</p>	<p>・ため池等の自然・歴史を学ぶため、「加古大池現地研修会」峠池で「スローフードフェアとミニフォーラム」を実施した。 ・別府川再生に向けた取り組みとして「身近な水辺再発見」「別府川ウォーク」「身近な川を地域のみんで考えよう」を実施した。 ・「水辺の達人、水辺に学ぶ指導者養成講座」を開催した。（全7回）</p>	<p>17年度は、県民局の提唱する「いなみ野ため池博覧会」に参画する。</p>
<p><b>みんなで作ろう - 美しいまちを</b></p> 	<p>「美しいまち（景観）・環境を住民の参画と協働でつくる」を目標に活動を進める。</p>	<p>・景観を阻害しているものをピックアップし、その対策を考えた。 ・美しいまちの概念、ツール、コンセンサスを得るための共通の利害を明確にした。 ・3市2町の「参画と協働」の推進状況を把握した。 ・美しいまちづくりの交流会を3回開催してきた。</p>	<p>住民が主体的に美しいまち（景観）づくりを行うための人材を育成するため、「まちづくりリーダー養成講座」を開催する。（3市2町各1回 計5回）</p>
<p><b>循環社会をめざして - ゴミの削減と資源化</b></p> 	<p>エネルギー削減とゴミ削減を図るため、住民一人一人が実践できる循環型のライフスタイルを提案する。</p>	<p>・循環社会の実現に向けてゴミの減量と自然エネルギー活用を図るため「地域創造市民塾」（全5回）、ゴミの循環や循環型社会実践の問題点についての「環境フォーラム」を開催した。また、「地球を守る環境展」に出展した。 ・五色町においてケナフの植樹、収穫、炭焼きを実施した。</p>	<p>来期からは循環社会に向けた新たな取り組みを計画する。</p>

【どこよりも力強いハートランド】

プラン名	目標	実施状況	今後の取組
<p><b>エコマネー導入に向けての検討</b></p> 	<p>地域のなかで、ボランティア活動やサービスの価値を交換し、循環させるエコマネー導入に向けての研究を行う。</p>	<p>「かがわエコマネー実験研究会」の活動に参画するとともに、新たな形式のエコマネーの展開について検討した。</p>	<p>自治会を舞台にしたエコマネーの実践を検討していく。</p>

(3) 県民局の支援状況

- ア 活動の自立化の支援  
ビジョン委員会が主体的に活動できるよう、**拠点スペースの確保**、情報交換手段として**メーリングリスト**を作成するとともに、**実践活動経費や情報誌発行経費の補助**を行った。
- イ 県民局アドバイザーの設置  
重点行動プラン毎に施策目標を同じくする参事を**県民局アドバイザー**として配置した。

## 北播磨地域ビジョン県民行動プログラム

心肺蘇生法を普及させ「命の教育」を推進していこう	
概要	<p>平成 15 年度は、13 中学校（管内 27 校）で「命の教育」講習と心肺蘇生法の実技講習会を実施した。また、講習を受けた中学生が核になり、講習をふり返りながら、家族や友達に命の大切さや心肺蘇生法を広められるよう、心肺蘇生法ハンドブック、心肺蘇生講習修了証を作成した。</p> <p>平成 16 年度は、15 中学校で講習の実施を計画しており、AED 講習を追加するとともに受講者には昨年度作成したハンドブック、修了証を交付することとしている。</p> <p>なお、心肺蘇生法ハンドブックは、新聞報道等を見た自治会等の防災講習関係者からも問い合わせが多く、多くの団体の防災講習等にも配布している。</p>
<b>今後の展望</b> 医師会、学校、消防、行政と地域のボランティアとして活動している北播磨地域ビジョン委員が核となってネットワーク化し活動を展開している。 今後もさらにこのネットワークを広げ、北播磨地域のどこにでも「命の大切さ」を実践できる人がいるよう活動していく。	
地域子どもの日をつくろう	
概要	<p>平成 15 年度は子どもと遊ぶイベントを 20 回実施し、3800 人の参加があった。このうち、子ども議会の開催にあたっては、管内市町長の出席を得て「大人になってやってみたいこと」をテーマに様々な提言の発表を行った。このようなイベントは、子ども会、PTA、自治会、各種サークルで多く実施されるようになってきているため、北播磨地域ビジョン委員会としては新たな展開を検討したい。</p> <p>今年度も管内小学 6 年生から“僕と私の夢づくり「みんなで創ろう わたしたちのまち」” 作文を募集し、その提案を取り入れ、発表会を夢会議で実施した。</p>
要	
<b>今後の展望</b> 北播磨地域ビジョン委員会が主催するイベントは調整しながら、地域の各種団体が実施するイベントのコーディネートや情報提供を行い、側面支援的な活動を広めている。	
歩いて見ようよ北はりま	
概要	<p>地域の自然、文化、歴史や人々との交流、歩く人の健康の維持などをめざし作成した 24 コースを収録したウォーキングマップを完成させた。</p> <p>平成 16 年度は、このコースマップを地域内外の人に利用してもらうため、他の県民行動プログラムとタイアップしたイベントの実施やマップ P R のための完歩記念バッジの作成を計画しており、ウォーキングで交流する人を増やしていく。</p>
要	
<b>今後の展望</b> 「北播磨交流の祭典～きらっと北播磨交流の大舞台 2005」でウォーキングイベントを実施するため準備を進めている。	

<b>北バーン！ 創祭り</b>	
概要	平成 15 年度は、先人たちの執り行ってきた祭りから北播磨を特徴づけた歴史や風土を学ぼうと、身近な隣保や町内会が行う小さな祭から、村や里の氏神さんの祭、市や町などが関わる大きな祭、寺院にまつわるものなど、北播磨地域各地で開催されている祭情報を収集し、小冊子「祭 ぎょうさん」を発行した。
<b>今後の展望</b>	
収集した情報をもとに、地域のコミュニティや祭りの原点を探り、新しい北播磨の交流の場を創造していく。	
<b>女性にも住みやすい「ハートランド」をめざして</b>	
概要	男女の性別に関わりなく、社会、組織、家庭等さまざまな場面で個性と能力が発揮でき、男女が共にいきいきと暮らすことができる男女共同参画社会実現のため、女性や子ども等が住みやすい地域社会づくりをめざし、セミナーや寸劇等をつうじて意識変革や普及啓発に努めている。
<b>今後の展望</b>	
女性問題や社会問題について、セミナーの開催や情報交換等をつうじ、学び、気づき、考え、男女共生の立場に立って一人ひとりが自分に合ったライフスタイルを選択できる社会の実現をめざしていく。	
<b>街づくりダイエツ推進会議</b>	
概要	資源循環サイクルをめざす菜の花エコ・プロジェクトとバイオディーゼルエンジンの活用について研究するため、購入した廃食油を燃料にバスを走らせている。今後、このデータをまとめ、バイオディーゼル車の普及を図りたい。
要	また、国体のゴミの問題にも関わるため、アンケートを実施した。
<b>今後の展望</b>	
菜の花の栽培から菜の花の利用、廃食油の回収、精製、燃料としての利用等の資源循環サイクルの確立をめざす。	
<b>J R 加古川線沿線駅を交流の場に</b>	
概要	北播磨地域の J R 加古川線の駅を地域の玄関としてふさわしい地域住民の交流の場にしようと、まず手始めに黒田庄町で計画されている J R 黒田庄駅の周辺整備と駅舎立替計画の委員会に参加している。
要	黒田庄駅は現在建替え中である。
<b>今後の展望</b>	
ハード面は委員会に参加しながら意見を述べていくことにし、今後は、駅周辺を含めた活用ソフトを検討するとともに、北播磨地域の他の駅にも広げていきたい。	

## 中播磨地域ビジョン委員会の実践活動（平成16年度）

中播磨地域ビジョン委員会では、県民行動プログラムの取り組み方向を踏まえて、ビジョン委員自らが提案した、環境やコミュニティ活動、ネットワークづくりなどに関する具体的なテーマを掲げて、それぞれのグループごとの実践活動に取り組んでいます。

### 水を通じたネットワークづくり - 「中はりま水縁隊」グループ



白浜・播磨灘の現状について考える

市川・夢前川の再生をめざし、水をテーマとして、川遊びやゴミ、水質、水生物の生息、保水など、中播磨の山・川・海の問題について考え、環境保全活動のネットワークを広げています。



北はりま田園空間博物館での学習会

昨年9月には、白浜海岸・播磨灘の現状について、地元の漁業関係者の方々と意見交換を行いました。また、10月には、「北はりま田園空間博物館」でため池についてお話をうかがいました。今年の1月には、「川とつき合おう」をテーマとするセミナーを開催し、川を生かしたまちづくりやまちを生かした川づくりなどについて意見を交わしました。

### 高齢者の体力測定の実施 - 「高齢者の体力測定」グループ



体力測定の様子（10m障害物歩行）

高齢者が、自分の体力や健康状態にあわせて楽しみながら身体を動かし、健康づくりや体力の保持を行うとともに、シニアスポーツへの参加を通じている人々との交流を図ることができるよう、地区老人会などの協力のもと、小学校などの施設を利用して体力測定会を実施しています。



測定後の個別指導

姫路市立荒川小学校で行った体力測定会（H16.10）では、約150名が参加して、握力や上体起こし、10m障害物歩行など6種目の測定を行いました。また、測定結果をもとに、今後の体力づくりや日常の運動で留意すべきことなどについて、個別のアドバイスをさせていただきました。

### 夢サロンの開催 - 「夢サロン」グループ



ビジョン委員によるリラックス体操

地域の人々一人ひとりの自己実現を促し、生きがいをもった暮らしができるよう、創作活動のための環境づくりに取り組んでいます。公民館などを利用して、地域住民自らが創作した絵画や工芸の展示、演奏や踊りの発表を行いながら、お年寄りから子どもまで、すべての地域の住民が気軽に集うことができる「サロン」を開催しています。



バンド演奏にあわせて即興のダンスも

17年2月に姫路市平松公民館で開催した「平松サロン」では、近隣の方など延べ約180人の参加のもと、バンド演奏や舞踊、かつぼれなどを鑑賞しながら、昼食やティータイムで楽しい語らいのひとときをすごしました。

### ふれあい広場づくり - 「地域のふれあいの場づくり」グループ



3世代が仲良く集う北原ふれあい喫茶



地域住民が世代を越えて、ふれあい、交流することができるよう、公民館などを活用して、健康や福祉などをテーマに、「ふれあいの場づくり」をすすめています。昨年10月には、グループメンバーのビジョン委員が地域で中心となって運営している「北原ふれあい喫茶」を見学し、地元自治会の方と意見交換を行いました。また、11月に開催した「福崎町ふれあい健康広場」では、パーキンソン病家族の会の皆さんの協力を得て、車いすダンスや健康体操などで地域の人々との交流の輪を広げることができました。

地域住民が世代を越えて、ふれあい、交流することができるよう、公民館などを活用して、健康や福祉などをテーマに、「ふれあいの場づくり」をすすめています。昨年10月には、グループメンバーのビジョン委員が地域で中心となって運営している「北原ふれあい喫茶」を見学し、地元自治会の方と意見交換を行いました。また、11月に開催した「福崎町ふれあい健康広場」では、パーキンソン病家族の会の皆さんの協力を得て、車いすダンスや健康体操などで地域の人々との交流の輪を広げることができました。

## 地域の情報拠点づくりとネットデイの支援 - 「いきいき・ワクワク」グループ、「なかはりま夢21倶楽部」グループ

「いきいき・ワクワク」グループでは、「地域の頑張る人」を応援するために、地域活動情報の受発信を行う拠点づくりに取り組むとともに、学校の情報環境を整備するネットデイ活動の支援を行っています。



千人近い参加者で賑わった別所小ネットデイ

また、「なかはりま夢21倶楽部」グループでは、「夢21委員会」から「地域ビジョン委員会」へと積み上げられた専門家や実践家の人的ネットワークを活用して、ビジョン委員会の活動や様々な地域づくり・まちづくり活動のサポートに取り組んでいます。

昨年11月に行われた坊勢中学校（家島町）と別所小学校（姫路市）のネットデイでは、2つのグループが共同して、地元のPTAや住民、ボランティアの方々とともに、配線工事や交流行事などに汗を流しました。



島の魅力を世界に発信！（坊勢中ネットデイ）

## まちの魅力マップづくり - 「中播磨マップ部会(まちの魅力部会)」グループ



家島町での魅力探訪（H15.8）

「まちの魅力はそこに住み生活している人々の魅力からつくられる」、「人のつながりがまちを活性化させる」、「まちづくりはひとづくり」の視点から、地域の名所・旧跡、特産品や伝統文化、人などをテーマに、地域の魅力をまとめたマップづくりを行っています。

今年度は、まちの様々な魅力と地域の特色を生かしながら自分の生活の場で頑張っている魅力ある人を発見しようと、大河内町（8月）と家島町（11月）を訪ねました。昨年度は、家島町、夢前町、香寺町で魅力探しを行いました。



こんにゃくづくりに挑戦（大河内町）

## ゴミ減量化のためのコンセンサス会議の開催 - 「ゴミ減量化のためのコンセンサス会議」グループ



第1回コンセンサス会議（県姫路庁舎）

ゴミの減量化の問題については、家庭や地域の身近な問題として、私たち一人ひとりが真剣に考え、取り組む必要があります。

そこで、市民参加による「コミュニティ・コンセンサス会議」の手法を用いて、ゴミの減量化への課題や解決方法などを探り、意識啓発を図っています。

「家庭ゴミの有料化」をテーマに、12月と2月に2回のコンセンサス会議を開き、専門家と県民代表との公開による質疑応答を行いました。その内容を踏まえて、提言書として取りまとめることにしています。



第2回コンセンサス会議（県立大学）

## 子育て支援活動とネットワークづくり - 「よんでヤ！いくよ・子育て応援ダン」グループ



親子のふれあいゲーム（坊勢幼稚園）

子育てに悩むお母さんたちを支援するために、「実践に勝る学びなし」をモットーに、紙芝居や木工クラフトなどの遊びを通じた子育て教室の開催や様々な子育て支援活動のネットワークづくりに努めています。

今年度は、家島町坊勢幼稚園（6月）や夢前町ゆめさきの森公園（7月）などで親子ふれあいイベントを実施したほか、10月には、姫路市のあいめっせホールで、まちづくりの専門家や子育て支援の実践家の方々とパネリストを迎えて、「広がれ子育て支援の輪」をテーマにシンポジウムを開催しました。



楽しい人形劇（シンポジウム）

西播磨フロンティアを拓くプログラム  
 「西播磨地域ビジョン推進プログラム」の進捗状況について

1 県民行動プログラムの進捗状況について

第2期「西播磨地域ビジョン委員会」では、第1期より継続した活動を展開し、県民行動プログラムに掲げた西播磨重点アクション項目を推進するため、4つの分科会、8つの推進チームによる以下の実践活動を行い、ビジョンの普及啓発に取り組んでいる。

【重点アクション項目の主な取り組み】

出る杭大会の開催・出る杭大賞の選定	
趣旨・実績	<p>意欲ある人の社会的認知・応援のため、西播磨フロンティア祭のイベントにあわせ、「第2回出る杭大会(参加:38団体)」(H15.4.29)、「第3回出る杭大会(参加:45団体)」(H16.4.24)を開催した。両大会とも約1万人の来場者で賑わった。</p> <p>来場者の投票や地域ビジョン委員による審査により「出る杭大賞」などを選定した。受賞団体にはビジョン委員が自らの募金活動により集めた活動資金を副賞として贈呈した。</p> <p>この大会には、高校生のボランティアが多数参加し、会場の運営その他に活躍した。</p> <p>「ふれあいフェスタ2004inテクノ」等のイベント会場において、大会参加へのPR及び募金活動を実施した。</p>
展開後の	<p>「第4回出る杭大会」(H17.4.29)開催に向け、ビジョン委員を中心とし、第3回出る杭大賞受賞団体との協働のもと企画・運営について準備を進めている。</p> <p>機会がある度に、出る杭大会参加へのPR及び副賞のための募金活動を継続実施する。</p>
西播磨CI(コミュニティ・アイデンティティ)運動の推進	
趣旨・実績	<p>西播磨の誇りを地域内外の多くの人にアピールするため、西播磨の地域資源を収集し、情報発信する。</p> <p>ビジョン委員から寄せられた地域資源情報(約300件)の整理、検討を進め、「西播磨の誇り」データベースとして構築した。</p> <p>このデータベースは、ビジョン委員自らがホームページを立ち上げ、より良いものを目指し試行錯誤しながら内容の改善に努めつつ、現在発信中である。</p>
展開後の	<p>西播磨ツーリズム振興協議会等と連携して、データベースの件数・内容の充実を図るとともに、モデルコース設定等による活用を図る。</p>
「みんなの保育室」の開設、育児ボランティアによる一時預かり	
趣旨・実績	<p>地域内各地で活動している「西はりま子育て応援団」と連携を図るため、合同交流会(H15.7.18、H16.8.27)を開催した。</p> <p>各団体とも個々の活動を中心に継続した活動を展開しているが、各団体のレベルアップを図り、西播磨地域に子育て支援のネットワークの輪を広げることと、子育て奮闘中の方々への支援情報の提供を目指し、ビジョン委員自らが各市町へ出向き、「まちの子育てひろば」、幼稚園、保育所等の資料・情報を収集し「あなたの町の子育てサポートブック」(5,000部)を作成、配布した。(H16.10.31)</p>
展開後の	<p>「あなたの町の子育てサポートブック」の関係者へのPR、普及を進めて、子育て支援ネットワークの構築を目指す。</p> <p>子供たちを中心にしたイベントを企画・検討する。</p>
福祉マップ等の作成	
趣旨・実績	<p>平成14年度に障害のある人の社会参加支援を目的として、車イスの方が外出した際の利便性・安全性の向上を図るため、「西播磨福祉トイレマップ」を発行し、県民局ホームページに掲載するとともに、新規情報等を逐次ホームページに更新し、利用に供している。</p> <p>小規模作業所等を地域に認知してもらうことを目的に「西播磨の小規模作業所等紹介冊子-いのち・かがやく-」の作成のため、作業内容・製品の紹介や小規模作業所が今何を必要としているか等、ビジョン委員自ら現地を訪問し、資料を収集の上、発行作業を進めている。</p>
展開後の	<p>小規模作業所等紹介冊子の発行を契機として、小規模作業所等間のネットワーク化を進める。</p>



西播磨「森と川と海の月間」の設定	
趣旨・実績	<p>西播磨地域の恵まれた「森・川・海」を活かし環境創造活動につないでいくとともに、環境保全の意識を醸成するため、子供たちの夏休みである7月・8月を西播磨「森と川と海の月間」として設定した。</p> <p>夏休み期間中に森・川・海で行われる行事をとりまとめたリーフレットを作成し、西播磨地域の小学生全員に配布した。</p> <p>平成16年7月29日開催の森・川・海子ども交流会（県民局、教育事務所主催）に参加し、子供たちとの交流のなかで環境保全について共に学習した。</p>
展 今 開 後の の	引き続き、森・川・海で行われる行事を紹介しつつ、水生生物観察会等の自然と親しむためのイベント活動を展開する。
地域通貨制度（エコマネー）の導入	
趣旨・実績	<p>西播磨地域におけるボランティアの輪を広げ、高齢者の介護、育児補助など、多様な分野で助け合いを進めるための手段として、地域通貨制度（エコマネー）の導入を図り、地域に拡充させて行く。</p> <p>先進地視察として、龍野地区地域通貨「とんぼ」（H15.9.5）の実施状況を調査した。</p> <p>平成16年5月13日に太子町において、地元団体と共催で地域通貨制度に詳しい県立大学：岡田眞美子教授（ビジョン委員会副委員長）の講演会を開催し、地域住民に地域通貨制度をアピールした。</p> <p>太子町では、地域通貨「ひまわり」の第2回流通実験を実施中であり、相生市では、2月20日に地域通貨「ぺいろん」の会設立総会が開催された。</p>
展 今 開 後の の	地域内において、エコマネーの導入を検討している個人・団体を支援するとともに、ビジョン委員会内においても、具体的な導入についての検討を行う。
西播磨統一「マイバッグ持参キャンペーン」の展開	
趣旨・実績	<p>ゴミの減量化や省資源化への意識を高めることを目的とし、既存の取り組みをネットワークしつつ、西播磨統一「マイバッグ持参キャンペーン」を実施する。</p> <p>イベント等での啓発資材として、運動への参加を呼びかける独自のステッカーを作成し、率先してバッグ等に帖布するとともに、イベント等で配布した。</p> <p>「出る杭大会・西播磨ふるさとバザール」や「ふれあいフェスタ2004 in テクノ」の会場において、ゴミ持ち帰りパトロール隊による『ゴミ持ち帰り運動』を実施し、会場ゴミの減量化に成果をあげた。</p> <p>相生市「羅漢の里もみじまつり」（H15、H16）等の会場において、『ゴミ持ち帰り運動』に協力した。</p> <p>毎月5日の「ノーレジ袋の日」運動について、地元スーパー等の取り組み状況を平成15年7・8月に調査、同時に買い物客のマイバッグ持参の状況調査を実施した。</p>
展 今 開 後の の	<p>業者及び買い物客ともにマイバッグに対する意識の希薄なことが判明したため、毎月5日を中心に意識啓発活動を展開する。</p> <p>西播磨地域で開催されるイベントにおいて、ゴミ持ち帰り運動の輪を広げる。</p>
上下流の人をつなぐ森林保全のための意識啓発	
趣旨・実績	<p>豊かな清流を育む森林を保全するため、上下流住民が交流を進め、森林保全の必要性について意識啓発を進めて行く。</p> <p>平成16年11月9日に、山林（上流域）を対象に波賀町で観察会を開催し、台風の被害現況を含め、森林保全の意識啓発の必要性・重要性についての再確認の場とした。</p> <p>平成17年3月6日に、海（下流域）を対象に相生湾の観察会に併せて、「第2回環境フォーラム in あいおい」を開催し、西播磨各地より参加者を得て、上下流住民の交流を図り、意見交換等を行い森林保全に対する再確認の場とした。</p>
展 今 開 後の の	中流域における水生生物観察会を行う等により、上下流住民の交流と相互の理解を深めながら、併せて森林保全の意識啓発を行う。





## 第2期県民行動プログラムの取組状況

但馬夢テーブル委員会では、以下の10プログラムに取り組んでいる。

なお、今年度2グループ（巨木・伝統行事）において、プログラムグループが母体となって新たな活動組織を設立し自主的な活動を展開している。

プログラム項目	活 動 内 容
プログラム1 映像で但馬を発信	地域の映像情報等の発信等の取り組みを通して、映像やまちづくりに関心のある人の輪を広げ、映像を核にしたまちづくりを進める。 (取組状況) ・NHK等で地域の映像情報を発信 ・映像作家を招き、映像鑑賞会「但馬夢しあたあ」を開催
プログラム2 山陰海岸国立公園を世界の公園にしよう	山陰海岸国立公園の学術的な価値や景観の素晴らしさを広く紹介し、ジオパークとして認知されるための活動を進める。 (取組状況) ・現地調査を実施し、映像記録を作成 ・山陰海岸国立公園指定40周年記念フォーラムを開催 ・サンケイリビング等で活動等を紹介
プログラム3 花いっぱい運動	自分たちの住む自然環境について学ぶとともに、花づくりに関する研修会や活動の発表会を開催しながら、但馬らしい花の植栽・保全を進める。 (取組状況) ・自然観察会の実施 ・花と緑あふれる但馬づくりフォーラム（環境課主催）で活動発表 ・さし木づくり教室の開催
プログラム4 まちづくり人フォーラムの実施	「但馬を元気に！」を目標に、但馬の「人財」から学び、「人財」を紹介するためのまちづくり人フォーラムを開催する。 (取組状況) ・まちづくり人フォーラムを開催 ・たじままちづくり人探訪を開催
プログラム5 男女共同参画セミナー・フォーラムの実施	男性・女性を問わず経済的自立を促進するため、年金・税制からワークスタイルを考えるセミナーを開催するとともに、家事、育児、介護等家庭内での男女の役割分担などの身近な問題を考えるフォーラムを開催する。 (取組状況) ・自分の生活設計を考える3回の連続セミナーを開催
プログラム6 障害者・高齢者・青少年を結ぶトライアングルネットワークの形成	障害者についての理解を深めながら、地域住民とのネットワークを構築し、多くの住民と交流を進めるとともに、福祉、教育、まちづくり等様々な分野で障害者、高齢者、青少年と一緒に参画できるような橋渡しの活動を検討する。 (取組状況) ・障害者支援施設等へのアンケート調査を実施（95施設・団体） ・冊子「但馬内の障害者施設・団体・グループ」の作成
プログラム7 地域での伝統行事・民俗芸能の復活・継承への支援	伝統行事・民俗芸能の復活・継承に関する情報発信や交流の場となる住民レベルの情報センター（但馬文教府内）の設立を検討するとともに、伝統行事・民俗芸能への理解を深めるフォーラムを開催する。 (取組状況) ・市町の伝統行事・民俗芸能の調査 ・伝統行事・民俗芸能の復活・継承をともに考えるフォーラム開催

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おまつり探検隊の実施</li> <li>・但馬民俗芸能応援隊の設立(H16.5)</li> </ul>
プログラム8 巨木百選マップづくり	<p>但馬の豊かな自然を象徴する巨木に焦点を当て、巨木マップを作成し、巨木を取り巻く生態系を守り育てる意識の高揚と地域振興のための活用策を検討する。</p> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巨木見学会の実施</li> <li>・「但馬の巨木百選」の発行</li> <li>・たじまの森・川・海を考える環境セミナーの開催</li> <li>・サンケイリビング等で活動等を紹介</li> <li>・但馬巨木保存会の設立(H16.5)</li> </ul>
プログラム9 ゴミゼロ但馬の実現に向けた行動の展開	<p>持続可能な循環型社会の構築をめざし、但馬地域内でのレジ袋の減量・有料化に向けた活動を進める。</p> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・但馬地区5R生活推進会議での活動発表</li> <li>・但馬マイバッグ持参運動推進会議の開催</li> <li>・「但馬ノー・レジ袋デー」の設定(H16.6～毎月第1土曜日)</li> <li>・但馬マイバッグキャンペーン運動の実施</li> </ul>
プログラム10 環境学習団体のネットワークの形成と学習プログラムの検討	<p>安全・安心な食の確保に向け、生産者と消費者との橋渡しとなる活動を検討するとともに、たじま緑のネットワークへの支援を検討する。</p> <p>(取組状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会・現地見学会の開催</li> <li>・有機農業実践者を囲む会の開催</li> <li>・流通業者との懇談会の開催</li> </ul>

## 丹波地域ビジョン推進プログラムの推進状況

### 1 県民行動プログラムの推進状況

丹波地域ビジョン委員会では、丹波地域ビジョンが掲げる5つの将来像ごとに分科会を設け、その下で12のプロジェクトに分かれて実践活動に取り組んでいる。

#### 将来像1 丹波のことは自分たちで決める仕組みがある地域

##### 情報公開プロジェクト

緑条例をケーススタディとして条例の概要や住民主体のまちづくりの方法を学び、住民団体間の橋渡し役として、地域づくりに取り組んでいる集落の参加を得ながら、フォーラムを開催し、丹波のことは自分たちで決める仕組みづくりに取り組む。

- ・緑条例フォーラム 15年1月25日 かいばら生学習の森 120人
- ・まちづくりフォーラム 16年12月5日 篠山市民センター 122人

##### 情報発信プロジェクト

NPO法人「たんばぐみ」の発行する丹波情報発信誌「きのわ」を利用してビジョン委員会活動、地域団体活動などの情報発信

- ・年4回 各5000部



緑条例フォーラム

#### 将来像2 都会に近い田舎の良さを活かす地域

##### 都会に近い田舎を調査しようプロジェクト

丹波の自然調査を通じて丹波の自然を知り、地域内外の人と交流を深める。

- ・ヒメボタルサミットに参加
  - 15年7月5日 やまなみホール 280人
  - 16年5月8日 箕面文化センター 100人
- ・県下地域ビジョン委員交流会 薬草薬樹公園（丹波市） 20人
- ・ヒメボタル・ゲンジボタル調査（5月～7月）
- ・加古川水生生物調査 15年7月、10月 16年8月、9月
- ・岩屋谷川水生生物調査（トライやるウィーク受け入れ） 16年6月
- ・加古川鳥類調査



トライやるウィーク中学生による水生生物調査

##### 都会に近い田舎を活用しようプロジェクト

丹波の農産物、里山等都会に近い田舎にある優れた資源を活用する方策を、阪神南地域ビジョン委員など都市部の住民と交流しながら考える。

- ・阪神南ビジョン委員とアミシング潮江フェスタ（尼崎市JR尼崎駅北地区）で丹波産物産販売 15年11月18日
- ・阪神南ビジョン委員と神楽の郷訪問、交流開始 15年12月28日
- ・近松門左衛門生誕350周年記念事業「作魅っ人 作味っ都」参加 16年3月20日 丹波の森公苑（阪神南ビジョン委員、知事参加）
- ・阪神南ビジョン委員、都市住民との交流会 16年4月29日 春日町栢野



都市住民との交流会

#### 将来像3 多世代が支え合う豊かなコミュニティがある地域

##### 青少年健全育成を考えようプロジェクト

丹波地域の青少年問題の現状調査をし、若者との意見交換しながら地域で育む取り組みを考える。

- ・丹波青少年本部長を招いて学習会 15年7月26日

##### 高齢者を支え合う仕組みをつくらうプロジェクト

丹波地域の集落毎の高齢化率や高齢化進行地区を調査し、高齢化意識調査を通じて高齢者を支え合う仕組みを考える。

- ・地区別高齢化調査 15年7月実施
- ・高齢化に関する住民アンケート 16年5月～6月

### 男女共同参画を実現しようプロジェクト

小規模なワークショップを実施し、議論を深めながら、県や市町が推進する男女共同参画推進団体のフォーラム等にも参加し、団体間のネットワークを広げる。

- ・男女共同参画ワークショップの実施
  - 15年6月14日 丹波の森公苑 20人
  - 9月14日 ライフピアいちじま 23人
- ・16年5月26日 「たんば本音でしゃべり場」  
かいばら生涯学習の森 23人
- ・16年9月11日 「たんば本音でしゃべり場」part 2  
篠山市西紀支所 27人
- ・16年11月19日 「たんば本音でしゃべり場」part 3 かいばら生涯学習の森 18人



男女共同参画ワークショップ

## 将来像4 幅広い働き方・いろいろな職種・手応えを感じる社会活動ができる地域

### 丹波の森何でも百貨店をオープンしようプロジェクト

朝市や直売所のネットワークづくりや、丹波ブランドの直販所への拡大を目指す。

- ・こんだ薬師温泉「ぬくもりの郷」に「たんばブランド」直販所設置 16年2月
- ・16年10月2・3日 丹波伝統の「衣」と「食」について発表  
（「ほっ！」んまの丹波 このぬくもりを伝えたい）  
（3プロジェクト合同）かいばら生涯学習の森 300人

### 丹波の食文化を発掘しようプロジェクト

丹波の山、野原、田畑など身近にある食材、薬草など古来から利用してきたものを調査し、丹波の食文化を発掘し、その活用を通じて地域の活性化を目指す。

- ・丹波の食材・薬草調査（15年度）
- ・16年2月14日 食の復活サミットin丹波に参加 篠山市民センター 100人
- ・16年10月2・3日 柿酢、黒豆茶等の試食会

### 丹波をつなごうプロジェクト

丹波木綿など丹波に眠っている様々な資源を掘り起こし、相互につなぎ合わせて地域活性化につなげる。

- ・16年2月14日 食の復活サミットin丹波に参加 丹波木綿展示 篠山市民センター 100人
- ・16年10月2・3日 丹波の木綿、丹波布の実演と講演会



無形文化財「丹波布」の糸紡ぎ実演

## 将来像5 バリアのない地域

### 地域内・男女のバリアをなくそうプロジェクト

地域（集落）内での男女間のバリアに視点を置いて、集落規約や組織役員の男女比等現状を調査し、バリアをなくすようなモデル規約の作成やモデル集落による規約の検討を通じて地域内でのバリア解消を目指す。

- ・バリアのない地域フォーラム 16年2月15日 篠山市民センター 70人
- ・活力ある地域づくりフォーラム 16年11月28日 黒豆の館 50人



バリアのない地域フォーラム

### 障害者・高齢者・外国人のバリアをなくそうプロジェクト

公共施設や集客施設等を実地調査し、フォーラム等を通じて、問題点を把握して各設置者等への提言をまとめる。在日外国人とのバリア解消についても、NPO法人とも連携しながら検討する。

- ・バリアフリー状況実地調査 15年9月24日～10月20日  
（3回：車いす利用者、聴覚障害者も参加）
- ・県土整備部主催の道路現場見学会と意見交換会参加 15年11月27日
- ・バリアのない地域フォーラム 16年2月15日 篠山市民センター 70人



道路現場見学会

## 県民行動プログラムの取組み状況

淡路地域ビジョン委員会では、地域ビジョンの実現に向け、ビジョン委員を中心に地域の方々とともに次のような実践活動に取り組んでいます。

プログラム名	概 要	取組み状況
<b>まちぐるみ やさしいまちを 知ろう調べよう プラン</b>	島内の各市町や社会福祉法人等が運営・実施している福祉・医療施設等について、障害者や高齢者等の立場になって、実体験等することによりその問題点を提言し、見直しを求めていく。	・モデル的に公共施設等の一部の現地調査を行い、その結果についてパンフレットを作成（600部） 市町や老人クラブ等に配布
<b>花づくり・まちづ くりの交流</b>	花づくりを家庭からまちへ広げ、淡路島全体を花壇に見立てた花壇づくりを行う。 また、花づくりグループと連携を図りながら、花や緑の遊び方、技術の講習会、情報の提供を行う。	・関係団体等との連携による講習会の開催（年間20回） ・「あわじオープンガーデン」の開催（参加庭園42箇所） ・島内各地において、花づくりグループ等による「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」に向けた菜の花の播種を実施
<b>あわじ菜の花エ コプロジェクト</b>	休耕田等の有効活用により、菜の花を植栽し、花の名所づくりを行うとともに、廃食用油を回収し、軽油代替燃料や石けんとして利用する。	・10～11月には花づくりグループによって菜の花の播種を実施。 ・3月26日～27日にウェルネスパーク五色をメイン会場として淡路島一円で開催される「2005・第5回全国菜の花サミット in あわじ」の普及啓発
<b>地域でつくる自 然ふれあい手づ くり公園</b>	里山、休耕田や棚田などを活用して、学校や地域の人々、子どもたちが一体となって自由に冒険遊びができるプレーパークや自然とのふれあいや観察のできるピオトープの要素を備えた「手づくり公園」を地域住民の手でつくる。	・『「みなもとの森」で自然に学び楽しく遊ぼう』の開催 10月24日（日） 参加者 134名 植物観察や、ロープを使っての手づくりアスレチックづくり、小枝・草木を使った小枝細工、リースづくり ・3月26日（土）南あわじ市伊加利において、自然体験イベントを実施予定

プログラム名	概 要	取組み状況
<b>淡路島の多彩な魅力の情報発信による地域産業の活性化</b>	淡路島の住民が本物と認め、地域自慢できる「淡路ブランド」をあぶり出し、効果的な媒体を活用して住民の視線に立った情報を発信し、住民による地域の活性化行動を誘導する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子「淡路自慢コレクション淡路がいちばん」を作成（25,000部）</li> <li>関係団体の会合、研修会等で活用願うとともに、島内公立小中学校や各市町等に配布して情報発信の媒体として活用願い、消費拡大、地域活性化活動につなげていく。</li> </ul>
<b>資源循環型農業の推進</b>	たい肥の安定供給により有機物資源の有効活用、有機農産物の栽培を推進し、自然循環型農業の推進と環境の保全を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業技術会の開催</li> <li>有機農業実践者を対象に新技術の講習</li> <li>参加者 30名</li> </ul>
<b>あわじのマップづくり</b>	淡路の魅力要素である「はな」「ひと」「道」「風景(風土)」等の情報をマップにまとめ、情報発信と観光PR、また、これらの財産を活かす整備や緑花活動に役立たせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「花」「風景(風土)」グループに分かれ、2つのテーマに絞り、情報をネットワーク化させるマップづくりに取り組んだ。マップだけでは、記載できる情報量が限られているので、多くの情報が提供できるホームページを作成し、マップは、花と風土に関する主な情報を発信するとともに、ホームページに誘導させるものを作成（3,000部）</li> </ul>
<b>淡路島フェスティバル エンデワールド</b>	県民行動プログラムの広域的横断的実行と検証の場として、また、持てる力を顕在化させるため、環境立島推進をテーマに様々な催しを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～エンデ・ワールド2004～</li> <li>21世紀『淡路学セミナー』の開催</li> <li>「自然エネルギー導入先進国デンマークという国」</li> <li>講師 ケンジ・ステファン・スズキ氏</li> <li>日時 平成16年5月15日(土)</li> <li>参加者 延べ80人</li> <li>「淡路の魅力を満喫しよう！」別処塾～スモモ物語～</li> <li>日時 平成16年6月20日(日)</li> <li>参加者 100名</li> </ul>

### (3) 県行政への参画と協働を推進する施策(10施策)

#### 県民と情報を共有する

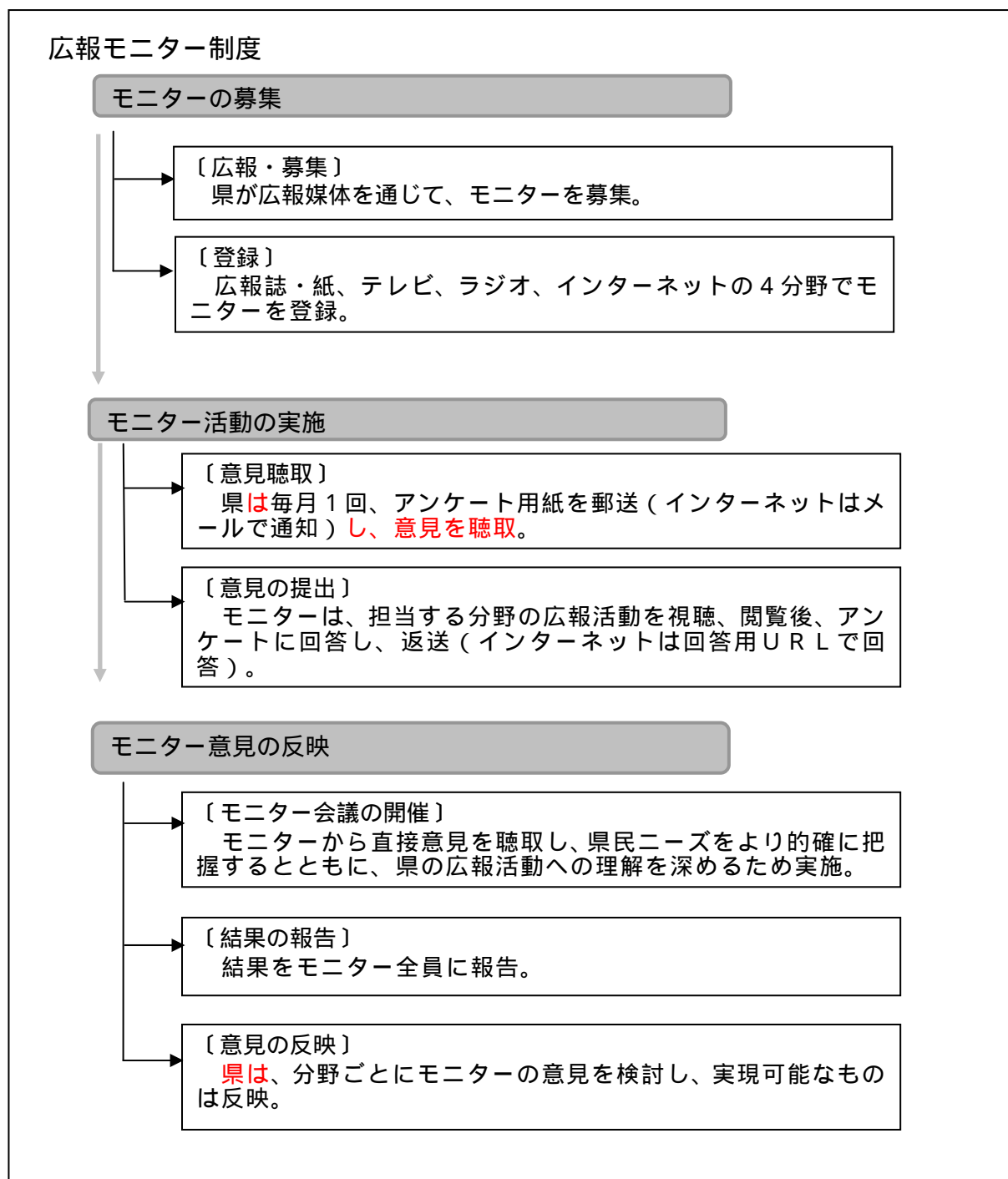
##### 県民参画による広報の展開(県民政策部)

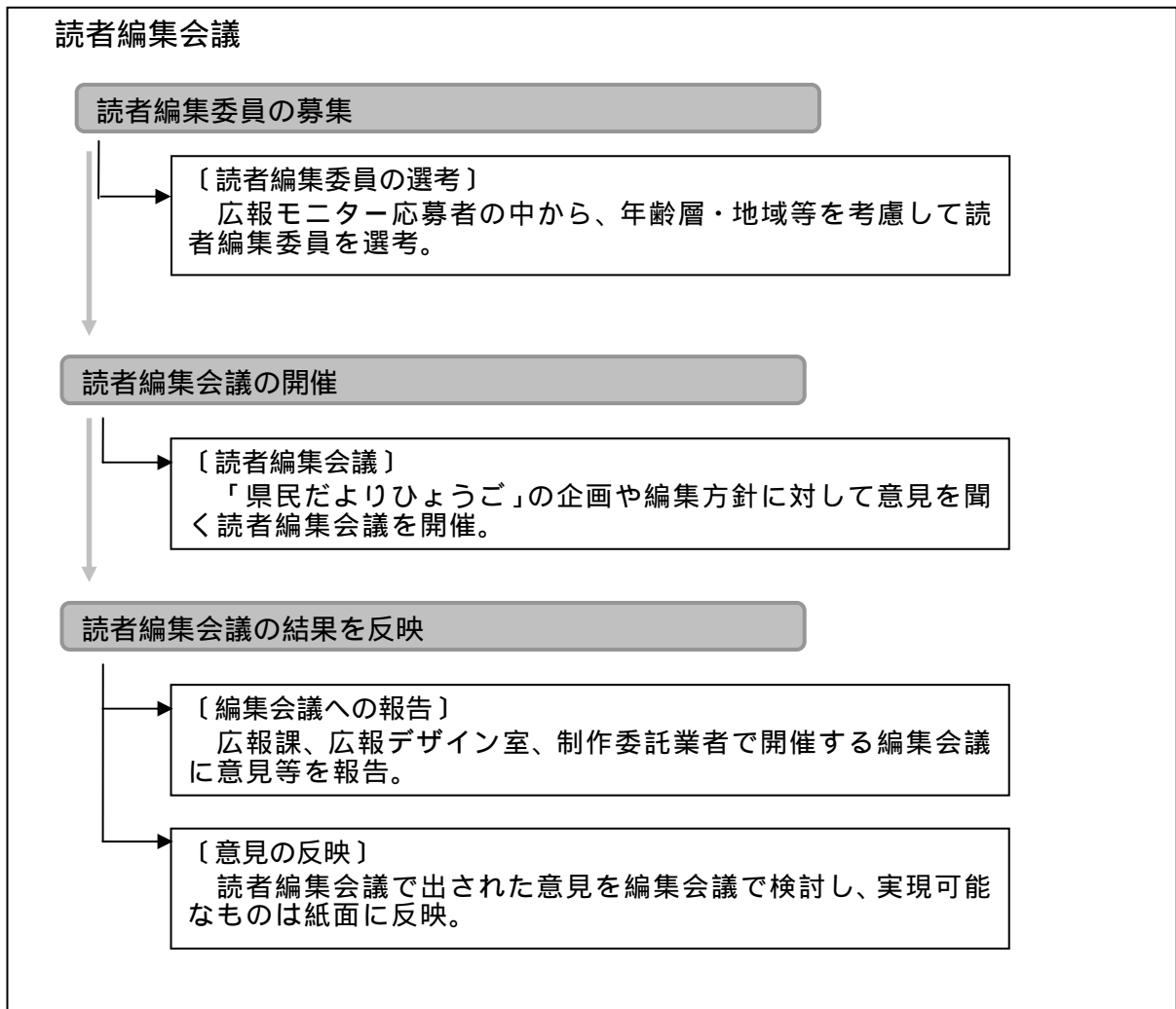
###### 事業概要

県民の方々の参画と協働を得ながら、生活者の視点に立った広報活動を進めていくため、広報活動に関する意見を聴取するモニター制度や、広報紙「県民だよりひょうご」の企画に対する意見を聴取する読者編集会議を実施し、広報活動やその企画・立案に反映します。

###### 参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルに、県民参画による広報を推進します。





### 参画と協働の実施状況

モニター制度、読者編集会議を実施し、読者や視聴者からの意見を受け付け、紙面づくりなどに反映しました。

モニター制度の実施状況（平成16年度）

モニター登録者：207名

分野	モニター登録者数
広報誌・紙	102
テレビ	24
ラジオ	20
インターネット	61
計	207

広報誌・紙、テレビ、ラジオ、インターネットの4分野についてモニターから聴取した意見を検討し、実現可能なものは反映しました。

また、モニター会議を年2回開催し、あわせて58名が参加しました。同会議では、県広報活動の概要説明、分野別会議、全体会議、公館見学等を行いました。

読者編集会議の実施状況（平成16年度）

読者編集委員：4名

読者編集会議を年4回開催し、県民の視点、特に主婦から見た「県民だよりひょうご」への意見・感想を聴取することができ、企画や編集に役立てることができました。

開催日時	議 題	参加者
平成16年8月16日(月)	・「県民だよりひょうご」について	4名
平成16年9月27日(月)	・9月号に対する意見・感想 ・11月号・12月号の企画について	3名
平成16年11月29日(月)	・11月号に対する意見・感想 ・1月号・2月号の企画について	3名
平成17年1月31日(月)	・1月号に対する意見・感想 ・3月号の企画について ・平成17年度企画について	4名

#### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

（モニター制度の拡充）

分野ごと（広報誌・紙、テレビ、ラジオ、インターネット）に実施していたモニター制度を拡充し、平成17年度は、新たに「県民モニター制度」を設置します。

「県民モニター制度」では、全ての分野に対する総合的な意見をモニターから聴取し、広報活動やその企画・立案に反映していきます。

（編集会議への参画）

平成17年度は、紙面づくりの企画検討段階から読者編集委員の参画を進めるため、毎月1回企画や編集方針を検討する編集会議に、公募で選ばれた読者編集委員1名が参加します。

また、「県民だよりひょうご」に加え、「ニューひょうご」についても、読者編集委員の参画を行います。

読者編集委員から、県民の目線で企画や編集に対し意見をいただき、紙面に反映させていくことにより、県民の視点に立った紙面づくりを目指していきます。

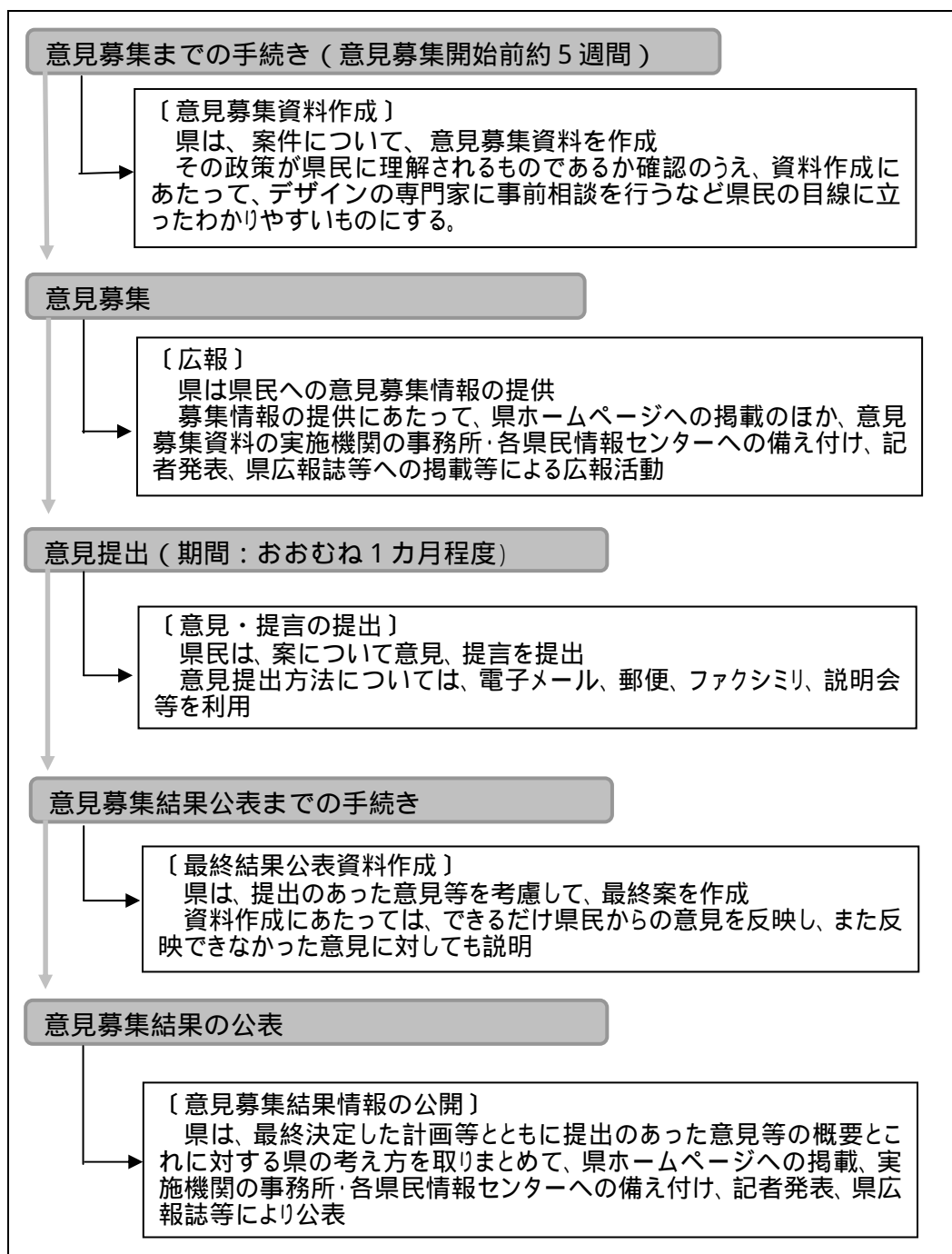
## 県民と知恵を出し合う

### 県民意見提出手続（パブリック・コメント手続）の充実（県民政策部）

#### 事業概要

県政運営における公正の確保と透明性の向上を図るとともに、県民に対する説明責任を果たしながら、政策形成段階から広く県民の意見等を求めるパブリック・コメントについては、実施機関の範囲、対象となる案件、発表の方法、募集期間、県民への対応などの手続きを統一し、一連の手続きの統一的な運用を推進していくため、平成 14 年 4 月に、「県民意見提出手続（パブリック・コメント手続）実施要綱」を制定し、その効果的な運用を図っています。

#### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

県民の関心を高めるため、デザイン面から専門家による審査を行うなど、わかりやすい資料の作成に努めるとともに、平成 16 年 4 月から、インターネットや県民情報センターにおいて、実施 3 ヶ月前と 1 ヶ月前の事前予告を実施するなど広報活動の拡充に努めました。

### 実施状況

平成 14 年に要綱制定後、平成 14～16 年度合計で 110 案件( 31、 38、 41)であり、約 5,500 人( については、意見集約が終わった 29 件)から合わせて、約 13,600 件の意見提出がありました。

1 件当りの平均提出意見数は、同 3 年間平均で約 140 件( 約 280 件、 約 105 件、 約 38 件)となっています。平成 14、15 年度には、極めて多くの意見提出があった案件があり、高い数値になっています。

年度	H14	H15	H16	H14～H16 合計
実施案件数(件)	31	38	41(29)	110(98)
意見提出人数(人)	2,887	2,054	550	5,491
意見提出件数(件)	8,562	3,985	1,091	13,638
平均意見人数(人)	93.1	54.1	19.0	56.0
平均意見件数(件)	276.2	104.9	37.6	139.2

平成 16 年度の意見提出件数等については、意見集約の終了した案件(29 件)の数値です。

### 意見提出手段別状況

郵送(平均で 39%)での提出割合が多くなっていますが、インターネットの普及を背景に、電子メール(同 34%)での提出も多いのが現状です。

年度	H14	H15	H16	H14～H16 平均
持参(%)	5.6	8.0	8.0	6.3
郵送(%)	42.0	33.9	18.9	38.6
ファクシミリ(%)	16.4	28.6	36.4	20.5
電子メール(%)	36.0	29.1	35.0	34.4
説明会(%)	0	0.4	1.7	0.2

### 提出意見反映状況

県民からの意見については、趣旨を踏まえ、専門的な視点からの検討を踏まえた上で対応しています。その結果、3 力年平均で約 30%の意見を「反映」している一方、「今後の検討課題」「対応困難」があわせて約 18%あります。

年度	H14	H15	H16	H14～H16 平均
反映した(%)	30.6	36.3	7.7	30.3
既に盛り込み済(%)	9.9	32.4	33.8	16.5
今後の検討課題(%)	14.6	5.6	11.5	12.4
対応困難(%)	6.5	3.2	7.7	5.9
その他(感想等)(%)	38.4	22.5	39.3	34.9

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(より実効性の高い制度に向けた検討)

3年間の取り組みの結果、パブリック・コメント制度について、県行政内部に浸透しつつあり、実施案件数が増加するとともに、3年間の平均で約3割の意見について最終案に反映させるとともに、手続の実施過程を通じて、県職員も説明責任の重要性の認識等、意識改革を促すなど、一定の効果をもたらしました。

これまでの実施状況や意見提出状況を見ると、県民への周知方法、対象案件の選定、募集期間、意見募集方法等について、次年度に行う参画と協働の施策の効果の検証のなかで総合的に検証し、より実効性の高い制度としていく必要があります。

例えば、同制度は、意見を提出していただくとともに、計画等の策定段階で広く県民に情報提供することにも意義があることも含め、PC制度の趣旨を周知するため、HPだけではなく、PC制度の説明ちらしの作成・配布等を検討します。また、一人でも多くの県民から意見を提出していただくために、広報活動を一層充実させ、意見募集の状況を県民に知っていただくことが必要です。このため、活用する広報メディアの拡充や募集案件内容の県民生活との関連、意義を的確に伝える工夫など、県民の目線に立った、よりわかりやすい資料の作成に努めます。

また、電子メール、郵便、ファクシミリなど多様な提出手段の確保に加えて、フォーラムや説明会等の実施など、県民の関心を高めるとともに、より意見を提出しやすい方策を検討します。

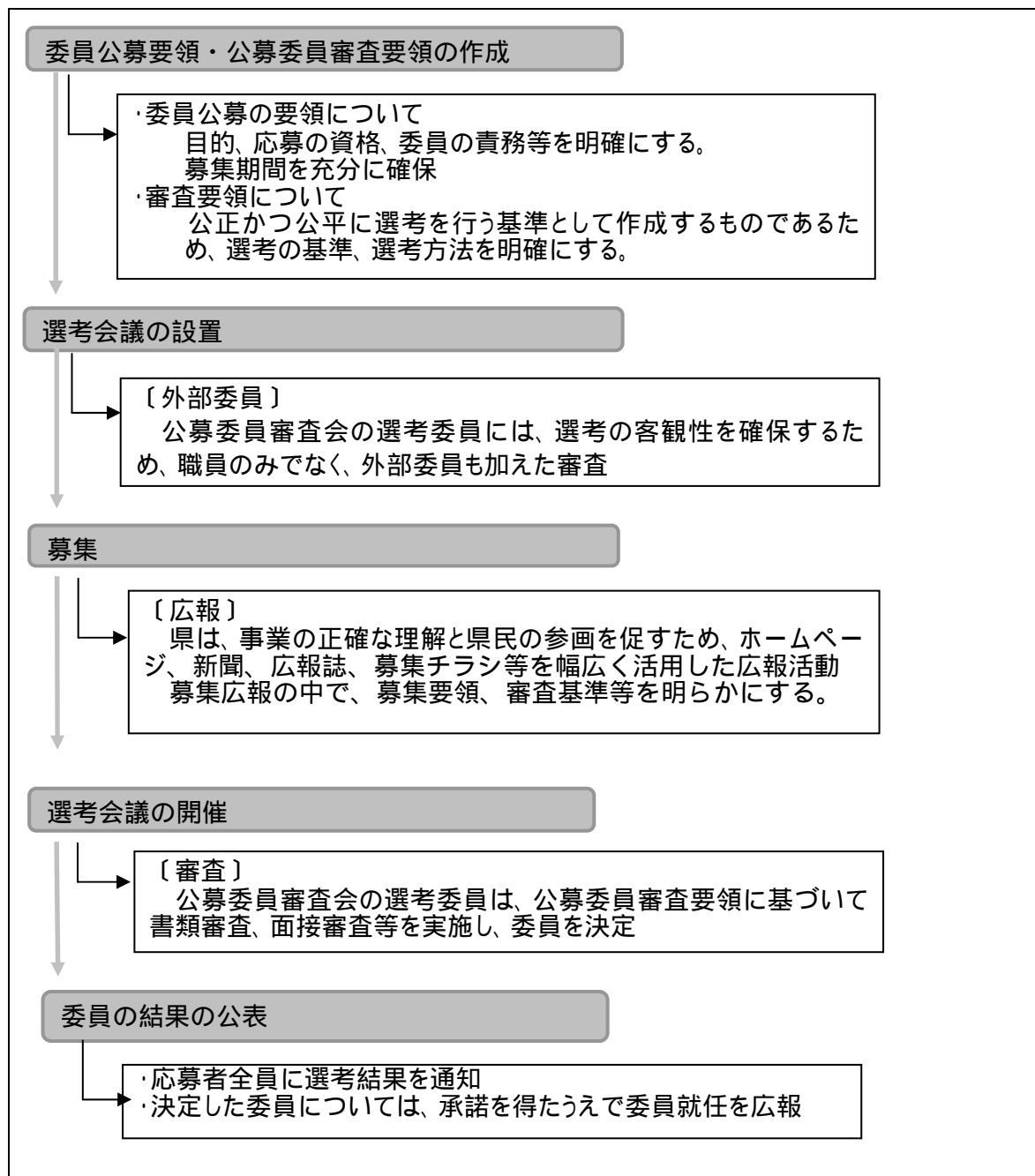
## 附属機関等の委員の公募に関する指針の運用（県民政策部）

### 事業概要

「県民の参画と協働の推進に関する条例」第9条の規定に基づいて、附属機関等の委員の公募を行うために必要な事項を定める指針を策定(平成15年4月1日施行)し、法令等の規定により公募を行う余地がない場合などを除き、県の政策の形成に関して調査審議するすべての附属機関等で、委員改選時に委員公募の積極的な導入に取り組みます。

### 参画と協働の方法

下記のような進め方を標準モデルに、具体的な方法については各機関の目的に沿って創意工夫を凝らし実施しています。



## 参画と協働の実施状況

### 委員を公募した附属機関等の数

(H17.3.31 現在)

機関数 区分	現在総数 a	公募委員の選任になじまないもの		検討対象	
		法令等の規定により委員の 選任対象者が定められてい るもの b	行政処分等の審査など 政策形成にかかわらない もの c	d= a-b-c	実施済 e
附属機関	70	9	24	37(37)	19(16)
協議会等	49	3	9	37(36)	19(11)
計	119	12	33	74(73)	38(27)

\* ( ) は 16.3.31 現在の数値

「附属機関等の委員の公募に関する指針」の策定により、委員を公募する附属機関等の数は、前年度 27 機関に比べ、11 機関増加の 38 機関（委員公募の対象となる機関 74 に対する導入率は 51.4%（平成 15 年度の導入率は 37.0%））となっています。委員改選時に委員公募は着実に導入されました。

委員の応募状況（上段：平成 16 年度、下段の( )内：平成 15 年度）

実施機関 数 (件)	採用者予定数 合計 (人)	応募者数 (人)	1 案件あたり 応募者数 (人)	1 採用あたり 応募者数 (人)
38	106	510	13.4	4.8
(27)	(78)	(474)	(17.6)	(6.1)

実施機関数の増加とともに、採用予定者数も増加しています。しかし、1 案件あたりの応募者、1 採用あたりの応募者数は前年度に比べ減少しています。

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （広報の充実）

採用者数は増加しているものの、1 案件あたりの応募者数は前年度実績からみると減少しています。多くの県民に応募いただくため、より一層の広報に努める必要があります。そこで委員の公募を行う際に、県民生活とのかかわりをわかりやすく説明するとともに、どのような人を募集したいのか、その対象に応じて広報先、広報媒体等の工夫をしながら、広く広報に努めます。

### （積極的な委員公募の導入）

当指針の対象とならない機関（設置期間が 1 年以下や、謝金を支給しないなど附属機関等に該当しない委員会等）で、主体的に委員の公募を行った委員会等は 4 機関ありました。このように指針の制定・運用は、県職員に委員公募を積極的に取り入れようとする意識を醸成しつつあります。

今後、指針の対象とならない機関においても、積極的に委員の公募が取り入れられるよう、進め方のノウハウなどの全庁的な情報の共有を進めていきます。

### （公募委員の意見を踏まえたしくみの改善）

公募委員の導入を着実に進めていくためには、公募委員として採用された人に意見を求め、しくみの充実に努めていくことが必要です。次年度に行う参画と協働の施策の効果の検証のなかで、公募委員の意見も踏まえて、このしくみを総合的に検証します。

## 御前浜水環境の再生（阪神南泉民局）

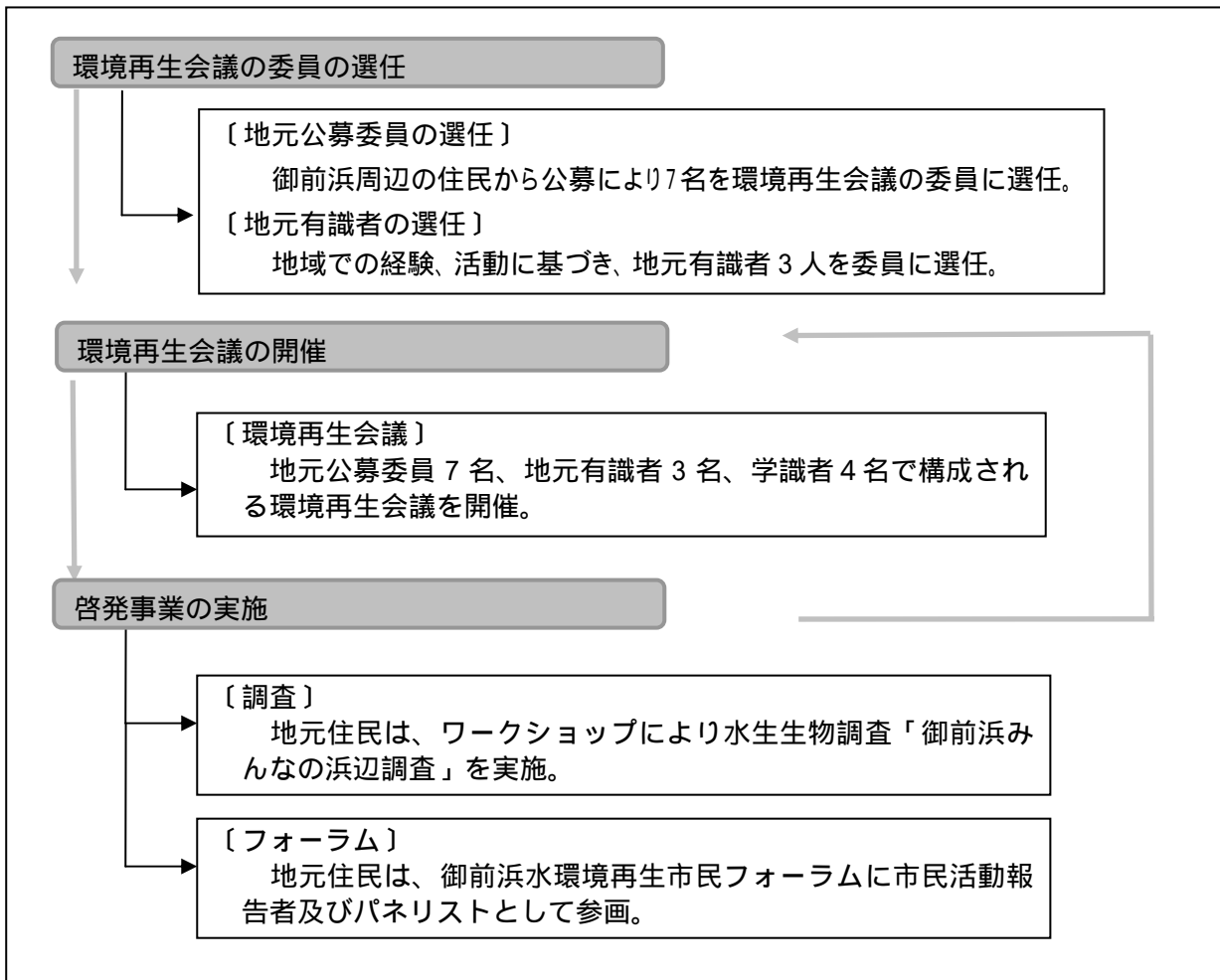
### 事業概要

水域の閉鎖度が高く、水質・底質の悪化、生態系の劣化が見られる西宮市御前浜において、地元公募委員、地元有識者等が参画する御前浜環境再生会議等で地域ぐるみの取り組み方策等を検討し、フォーラム、ワークショップ等を通じて人々が海に親しみ憩える水環境の再生をめざします。

### 参画と協働の方法

平成 16 年度には、地元公募委員、地元有識者を含む御前浜環境再生会議を開催し、水環境再生の具体的方策を決定し、地元の方々の関心を高めるためワークショップ、フォーラムを実施しました。

17 年度は、御前浜水環境再生懇話会を開催し、地元の参画を得た浜辺調査、フォーラムを実施する予定です。



## 参画と協働の実施状況

### 検討委員会

14名中7名の公募地元委員、3名の地元有識者を委員として採用し、年3回の環境再生会議を開催しました。

公募地元委員及び地元有識者が参画したことにより、具体的な目標設定及び今後の取り組み方策を決定することができました。

	開催月	議 題
第1回	8月9日	・15年度検討結果について ・水環境の現状と課題について ・16年度の検討内容について
第2回	11月15日	・水環境の再生方策について 目標、採用する技術の検討
第3回	2月15日	・水環境の再生方策について 目標、採用する技術の決定 ・16年度とりまとめ

### 啓発事業

御前浜に対する関心を高めるため、水生生物調査を中心とするワークショップ（御前浜みんなの浜辺調査）とフォーラム（御前浜水環境再生市民フォーラム）を行いました。

#### ワークショップ（御前浜みんなの浜辺調査）

内容：御前浜の生物調査  
調査結果の討論

	開催時期	参加者数
第1回	8月29日	22名の申込があったが、 台風のため中止
第2回	10月24日	40名

#### フォーラム（御前浜水環境再生市民フォーラム）

内容：御前浜環境再生会議の検討結果報告  
基調講演  
パネルディスカッション（地元の活動家からの報告）  
開催時期 3月12日 参加者 65名

ワークショップ、フォーラムを通じて御前浜水環境への関心が高まり、17年度から実施する実証実験施設（浅場）の建設の理解が深まりました。

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

（地元住民が参画した体制づくり）

平成16年度は、環境再生会議に公募地元委員及び地元有識者が参画したことにより、地域の意向を反映した具体的な目標設定及び今後の取り組み方策をとりまとめることができました。この目標の実現に向けては、一人ひとりの取り組みが重要であるため、引

き続き、ワークショップやフォーラムを開催し、参画と協働による取り組みを推進していきます。

また、水環境の再生のために、17年度に夏場も貝が生息できることを目標とした実験用の浅場を造成しますが、効果进行评估するには長い年月が必要です。そこで、効果进行评估するために16年度の環境再生会議の地元委員を中心に行政機関も入った御前浜水環境再生懇話会（仮称）を設置し、さらなる参画と協働に取り組みます。

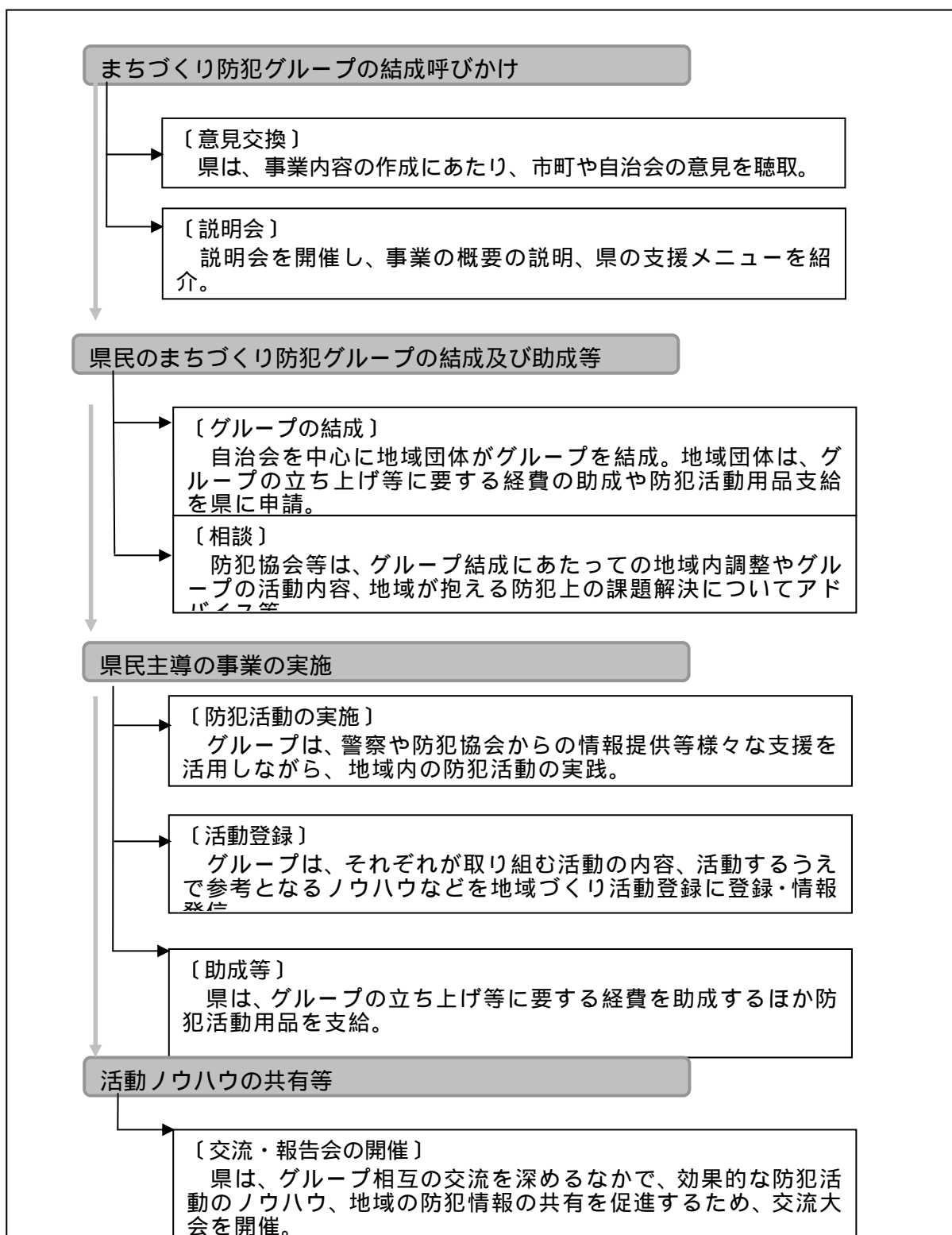
## 県民と力を合わせる

### 地域ぐるみ安全対策事業(新) (県民政策部)

#### 事業概要

まちづくり防犯グループの立ち上げ経費等の助成、防犯パトロール用品等の支給、防犯活動リーダー養成講座の開催など、まちづくり防犯グループの育成・支援などを通じて、地域住民を中心とする自主的な防犯活動の活性化を図り、県警察との連携の下、地域における犯罪発生を防止します。

#### 参画と協働の方法



## 参画と協働の実施状況

### 市町防犯担当課長会議等の開催

主な市町との意見交換会や市町の防犯担当課長を一堂に集めた市町防犯担当課長会議を開催し、まちづくり防犯グループに関する制度設計に先立ち、市町の意見を聴取しました。

- ・実施時期：平成16年8月2日
- ・参加者数：82名

### 立ち上げ経費等助成

平成17年3月末現在で、230グループに対して立ち上げ等に要する経費を助成しました。

- ・助成実績：27,247千円

### まちづくり防犯グループの結成

平成17年3月末現在、482グループ(2,354自治会の区域で活動)が結成され、地域住民の参画と協働の下、防犯パトロールや防犯意識の啓発活動等が展開されました。

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### (継続的な防犯活動の定着)

グループの防犯活動を支える人が特定の人になりがちであることから、活動する人の裾野を広げ、グループの防犯活動を継続し、地域に定着させていくためには、地域住民の防犯意識の底上げを図りつつ、防犯活動を取りまとめていくリーダーを養成していくと共に、地域住民だけでは解決できない防犯上の課題が解決されるよう個別具体的に支援していく必要があります。そこで、防犯協会と連携したノウハウの提供や、リーダーを養成する講座の開催や防犯課題の解決をサポートする専門家の地域への派遣など、実践的かつきめ細かなグループ支援を行います。

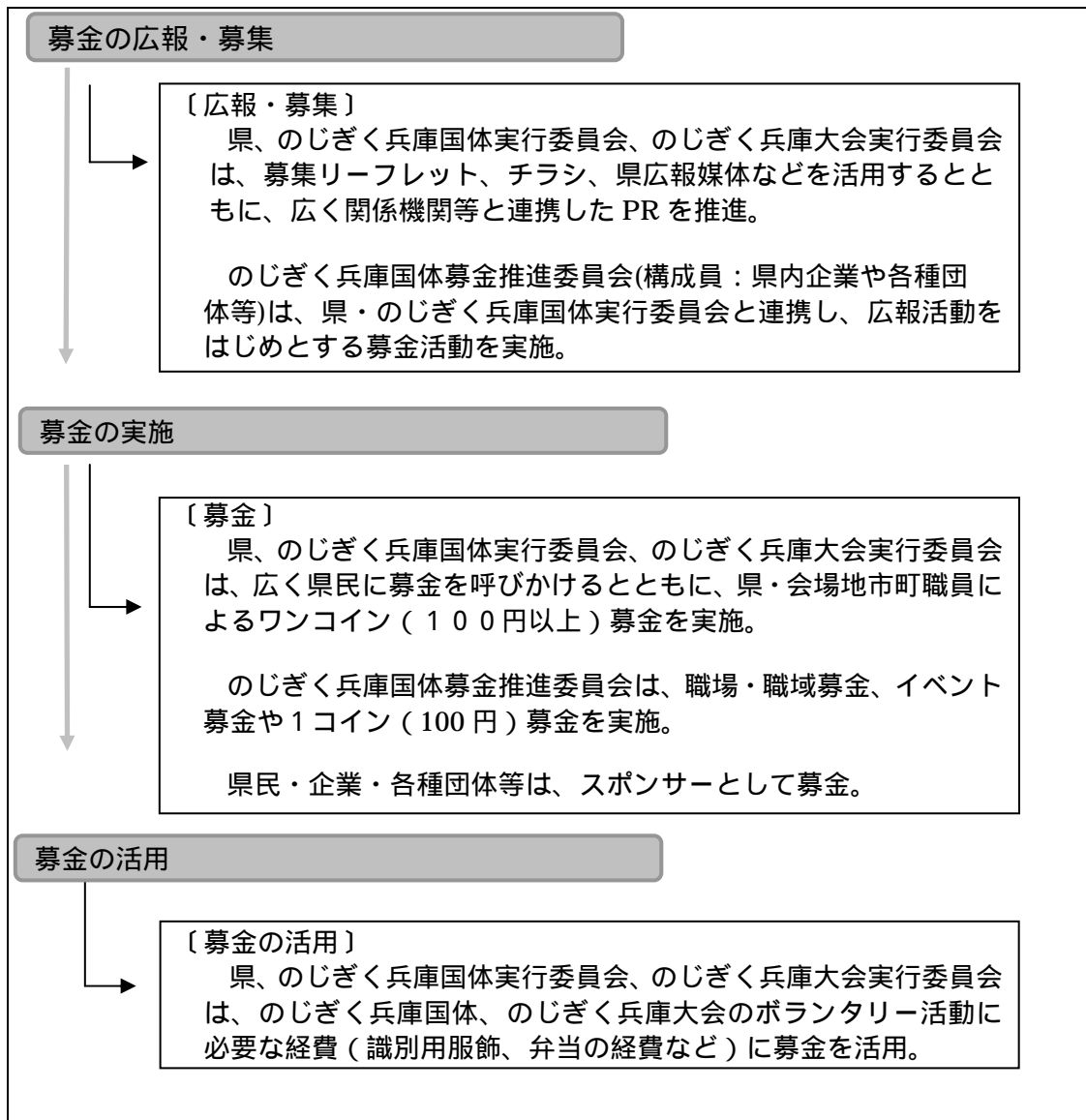
## のじぎく兵庫国体募金（愛称：はばタン募金）の実施(新)（企画管理部）

### 事業概要

平成18年度に開催する「のじぎく兵庫国体」を広く県民に支えられた大会とするため、県民一人ひとりがスポンサーとなって大会を支える取り組みとして、個人募金、法人・団体募金、募金箱募金、イベント募金、職場・職域募金を行う「のじぎく兵庫国体募金（愛称：はばタン募金）」を実施します。

### 参画と協働の方法

下記のような進め方をモデルに、のじぎく兵庫国体募金推進委員会とのじぎく兵庫国体実行委員会、のじぎく兵庫大会実行委員会が連携して事業を推進します。



## 参画と協働の実施状況

平成16年4月から「のじぎく兵庫国体募金」を実施し、下記のような取り組みにより、多くの県民の皆さんから支援を得ることができました。

### 平成16年度のじぎく兵庫国体募金実施状況

項目	実施件数等
募金箱募金	2,960箇所
個人募金	94件
法人・団体募金	99件
職場・職域募金	3件
イベント募金	36回

### 平成16年度募金額

99,800千円

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

平成16年度は、募金箱を県下2,960カ所に設置し、募金箱募金を実施するとともに、県内企業・団体に対する法人・団体募金やイベント募金を中心に取り組みましたが、平成17年度は、いよいよ開催1年前となることから、これまでの取り組みに加えて、下記の取り組みを展開し、すべての県民に対する募金活動への協力と更なる開催気運の醸成を図ります。

### (職場・職域募金の充実)

国体開催1年前の平成17年9月から10月を「募金推進強化月間」と位置づけ、県、市町職員をはじめ、募金推進委員会構成団体の職場・職域での募金活動に積極的に取り組みます。

### (イベント募金の充実)

5月から県内各地でリハーサル大会が開催されるなど、本大会に向けての気運が高まることから、各リハーサル大会はもとより、国体関連イベント、募金推進委員会構成団体を実施するイベント、大会、会議を中心としたイベント募金を積極的に展開します。

## 県民等とのパートナーシップによる維持管理（県土整備部）

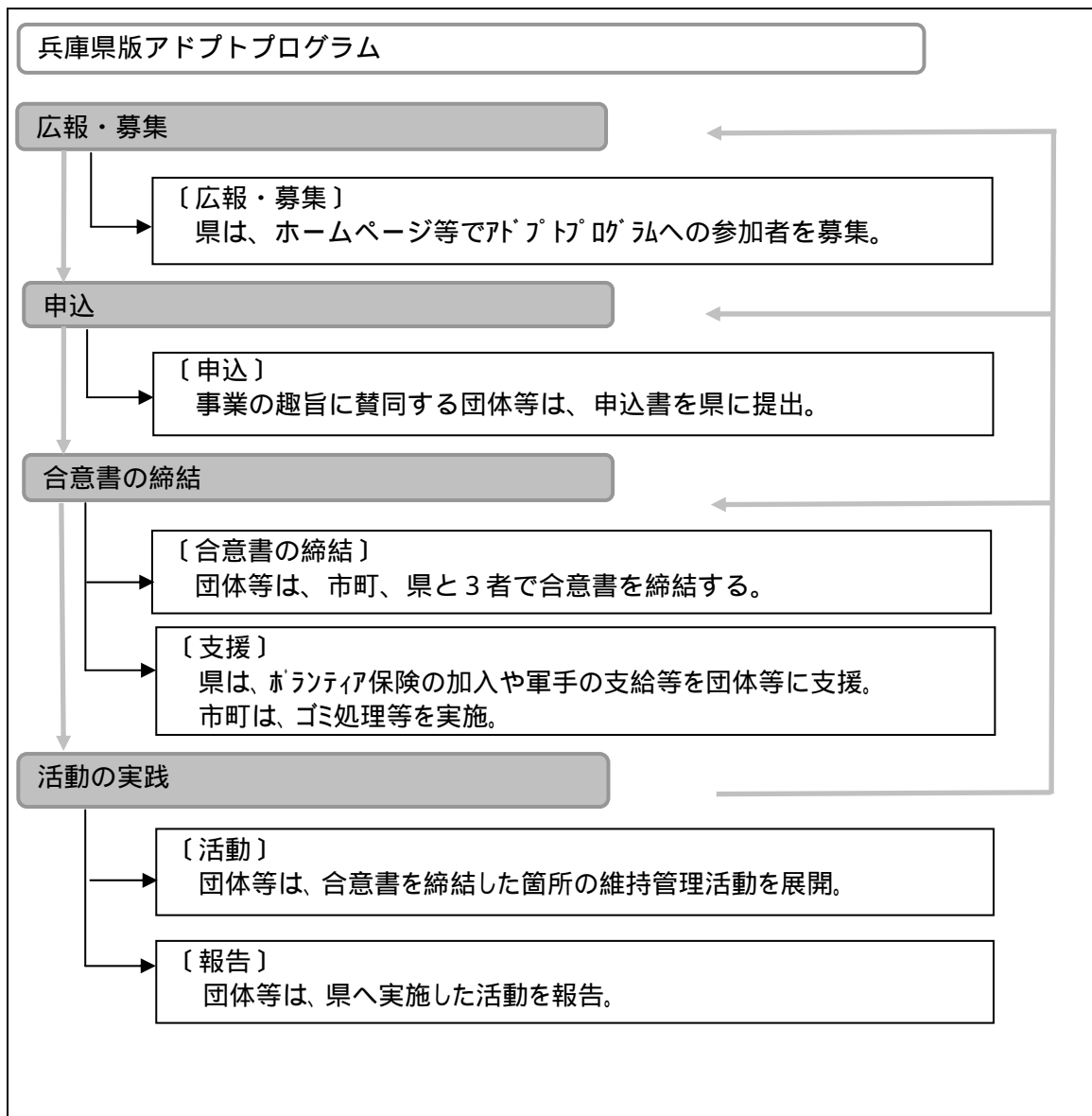
### 事業概要

兵庫県が管理する道路・河川・海岸等の公共物において、一定区間ごとに美化清掃活動に取り組む団体を募集し、管理者と参加団体(住民や企業)が合意書を締結（「養子縁組(アドプト)」）します。参加者は、担当地区の公共物の清掃美化、草刈り、植栽等を行い、県は、地域の状況に応じて、ボランティア保険への加入、軍手・ゴミ袋の支給等の支援をします。（兵庫県版アドプトプログラム）

快適な生活環境の創出に取り組むことにより、地域への愛着心を深めるとともに、新たなコミュニティの形成を促進し、いきいきとした地域づくりを目指しています。

### 参画と協働の方法

進め方の一例を提示します。具体的な手法については各地域で実情に合わせて実施します。



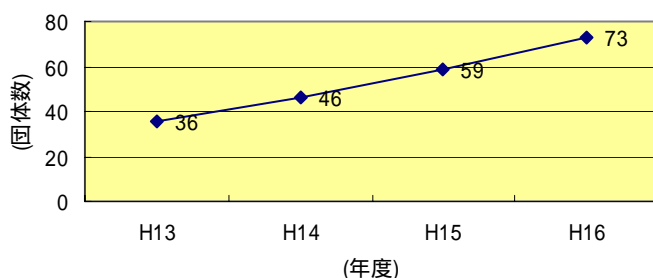
## 参画と協働の実施状況

### 実施箇所

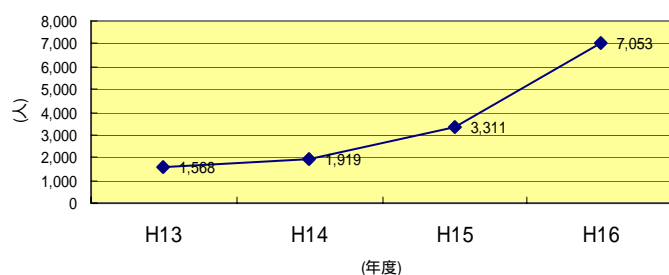
県民局	活動場所	活動箇所数
神戸	都賀川、生田川、天井川、有馬川、住吉川、新湊川	6
阪神北	中野中筋線、富松川、駄六川、天王寺川、上佐曽利木器線、羽束川	6
東播磨	水田川、曇川、法華山谷川	3
北播磨	三木山崎線、西脇三田線（下滝野ポケットパーク）、山田川、前谷川、中北条線、中柏原線（あかね坂公園）	6
中播磨	恒屋川、矢田部川、国道312号（須加院川公園）、須加院川	4
西播磨	国道373号、大津茂川・石倉太子線、内海山崎線、山崎南光線・菅野川	4
但馬	竹野川、佐津川、田君川、味原川	4
丹波	山南篠山線・篠山川・太田西川、篠山川(2箇所)、山南篠山線	4
淡路	初尾川、洲本川、浦川	3
計		40箇所

### 活動団体数と人数

アドプトプログラム活動団体数



アドプトプログラム活動人数



都賀川での活動（神戸市）



国道323号での活動（上月町）

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

### （活動の拡大）

平成13年度から始まった取り組みも4年を迎え、参加団体数、活動人数ともに増えており、取り組みが着実に広がっています。

地域住民が清掃等を行った場所が、地域住民の自主的な活動でイベント等が開催され、地域交流・憩いの場として活用されています。

今後もより多くの地域住民の参画と協働を得られるよう、活動の拡大を推進するための施策（広報等）について検討していきます。

### （活動へのインセンティブ）

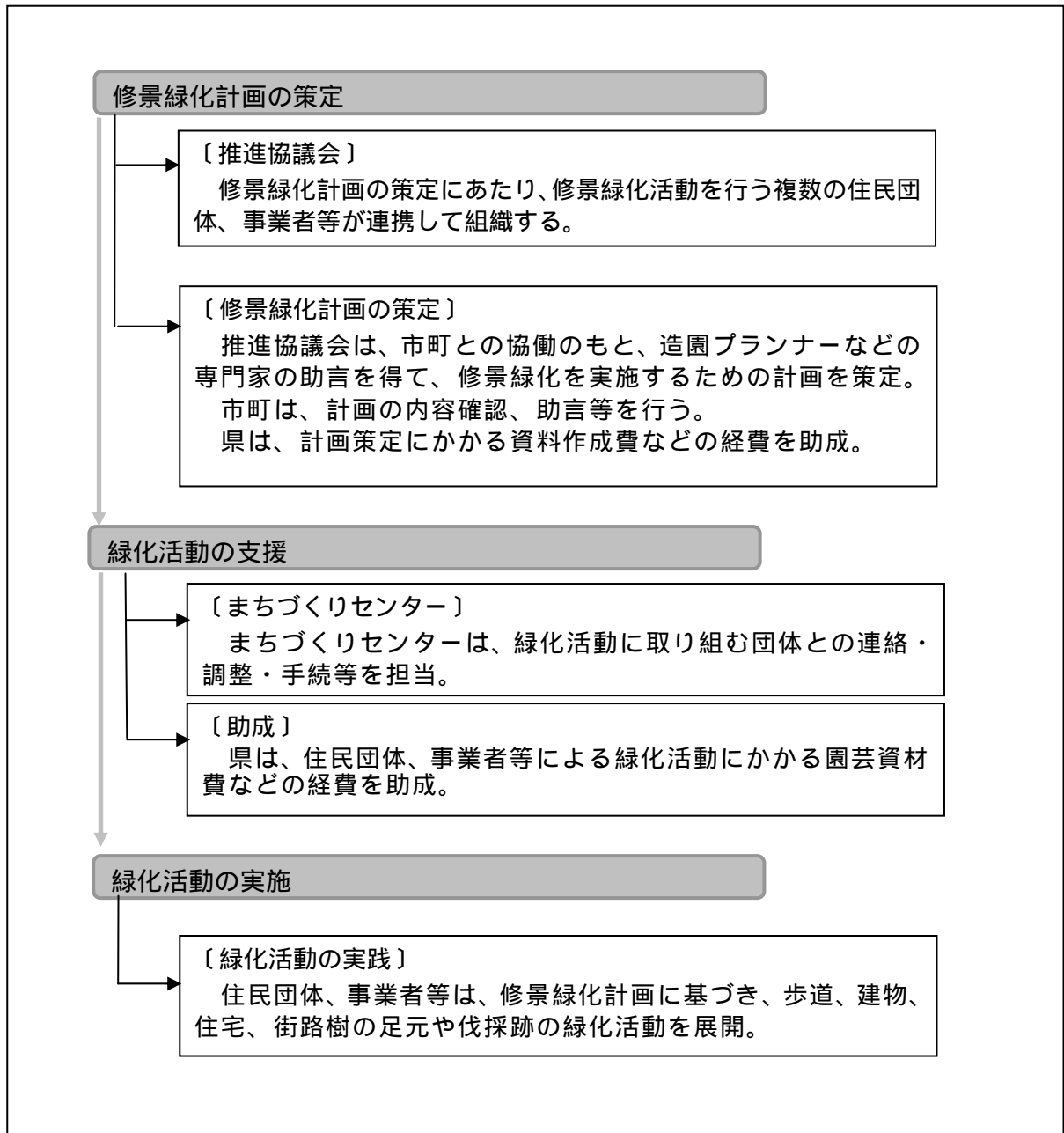
当初は自治会等の地元既存組織の参加が中心でしたが、最近では地元住民による任意の団体等の参加により活動が拡大しています。これからも活動が継続されるための支援等のインセンティブを検討していきます。

## 被災地修景緑化支援事業(新) (県土整備部)

### 事業概要

復興10周年を迎える被災地において、景観の向上を図るとともに、美しいまちなみにより被災地の復興をアピールするため、道路の美化、沿道住宅の美化に取り組む住民団体等の活動を支援します。

### 参画と協働の方法



参画と協働の実施状況

推進協議会の設置状況

修景緑化計画の策定にあたり 8 組織

内訳は下表計画欄参照

平成 16 年度活動・支援実績

市町名	道路名称	種類	件数	事業名			
				計画	歩道	住宅	街路樹
神戸市	フラワーロード(新神戸)	市道	42	1	36	5	0
	フラワーロード(三宮駅北)	市道	43	1	36	6	0
	フラワーロード(三宮駅南)	市道	19	1	13	5	0
	花と緑の回廊ネットワーク	市道	101	1	3	97	0
	市道名谷下畑線	市道	1	0	0	0	1
	県道神戸三田線	県道	1	0	0	0	1
	市道下野山原線	市道	1	0	0	0	1
	市道桂木団地内線	市道	1	0	0	0	1
	市道小倉台幹線	市道	1	0	0	0	1
	小計		210	4	88	113	5
西宮市	南甲子園線	市道	2	0	0	0	2
芦屋市	市道 216 号線 (芦屋川左岸線)	市道	2	0	0	0	2
	県道芦屋鳴尾浜線 (市道芦屋浜線)	県道 (市道)	2	0	0	0	2
	小計		4	0	0	0	4
宝塚市	市道武庫川通り線 (花の道)	市道	9	1	8	0	0
三木市	県道加古川・三田線	県道	55	1	0	54	0
北淡町	県道福良江井岩屋線 町道本町線	県道 町道	6	1	3	0	2
一宮町	町道郡家市街地 1・2 号線	町道	3	1	0	2	0
計			289	8	99	169	13

計画 : 被災地修景計画策定支援事業

歩道 : 被災地修景歩道緑化支援事業

住宅 : 住宅等花・緑支援事業

街路樹 : 街路樹足元緑化支援事業

## 緑化活動の状況



フラワーロード（新神戸駅前）



フラワーロード（三宮駅南）

## 県の支援の状況

- (1) 被災地修景計画策定支援事業 [ 8 件、助成総額：7,645 千円 ]  
[対象箇所]被災地の主要道路  
[内 容]推進協議会が、修景緑化を実施するための計画（以下、「修景緑化計画」という）を策定するための経費助成
- (2) 被災地修景歩道緑化支援事業 [ 99 件、助成総額：90,265 千円 ]  
[対象箇所]修景緑化計画の策定された被災地の主要道路  
[内 容]修景緑化計画に基づく、歩道の緑化活動にかかる経費の助成
- (3) 住宅等花・緑支援事業 [ 169 件、助成総額：19,717.5 千円 ]  
[対象箇所]修景緑化計画の策定された道路沿いの建物、住宅  
[内 容]修景緑化計画に基づく、建物、住宅にかかる緑化活動経費の助成
- (4) 街路樹足元緑化支援事業 [ 13 件、助成総額：5,733 千円 ]  
[対象箇所]修景緑化計画の策定された被災地の主要道路、又はその他の主要道路  
[内 容]街路樹の足元や街路樹の伐採跡の緑化活動にかかる経費の助成

### 参画と協働の今後の主な取り組み方向

（住民主体の取り組み）

本事業は震災復興10周年という位置づけによる平成16年度の単年度事業でしたが、活動・支援実績の表に示されているとおり、非常に多くの箇所で緑化活動が行われました。

今後は、本事業により生まれた、または結束を深めた住民団体や事業者間の連携を生かし、引き続き住民が中心となって地域の緑化活動に取り組んでいただきます。

## 西播磨「水と緑の郷づくり」構想の推進（西播磨県民局）

### 事業概要

平成15年度に策定した西播磨「水と緑の郷づくり」構想に基づき、西播磨の恵まれた「水」と豊かな「緑」を基軸に、「食」・「農」・「生活」・「風景」をキーワードとして私たちの暮らしを安全で安心なものにするため、地産地消を展開し、地域との関わりのある生活、誇りの持てるふるさと景観づくりを進め、ゆったりとした暮らしを通じて真の豊かさが実感できる“新しいふるさとづくり”を進めます。

### 参画と協働の方法

地域住民と一体となり、地域住民とともに考え推進できる推進母体『西播磨「水と緑の郷づくり」構想推進会議』を設置・育成します。また、地域住民が、構想実現に向け自主的に活動するモデル地域を5箇所指定します。

なお、当初の5年間(平成15年～平成19年)は、行政と協働して各種先導的事業を実施し、その後は同会議が自主的に活動を行い、行政はその活動を支援していきます。

#### 構想の普及啓発

##### 〔県民の主体的活動〕

平成16年7月にモデル地区を5箇所指定。地域住民が構想に沿った地域づくり活動を先導的に実施するモデル地区の活動を支援し、その活動を地域に波及。

##### 〔広報〕

地域住民に、西播磨「水と緑の郷づくり」構想を周知し、理解をしてもらうため、ホームページの開設など各種メディアを活用して情報を発信。

##### 〔説明会〕

あらゆる機会を利用して農林漁業関係者、消費者団体、市町等への説明会を開催。

#### 西播磨「水と緑の郷づくり」構想推進会議の設立・運営

##### 〔事業の企画・協働〕

平成16年12月にモデル地区代表者、生産者、消費者、JA、市町、学識経験者等による西播磨「水と緑の郷づくり」構想推進会議を設置して、構想の推進母体とする。

#### 先導事業の実施

##### 〔地域景観づくり指針の策定〕

西播磨の美しい風景を、「誇りを持てる財産」として再発見・再認識し、将来にわたって保全・創造する地域景観づくり運動を展開するため、地域住民とのワークショップにより行政と学識経験者、住民が一体となって「西播磨ふるさとの景観づくり」指針を策定。

##### 〔「西はりま食の達人」制度の創設〕

安全・安心な農産物や農産加工品の生産者を、「西はりま食の達人」として認定し、安全・安心な食を提供する体制を構築。

参画と協働の実施状況

1 西播磨「水と緑の郷づくり」構想推進会議の設立

15年度の策定した西播磨「水と緑の郷づくり」構想に掲げた地域づくりを、地域の関係者や学識経験者が一体となって推進するため、平成16年12月9日、西播磨「水と緑の郷づくり」構想推進会議を設立しました。

構想推進会議構成員	17名（委員長：保田 茂 神戸大学名誉教授） （学識経験者3名、流通商工2名、農産加工2名、消費者1名、農協2名、市町2名、モデル地区 5名）
-----------	----------------------------------------------------------------------------

構想推進会議の開催	第1回	第2回
	平成16年12月9日	平成17年3月22日

2 モデル地区の指定

同構想の早期実現を図る活動拠点として、平成16年7月1日、管内5箇所をモデル地区に指定し、先導的事業を展開していきます。

モデル地区：相生市矢野、三日月町三日月、山崎町土万、揖保川町河内、御津町室津
----------------------------------------

3 景観づくり指針の策定

真の豊かさが実感できるふるさとの風景づくり運動を地域全体の取り組みとして展開するため、委員会、地域のワークショップを開催し、西播磨地域の景観づくりのガイドラインとなる「西播磨ふるさとの風景づくり指針」を策定しました。

委員会の開催

西播磨地域景観づくり委員会構成員11名(委員長：中瀬 勲 人と自然の博物館副館長)		
第1回：16年8月4日	第2回：16年11月22日	第3回：17年3月1日

ワークショップの開催

第1回：16年9月2日	佐用郡上月町	自治会代表50名
第2回：16年10月28日	揖保郡御津町	自治会代表及び婦人会代表40名

4 「食の達人」研修会及び認定状況

消費者が安心して購入できる農産物を「生産できる人」を認証し、地産地消を推進するため、15年度に策定した認定基準に基づき、必要な技術を習得する研修会を実施しました。また、研修終了者の申請により、「食の達人」の認定を行いました。

研修会開催日	H16. 7.23	H17. 1.20	計
受講者数	388名	243名	631名
認定日	H16. 9. 1	H17. 3.10	計
認定者数	274名	248名	522名

参画と協働の今後の主な取り組み方向

(推進会議の充実)

西播磨「水と緑の郷づくり」構想推進会議は、本来、地域の関係者や学識経験者が自ら発案し行動する「活動母体」として設置したのですが、現実には県が構想実現のための提言を発する会議となっています。

今後、会議構成員が所属するグループや、関わりのある組織を通じて、構想実現に向けて地域において活発な活動が行われるような仕組みづくりを誘導していきます。

(「西はりま食の達人」制度の地域内への浸透)

この制度は、安全・安心な食を提供する体制を構築するため、安全・安心な農産物や農産加工品の生産者を「西はりま食の達人」として認定するものであり、16年度中に522名の認定を行いました。

「達人」認定者は、低農薬・低化学肥料栽培や栽培記帳を徹底しているなど、西播磨における安全・安心な農産物生産体制の意識啓発が進んでいます。また、「達人」が出荷する地域の農産物直売所34箇所を、「西播磨食の達人の店」に指定しました。

しかし、PR不足のため「達人」は一般にはあまり知られていない状況にあります。この制度は地産地消推進上、非常に重要な取り組みであるため、広く地域に制度の趣旨を浸透させ、地域住民が「達人」の商品を積極的に購入することで地域農業を支え、あわせて安全・安心な食の供給体制を確立し、消費者と農家がともに支え合う地域づくりを目指します。

(モデル地区の活動支援)

各モデル地区において16年度は次表のような活動を行いました。今年度はこれらの活動を受け、安全・安心な農林水産物の生産活動や郷土料理・行事食等伝承活動、消費者による生産者支援活動、食の健康活動、地域内で住民がゆったり楽しめる活動等をモデル地区の実情に応じて実施していきます。

モデル地区	16年度の活動内容
相生市矢野地区	才元の里ふるさと交流館において、「遊ぶ・学ぶ・体験する」をキーワードに、草木染めや竹細工など様々な体験を提供。
三日月町三日月地区	特産のそばを使った料理コンテストを開催し、町内外から83点の応募があり、優秀作品の中から今後通常メニューとして一般に提供する予定。
揖保川町河内地区	地区内子供会を通じ紅花染め体験を開催するなど食育活動を展開。また、今後、農産加工施設の建設に向け検討中。
山崎町土万地区	一般の野菜生産に加え葉ワサビ等、特色ある作物を試作している。また、4月10日に「土万ふれあいの館」を開設し地産地消を積極的に展開中。
御津町室津地区	海産物の室津ブランドを育成するため、「室津産」ロゴマークを一般公募し、4月から室津でとれた海産物にシールやタグを付け販売。

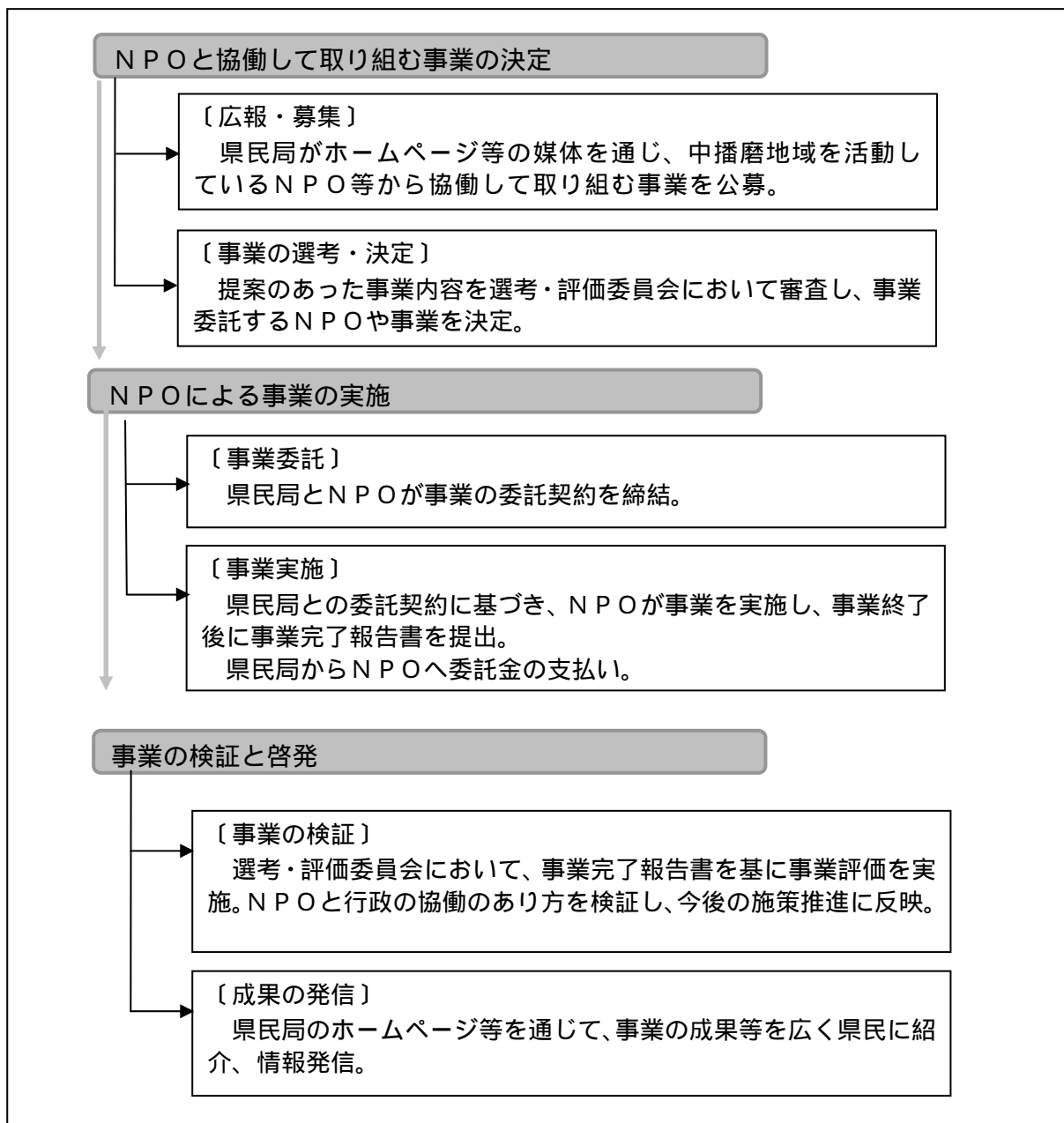
## NPOとの協働による地域課題解決に向けた取り組み(新) (中播磨県民局)

### 事業概要

地域課題の解決に向けて、県民局が対象事業や取り組み方向を定め、具体の企画・実施はNPOが行う事業推進方式を取り入れます。これによりNPOと行政の協働のあり方を検証し、今後の施策推進につなげるなど、参画と協働のさらなる推進を図ります。

### 参画と協働の方法

地域課題のうち、NPO法人等と連携して実施することで、より効果的な事業展開が見込まれる“人づくり”“モノづくり”“まちづくり”に関する事業について、下記のような進め方をモデルに、県民局とNPOが連携して事業を推進します。



## 参画と協働の実施状況

提案のあった6事業の中から、選考・評価委員会(学識者2名と県職員1名の3名で構成)により選考された下記の3事業を、NPOと連携して実施しています。

### 「播磨ものづくり職人ネットワーク」

- ・ 連携先：コムサロン21
- ・ 事業内容：工芸品などものづくり産業に携わる方々を対象に、自己の技能を自分の作品として発表する場を提供するとともに、定期的に情報交換できる交流や研鑽の場を提供し相互の啓蒙の機会を設けました。また、プロを目指す人を対象に技能訓練等を行う講座を開設します。

ものづくりの大切さを県民などに伝える取り組み

自分の作品を発表する作品展

プロを目指す人や中・高校生を対象とした体験講座の開催  
交流会の開催などを通じた伝統職人によるネットワークの結成

### 「ノーマライゼーション啓蒙のための『小冊子』づくり事業」

- ・ 連携先：チームWeb
- ・ 事業内容：学校や地域を対象に行っている車椅子バスケット体験学習をもとに、活動の成果、子供たちの感想文、バスケットボール選手の思い、ユニバーサルデザイン推進企業の資料等を内容とする小冊子を小中学生が理解しやすいように作成し、教育委員会や連合PTA等に配付してノーマライゼーションの啓蒙を図ります。

### 「はりまギネス情報収集並びに冊子原本作成」

- ・ 連携先：姫路コンベンションサポート
- ・ 事業内容：伝統的なものづくり企業、世界一の生産を誇るナンバーワン企業、世界で唯一のオンリーワン企業を経済団体等のネットワークを通じて情報収集し、冊子「はりまでギネス」を作成して、はりまのものづくりを広く県民にPRするとともに、地域産業への興味を喚起し、ものづくりへの関心を高める。

## 参画と協働の今後の主な取り組み方向

(事業の継続的な実施)

「播磨ものづくり職人ネットワーク」の取り組みの中で、特に、播磨ものづくり交流会において、職人、企業、大学が連携して、インターネットによる情報発信、伝統工芸品のネット販売への動きがみられるなどの効果が得られました。

「ノーマライゼーション啓蒙のための『小冊子』づくり事業」では、教育委員会やPTAなどを通じて、小・中・高校、各種団体などに配布したので、多

くの青少年に共生社会の重要性を紹介し、認識してもらうことができました。

「はりまギネス情報収集並びに冊子原本作成」の活動を通じては、姫路市で開催される日本青年会議所全国会員大会において、「はりまでギネス」をキーワードとして企業展示会、地元物産展、情報誌の発行などが計画されるなどの効果も出てきています。

このようなことから選考・評価委員からは、各事業について地域課題の解決に一定の成果があったとの評価を得ており、また、今後も継続して積極的に事業を展開するよう意見をいただいています。

今後は、これらの事業の成果等を県民局のホームページ等を通じ、県民等により広く情報発信するとともに、16年度の事業実施により新たに発見された課題等も踏まえながら、これらの事業を継続して展開していきます。

### 3. 参画と協働関連施策の実施状況

「平成16年度参画と協働関連施策の展開方針」の施策・事業数 ( )内は再掲(内書)

項 目	施策数*			
			新規	
(1) 「地域づくり活動支援指針」に関する施策	189	(23)	51	(4)
新たな活動を生み、育む	70	(4)	22	
多様な情報を提供します	22	(1)	5	
実践活動につながる学習機会を充実します	36	(3)	11	
多様な世代の参画・協働を促します	12		6	
活動を高め、支える	34	(5)	6	(1)
地域に根ざした活動を支える人材づくりを支援します	22	(2)	4	
県民の主体的な活動拠点を充実します	7	(1)	1	
活動に必要な財政的基盤の充実を支援します	5	(2)	1	(1)
活動をつなぎ、広げる	85	(14)	23	(3)
みんなの情報をつなぎます	4	(2)	1	
多様な主体をつなぎ、地域固有の取り組みを支援します	70	(6)	20	(2)
活動を総合的に支える中間支援組織を支援します	4	(3)	1	
各地域での総合的な支援拠点機能を充実します	5	(1)		
県民が評価するしくみづくりに取り組みます	2	(2)	1	(1)
(2) 「県行政参画・協働推進計画」に関する施策	168	(14)	40	(5)
県民と情報を共有する	29	(3)	8	
県民が主体的に選択できる情報を提供します	17	(1)	7	
県行政の評価・検証への県民参画を進めます	12	(2)	1	
県民と知恵を出し合う	31	(5)	4	(2)
県民提案の機会を充実します	19	(3)	3	(1)
審議会などへの県民の参画機会を広げます	12	(2)	1	(1)
県民と力を合わせる	108	(6)	28	(3)
協働で実施する範囲や事業を拡充します	98	(2)	25	(1)
多様な委託のしくみづくりに進めます	3	(2)	2	(1)
推進員らの職務の円滑化を進めます	7	(2)	1	(1)
(3) 参画と協働の総合的な推進に向けての施策	19	(6)	6	(4)
参画と協働を総合的に推進します	13	(6)	4	(4)
職員意識を醸成します	6		2	
合 計	376	(43)	97	(13)

\*平成16年3月にとりまとめた「展開方針」の施策・事業を、「支援指針・推進計画」の体系で再整理したものです。

\*各施策・事業には、「活動を生み、育み、高め、支え、つなぎ、広げる」という、多くの目的を持つものもあります。また、「情報を共有し、知恵を出し合い、力を合わせる」という要素は、施策推進の過程において、またそれぞれの局面において必要なものです。ここでは、その施策・事業の重点が、どこにあるかによって分類しました。

**「地域づくり活動支援指針」に関する施策**

**新たな活動を生み、育む**

**多様な情報を提供します**

**さまざまな地域資源に関する情報を多様な媒体を活用して提供します**

ひょうごインターキャンパスの運営	生活創造課
地域づくり活動登録推進事業	参画協働課
地域づくり活動の事例集(仮称)の作成	参画協働課
エコツーリズム推進事業	環境政策課
中小企業支援センター事業の実施	経営支援課
外国人県民安全・安心ネットの推進	国際政策課
農のゼロエミッション推進事業	消費流通担当課長
被災者復興支援会議 の活動支援(再掲)	生活復興課
まちかど活動情報ネットワーク事業	生活復興支援室
神戸地域防犯活動の支援	神戸県民局 企画県民部さわやか県政担当参事
阪神芸術文化サポータークラブ(芸術文化活動に関する情報提供・交換の場)の運営	阪神南県民局 県民生活部阪神芸術文化・魅力づくり担当参事
県民運動情報提供事業～地域 de お届け便～ in 阪神北	阪神北県民局 県民生活部県民担当参事
県民運動情報提供事業～ポスト de ゲット in 特定郵便局	阪神北県民局 県民生活部県民担当参事
県民運動情報提供事業～タクシー de ゲット～ in 阪神北	阪神北県民局 県民生活部県民担当参事
県民運動情報提供事業～ファックス de ゲット～ in 阪神北	阪神北県民局 県民生活部県民担当参事
東播磨におけるツーリズムの振興	東播磨県民局地域振興部産業労働担当参事
北播磨地域イメージアップ戦略の推進	北播磨県民局 企画調整部調整担当参事

**情報を集めた場を確保し、県民が必要な情報を入手しやすいしくみを整えます**

ひょうごコミ2ネットの運営	生活復興支援室
地域活動ステーションの運営	生活復興支援室
电脑サイト「丹波なんでも情報室」開設事業	丹波県民局 県土整備部まちづくり担当参事

**相談に対応するとともに、広く県民から提案を受け付けるしくみをつくる**

地域づくり活動サポーター(応援隊)の設置	参画協働課
NPO専門相談窓口の設置	参画協働課

**実践活動につながる学習機会を充実します**

**学びたいことを主体的に選択できる学習機会を提供します**

生涯学習支援ネットワーク推進事業	生活創造課
生活創造活動プランナー養成講座の開設	生活創造課
ひょうごオープンカレッジの開設	生活創造課
地域創造市民塾の展開	生活創造課
地域4年制高齢者大学の運営	生活創造課
いなみ野学園の運営	生活創造課
阪神シニアカレッジの運営	生活創造課
高齢者大学地域活動実践講座の開設	生活創造課
NPO大学推進事業の実施(再掲)	参画協働課
親学習セミナーの開催	青少年課
ひょうご県民交流の船	青少年課
兵庫県青年洋上大学	青少年課
兵庫県立大学 生涯学習交流センターの設置	大学課
県立広域防災センターの開設	防災拠点整備室
エコツーリズム推進事業(再掲)	環境政策課
海の環境学習推進事業	環境政策課
青少年科学技術体験学習支援事業	科学振興担当課長
県土を学ぶキッズプロジェクトの創設	技術企画担当課長、各県民局
いきいき仕事塾の開設	生活復興課
地域活動推進講座の開催	生活復興支援室
地域活動スキルアップ事業	生活復興支援室
高等学校地域オープン講座の開設	高校教育課
コミュニティカレッジの開設	社会教育課
歴史文化遺産活用活性化事業の実施	文化財室
県立考古博物館(仮称)先行ソフト事業の実施	文化財室
「土砂災害防災学習マニュアル」(仮称)の作成	神戸県民局 県土整備部土木担当参事
自主防災活動啓発ビデオの作成	神戸県民局 企画県民部さわやか県政担当参事
環境づくり実践活動者育成講座の開催	阪神北県民局 県民生活部環境担当参事
子ども向け環境教育の推進	中播磨県民局 県民生活部環境担当参事
高校生のチャレンジショップ支援	中播磨県民局 地域振興部産業労働担当参事
西播磨環境づくり啓発・交流事業	西播磨県民局 県民生活部環境担当参事
思春期ピアカウンセリング事業	丹波県民局 県民生活部健康福祉担当参事

**実践活動に取り組む中で、知識・技能を学ぶ機会の拡充や、学んだことを実践の現場で生かせるしほみを充実します**

生涯学習リーダーバンクの設置  
森・川・海をフィールドにした体験・交流型環境学習の推進  
HYOGOしごと情報広場  
西播磨環境づくり啓発・交流事業(再掲)

生活創造課  
水質課  
雇用就業課  
西播磨県民局県民生活部環境担当参事

**多様な世代の参画・協働を促します**

**若い世代の地域づくり活動の実践力の向上を支援します**

子どもの冒険ひろばパイロット事業  
ひょうごハートブリッジ運動の推進  
「チャレンジファミリー」地域応援事業  
県民すべてがかかわる兵庫の教育推進事業の実施～オープンスクールの推進～  
ふるさと文化再発見アクションプランの実施  
スポーツクラブ21ひょうごの推進

青少年課  
青少年課  
青少年課  
教育委員会企画調整担当課長  
社会教育課  
地域スポーツ活動室

**若い世代が参画・協働するきっかけとなる機会を創出します**

「若者ゆうゆうひろば」事業の推進  
大学と連携した地域ビジョン懇談会(仮称)の開催

青少年課  
阪神北県民局 企画調整部企画調整担当参事

**多様な世代が気軽に参画・協働できるようさまざまな支援体制を整備します**

まちの子育てひろば事業の推進  
子育てひろば活動発表・交流会の開催  
丹波の森NPO支援事業  
丹波のじいちゃん、ばあちゃん知恵袋

社会福祉課  
中播磨県民局 県民生活部健康福祉担当参事  
丹波県民局 県民生活部県民担当参事  
丹波県民局 県民生活部健康福祉担当参事

**活動を高め、支える**

**地域に根ざした活動を支える人材づくりを支援します**

**地域リーダーや地域プランナーの育成を支援します**

大学洋上セミナーの開催  
防災協働社会を担う人材の育成  
障害のある方への声かけ運動推進事業  
「どこでもエコ学習」推進事業  
ひょうごCSRクラブの支援  
「食の健康運動リーダー」の活動支援  
地域活動コーディネーターの配置  
コミュニティ・サポート支援事業  
被災地復興感謝のつどいの開催  
いきいき仕事塾修了生への支援  
生涯学習ボランティア活動支援・推進事業  
共生博物館地域研究員養成事業の実施  
歴史文化遺産活用活性化事業の実施(再掲)  
県立考古博物館(仮称)先行ソフト事業の実施(再掲)  
人権文化創造活動支援事業の実施  
北はりま田園空間博物館交流推進事業の支援  
地域担い手(イェント・リーダー)養成・活用事業  
但馬の自然を知る、親しむ、守る環境学習の推進  
丹波の環境・あじわい運動の推進

教育課  
防災企画課  
ユニバーサル社会担当課長  
環境政策課  
労政福祉課  
総合農政担当課長、健康ひょうご推進担当課長  
生活復興支援室  
生活復興課  
生活復興課  
生活復興課  
社会教育課  
社会教育課  
文化財室  
文化財室  
人権教育課  
北播磨県民局 地域振興部農地整備担当参事  
西播磨県民局 県民生活部県民担当参事  
但馬県民局 県民生活部環境担当参事  
丹波県民局 県民生活部環境担当参事

**活動団体の企画や運営を担う人材が専門的知識を習得する機会や場を提供します**

ふるさとひょうご創生塾の開設  
NPO大学推進事業の実施  
まちづくり支援事業

生活創造課  
参画協働課  
都市政策担当課長

**県民の主体的な活動拠点を充実します**

**身近な地域で県民一人ひとりが交流し、学び、実践活動を行う場づくりを支援します**

生活創造センター構想の推進  
県民交流広場事業(仮称)の推進  
地域づくり活動応援(パワーアップ)事業  
ひょうごボランティアプラザの運営(再掲)  
ひょうご国際プラザの設置・運営

生活創造課  
生活創造課  
参画協働課、各県民局  
参画協働課  
国際政策課

**公民館や交流施設等の維持管理を地域住民に任せるなど柔軟なしほみを検討します**

**商店街の空き店舗、地元企業の厚生施設等の地域への開放の促進を通じて、企業が地域づくり活動に参画する機会を創出します**

空き店舗活用支援事業  
大型空き店舗対策事業

商業振興課  
商業振興課

### 活動に必要な財政的基盤の充実を支援します

活動に必要な資金を自前で調達できるなど、地域づくり活動に取り組む団体の活動が継続的に成り立つしくみづくりを支援します

地域づくり活動応援(パワーアップ)事業(再掲)

団体・NPO等へのアウトソーシングシステム構築事業(再掲)

コミュニティ・ビジネス離陸応援事業

中・長期的な視点からひょうごボランティア基金を有効に活用し、適切な支援をします

ひょうごボランティア基金・復興基金による各種助成制度

企業等からの寄付や財団等からの助成金を受け入れやすくするしくみづくりに取り組みます

参画協働課、各県民局

参画協働課

雇用就業課

参画協働課

申請手続きなどをわかりやすく示すことを基本に、1ヶ所(1回)で各種行政サービスが受けられるよう利便性を向上します

NPOコミュニティビジネス等活動応援貸付制度

参画協働課

## 活動をつなぎ、広げる

### みんなの情報をつなぎます

地域づくり活動に関して、個人や各種団体、NPO/NGO等の情報の共有が積極的に行われるよう、地域づくり活動登録などの運用を工夫します

地域づくり活動登録推進事業(再掲)

ひょうご人権ネットワーク事業の推進

「どこでもエコ学習」推進事業(再掲)

県民が主体的に地域づくり活動に関する情報の発信や共有ができるよう、ITを活用したしくみづくりなどを支援する

「中播磨わくわく地域交流ネット」(中播磨地域活動団体情報発信・交流支援システム)の本格運用

参画協働課

人権担当課長

環境政策課

中播磨県民局 企画調整部ふるさと再生担当参事

企業や各種団体などの持つ情報誌などの情報資源との連携を図り、地域づくり活動に関する情報を提供します

### 多様な主体をつなぎ、地域固有の取り組みを支援します

多様な主体間や地域間の交流・連携・協働の機会を充実し、各地域の独自の取り組みを支援します

地域づくり活動登録推進事業(再掲)

“こころ豊かな美しい兵庫”をめざす県民運動の推進

地域づくり活動サポーター(応援隊)の設置(再掲)

地域づくり活動応援(パワーアップ)事業(再掲)

地域づくり活動の事例集(仮称)の作成(再掲)

ひょうごボランティア活動メッセの開催

『子育て応援ネット』(地域子育てネットワーク事業)

こどもの館三世代ふれあい交流事業

こころ豊かな人づくり500人委員会

ふるさと青年協力隊

里親制度の推進

5R生活推進事業

コミュニティ・ビジネス離陸応援事業(再掲)

生きがいしごとサポートセンターの設置

ひょうご美しいむらづくり推進事業

ふるさとむら保全事業

まちづくり支援事業(再掲)

阪神・淡路大震災10周年記念事業の推進

被災地空き地活用パイロット事業

災害復興公営住宅高齢者元気アップ活動支援事業

生活復興のためのNPO活動支援事業

まちの再発見運動

子ども多文化共生教育支援事業の実施

地域交通安全活動推進委員との協働による交通安全活動の推進

「地域ふれあいの会」による地域安全活動の推進

新さわやかな環境づくり地域行動計画の推進

六甲山自然保護センターの機能強化(六甲山活性化の推進)

灘(六甲山～東部新都心)文化軸活性化の支援

「出会い系サイトストップ大作戦」(仮称)の展開

ものづくりを行う中小企業の支援

神戸地域商店街等の活性化

「農都・神戸」づくりの推進

「第13回全国お手玉遊び神戸大会」の開催支援

参画協働課

参画協働課

参画協働課

参画協働課、各県民局

参画協働課

参画協働課

男女家庭課

児童課

青少年課

青少年課

児童課

環境整備課

雇用就業課

雇用就業課

農村環境課

農村環境課

都市政策担当課長

復興企画課

復興企画課

生活復興課

生活復興課

生活復興支援室

人権教育課

警察本部

警察本部

各県民局

神戸県民局 企画県民部(健康福祉・環境担当参事)外

神戸県民局 企画県民部企画調整担当参事

神戸県民局 企画県民部県民生活担当参事

神戸県民局 地域振興部産業労働担当参事

神戸県民局 地域振興部産業労働担当参事

神戸県民局 企画県民部農林水産振興担当参事

神戸県民局 企画県民部企画調整担当参事

フォーラム“のびよう！のぼそう！ひょうごっ子”  
 里山林活用支援事業～住民による北摂山地の里山整備～  
 ため池活用事業  
 地域環境力の向上による廃棄物不適正処理未然防止対策の推進  
 いなみ野ため池ミュージアム創設プロジェクトの推進  
 阪神・淡路大震災10周年記念事業in東播磨の推進  
 東播磨新産業創出活性化事業  
 地域農産物等の加工品開発支援事業  
 農産物直売所における交流支援  
 北播磨アグリビジネスの支援  
 「JR播但線」列車通学生徒のマナーアップ運動の展開  
 NPO支援・地域ミニプラザ(NPO中間支援組織)協働運営システムの構築  
 いきいき元気高齢者活動支援事業  
 西はりま子育て環境基盤アップ事業  
 西播磨障害者セーフティネット事業(障害者の社会参加促進)  
 南但馬歴史・文化ミュージアム構想の推進  
 コウノトリと共生する地域づくりの推進  
 グリーンツーリズムの推進  
 但馬産ひょうご安心ブランド農産物の産地育成  
 但馬地域鉄道利用促進事業の推進  
 丹波の森づくりサポーター制度の創設  
 丹波食文化発信事業  
 丹波まちづくり支援事業  
 丹波の森フェスティバル事業  
 参画と協働による美しい淡路づくりの推進  
 あわじ菜の花エコプロジェクトの推進  
 淡路ため池保全隊の推進  
 淡路環境美化月間の推進  
 オープンガーデンの推進

阪神北泉民局 県民生活部県民担当参事  
 阪神北泉民局 地域振興部農林振興担当参事  
 阪神北泉民局 地域振興部農林振興担当参事  
 阪神北泉民局 県民生活部環境担当参事  
 東播磨泉民局 企画調整部水辺の地域づくり担当参事  
 東播磨泉民局 企画調整部企画調整担当参事  
 東播磨泉民局 地域振興部産業労働担当参事  
 東播磨泉民局 地域振興部農林水産担当参事  
 東播磨泉民局 地域振興部農林水産担当参事  
 北播磨泉民局 地域振興部農林振興担当参事  
 中播磨泉民局 県民生活部県民担当参事  
 中播磨泉民局 県民生活部県民担当参事  
 西播磨泉民局 県民生活部健康福祉担当参事  
 西播磨泉民局 県民生活部健康福祉担当参事  
 西播磨泉民局 県民生活部健康福祉担当参事  
 但馬泉民局 企画調整部企画調整担当参事  
 但馬泉民局 企画調整部コウノトリ翔る地域づくり担当参事  
 但馬泉民局 地域振興部豊岡農林水産振興事務所  
 但馬泉民局 地域振興部豊岡農林水産振興事務所  
 但馬泉民局 企画調整部コウノトリ翔る地域づくり担当参事  
 丹波泉民局 企画調整部丹波の魅力づくり担当参事  
 丹波泉民局 地域振興部農林振興担当参事  
 丹波泉民局 県土整備部まちづくり担当参事  
 丹波泉民局 県民生活部県民担当参事  
 淡路泉民局 県民生活部県民担当参事  
 淡路泉民局 県民生活部環境担当参事  
 淡路泉民局 地域振興部農地整備担当参事  
 淡路泉民局 県民生活部環境担当参事  
 淡路泉民局 県民生活部環境担当参事

**自治意識の高まりに基づく新たなしくみの検討等、県民の主体的な取り組みを支援します**

「生活復興県民ネット」の活動支援  
**地域づくり活動に関する情報の発信、交流の機会の充実等を通じて、兵庫県や地域に縁や関心がある多様な人・団体のネットワークづくりを支援します**  
 ひょうご交流社会創造ビジョンの推進  
 棚田交流人の育成  
 地域ビジョンサポートクラブの運営  
 北播磨交流の祭典の開催準備  
 兵庫・岡山県際交流の推進  
 兵庫・鳥取県際交流の推進(国道29号周辺地域の活性化)  
 出る杭大会・出た杭交流会の開催支援事業

生活復興支援室

地域担当課長  
 農村環境課  
 阪神北泉民局企画調整部企画調整担当参事  
 北播磨泉民局 企画調整部交流企画担当参事  
 西播磨泉民局 企画調整部企画調整担当参事  
 西播磨泉民局 地域振興部産業労働担当参事  
 西播磨泉民局 企画調整部企画調整担当参事

**活動を総合的に支える中間支援組織を支援します**

**多様な中間支援組織との情報共有のしくみづくり等を通じて、中間支援組織のさまざまな活動や機能充実を支援する**

ひょうごボランティアプラザの運営(再掲)  
 “こころ豊かな美しい兵庫”をめざす県民運動の推進(再掲)  
 地域づくり活動応援(パワーアップ)事業(再掲)  
 都市農村交流連携促進事業

参画協働課  
 参画協働課  
 参画協働課、各泉民局  
 総合農政担当課長

**各地域での総合的な支援拠点機能を充実します**

**生活創造センター構想の推進など、各地域(県民局単位)における総合的な生活創造支援拠点機能の充実を図ります**

地域生活創造情報プラザの設置・運営(北播磨生活創造情報プラザの設置)  
 東播磨生活創造センターの整備検討  
 県民交流広場事業(再掲)  
 ひょうごボランティアプラザの運営

生活創造課  
 生活創造課  
 生活創造課  
 参画協働課

**総合的な生活創造支援拠点機能の充実にあたり、県民の立場に立って取り組みます**

生活創造応援隊の設置

生活創造課

**県民が評価するしくみづくりに取り組みます**

**交流のきっかけづくりや評価の手がかりにできるような活動報告書の作成など、さまざまな仕組みづくりに取り組みます**

地域づくり活動登録推進事業(再掲)  
 地域づくり活動の事例集の作成(再掲)

参画協働課  
 参画協働課

**協働事業や活動団体への支援、寄付のための指標として活用できるとともに、活動団体が自己評価のためにも使える客観性のある評価のしくみを工夫します**

**県行政参画・協働推進計画**

**県民と情報を共有する**

**県民が主体的に選択できる情報を提供します**

県民が情報に基づき的確な判断ができるよう、わかりやすく、きめ細かな情報を提供します

- 印刷・電波・映像媒体・インターネットによる広報活動 広報課
- トップパブリシティの充実 広報課
- 広報戦略の推進体制づくり 広報課
- ひょうご水ビジョンの推進 ビジョン担当課長
- 情報公開制度の運用 県民情報室
- ひょうご「食」の安全・安心推進会議の創設 生活衛生課
- グリーンエネルギー普及促進 大気課
- 食品品質表示の啓発及び指導 消費流通担当課長
- ホームページを活用した県民への情報発信 警察本部
- 神戸県民局地域広報戦略の推進 神戸県民局 企画県民部さわやか県政担当参事
- 「石井ダム試験湛水記念・新湊川ウォーク」(仮称)の開催 神戸県民局 県土整備部土木担当参事
- みなと・海岸防災意識啓発の推進 阪神南県民局 県土整備部土木担当参事
- 南海地震対策の総合的推進(普及啓発事業の推進) 阪神南県民局 企画調整部市町・防災担当参事
- CATVを活用した県政情報番組「東播磨ハートランドだより」の放送 東播磨県民局企画調整部企画調整担当参事
- 郵便物に同封するPRチラシ「東播磨県民局だより」の発行 東播磨県民局企画調整部企画調整担当参事

インターネットを活用した情報交換など、ITを積極的に活用して双方向性のあるしくみをつくります

常に県民が方向性、妥当性を判断できるよう、政策形成や事業展開の過程を明らかにします

県民と政策目標を共有するとともに、県の行政施策の推進状況や成果等について、積極的に発表します

- 美しい兵庫指標の運用(再掲) ビジョン担当課長
- 政策評価の実施と評価結果の公表 財政課

**県行政の評価・検証への県民参画を進めます**

各種施策の効果の評価・検証手法を充実するとともに、参画と協働による事業・施策の実施状況について、事業等の内容に応じ、県民が評価するしくみづくりに取り組みます

- 美しい兵庫指標の運用(再掲) ビジョン担当課長
- 男女共同参画白書の作成 男女家庭課
- 政策評価の実施と評価結果の公表(再掲) 財政課
- ひょうごみどり白書の作成 総合農政担当課長
- 復興10年総括検証・提言事業 復興企画課
- 被災者復興支援会議の活動支援 生活復興課
- 環境会計の公表 企業庁総務課

行政の自己評価と各主体による外部評価の対比を通じて、多面的な視点からの行政運営の評価に取り組みます

- 男女共同参画社会づくり条例に基づく県民からの申出処理制度の運営 男女家庭課
- 外部監査人による監査 財政課
- 投資事業評価の実施と評価結果の公表 新行政担当課長
- 県立試験研究機関に係る研究評価の実施と評価結果の公表 科学振興担当課長

身近な課題や県の施策について、政策形成段階や事業実施段階において、モニターによる客観的な政策評価の実施を促進します

- 県民参画による広報の展開 広報課

## 県民と知恵を出し合う

### 県民提案の機会を充実します

県民との意見交換の機会を一層拡充するとともに、いつでもだれでもどこからでも県行政に提案・提言できる機会やしぐみを充実します

県民参画による広報の展開(再掲)

「さわやか提案箱」の実施

「さわやか対話室」の実施

「さわやか県民局」の実施

「さわやかフォーラム、さわやかトーク」の開催

少子・高齢社会ビジョン(仮称)の策定

“すこやかひょうご”子ども未来プランの改定

兵庫保健医療計画の改定

ユニバーサル社会構築推進事業(再掲)

ひょうご農林水産ビジョン2010のフォローアップ

丹波魅力づくり提案事業の公募実施

わかりやすい資料作成に努めるとともに、広報の一層の充実を図り、県民が意見・提案をしやすいようパブリック・コメント手続の的確な運用を進めます

県民意見提出手続(パブリック・コメント手続)の充実

政策形成の早い段階から県民とともに立案に取り組んだり、県民の提案、意見、選択を踏まえた取り組みを推進します

商店街活性化の先導的事業の導入促進

緑豊かなふるさとの川づくり指針の策定

「西播磨なぎさ回廊計画」の策定

諭鶴羽山系総合プランの策定事業

地域団体やNPO/NGO等との協働による政策形成手法への検討など、県民の施策への意見・提案を有効に活用するしぐみを充実します

NPOと行政の協働会議の開催

行政・NPO協働事業助成制度(再掲)

外国人県民共生会議の開催・外国人県民モニターの設置

広報課

広聴室、各県民局

広聴室

広聴室、各県民局

地域担当課長、各県民局

健康福祉政策担当課長

健康福祉政策担当課長

健康福祉政策担当課長

ユニバーサル社会担当課長

総合農政担当課長

丹波県民局 企画調整部魅力づくり担当参事

参画協働課

商業振興課

西播磨県民局 県土整備部土木担当参事

西播磨県民局 県土整備部土木担当参事

淡路県民局 地域振興部農林水産振興担当参事

参画協働課

参画協働課

国際政策課

### 審議会などへの県民の参画機会を拡げます

審議会など県行政の政策形成にかかる審議に、生活者の視点や専門的知識・技術を持った多様な世代の県民が委員等として直接参画する機会を充実します

附属機関等の委員の公募に関する指針の運用

ユニバーサル社会構築推進事業

経済再生加速プログラム(仮称)の策定

ひょうご農林水産ビジョン2010のフォローアップ(再掲)

河川整備基本方針・河川整備計画の策定

警察署協議会の運営

御前浜水環境の再生

県民モニター、アドバイザー、専門委員等さまざまな役割の導入を促進し、県民が政策形成やその推進に関わる機会を拡充します

県民参画による広報の展開(再掲)

大学生フォーラム2050の開催

学校評議員の設置運営

県民モニター「歴史楽者」100人制の導入

これらの運用にあたって、より多くの県民の参画を得られるよう、審議会等にかかる情報を一覽で掲示するなど広報を充実します

審議会等の公開促進

参画協働課

ユニバーサル社会担当課長

産業政策担当課長

総合農政担当課長

河川計画課

警察本部

阪神南県民局 県民生活部県民・環境担当参事

広報課

ビジョン担当課長

社会教育課

社会教育課

参画協働課

## 県民と力を合わせる

### 協働で実施する範囲や事業を拡充します

公共施設の運営や維持管理などについて、地域団体やNPO/NGO、企業などとの適切な連携のもと、アドプトシステムやサポーター制度など県民が利活用しやすい多様な方法を導入します

上山高原エコミュージアムの推進  
 自然活用型野外CSR事業(県立ふるさとの森公園)の推進  
 県民とのパートナーシップによる維持管理  
 コミュニケーション型県土づくり事業  
 「尼崎21世紀の森」の推進  
 人と防災未来センターの運営へのボランティアの参加及び防災ボランティアの育成  
 みんなで守り育てる神戸の森づくり・川づくり  
 県民の参画と協働による公園運営(舞子公園・有馬富士公園・一庫公園)  
 別府川再生プランの策定  
 「国見の森公園(仮称)」の整備(自然活用型野外CSR事業(宍粟地区)の整備)  
 「県民オアシス - しろう森林王国」の形成(しろう森林王国第2ステージ事業)  
 加古川の源流を活かした地域づくり  
 丹波並木道中央公園の整備推進  
 海岸漂着ごみクリーンアップ作戦の推進

多様な主体との共同開催など実施段階でのさまざまな形態の協働を積極的に推進し、県行政以外の主体が実施する取り組み等に県行政が参画・協働する形での取り組みも進めます

生涯学習支援ネットワーク推進事業(再掲)  
 ひょうごインターキャンパスの運営(再掲)  
 消費者による「食」の安全・安心チェック活動推進事業  
 「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の推進  
 地域ぐるみ安全対策事業  
 兵庫のまつり - ふれあいの祭典の開催  
 県立陶芸館(仮称)所蔵品展の開催  
 行政・NPO協働事業助成制度  
 災害救援専門ボランティア制度の推進  
 「のじぎく兵庫国体募金(愛称:はばたん募金)」の実施  
 県民運動推進大会の開催  
 のじぎく兵庫国体と「スポーツクラブ21ひょうご」との連携  
 「のじぎく兵庫国体スーパーアドバイザー」によるスーパー教室の実施  
 国体(本部・市町)推進員の拡充  
 健康ひょうご21大作戦の推進  
 ひょうご“食の健康”運動の推進  
 まちの保健室事業  
 健康コミュニティづくり推進事業  
 高校生ボランティア「献血啓発サポーター」事業  
 薬物乱用防止教室実施事業  
 薬物乱用防止街頭啓発事業  
 のじぎくパートナーの募集・養成  
 グリーン購入推進事業  
 資源節約運動推進事業  
 環境学習フォーラム実施事業  
 貴重な自然生態系保全・再生活動支援事業  
 障害者雇用・就業支援事業  
 兵庫しごとカレッジシステムの運営  
 民間国際交流団体等との連携強化  
 ホスピタリティ向上事業  
 産業ツーリズム推進事業  
 温泉を活用した地域魅力づくり推進事業  
 体験・交流型ツーリズムプログラム推進事業  
 ひょうごツーリズム協会活動支援事業  
 おいしいごはんを食べよう県民運動の推進  
 地産地消学校給食モデル事業  
 グリーンツーリズム資金の創設  
 道の樹広場整備事業  
 道路予定地緑化事業  
 まちの顔の川づくり  
 被災地修景緑化支援事業  
 全県花いっぱい運動の推進  
 明舞団地再生の推進  
 地域教育推進事業の実施  
 県民とともにつくる新しいひとはく展示の推進  
 P T C A活動支援事業の実施

自然環境保全課  
 労政福祉課  
 技術企画担当課長、道路保全課、河川整備課、港湾課、各県民局  
 技術企画担当課長、各県民局  
 21世紀の森担当課長、阪神南県民局  
 復興企画課  
 神戸県民局 企画県民部健康福祉・環境担当参事 外  
 神戸県民局・阪神北県民局 県土整備部土木担当参事  
 東播磨県民局 県土整備部土木担当参事  
 西播磨県民局 企画調整部地域づくり担当参事  
 西播磨県民局 企画調整部地域づくり担当参事  
 丹波県民局 県土整備部土木担当参事  
 丹波県民局 県土整備部土木担当参事  
 淡路県民局 県民生活部環境担当参事

生活創造課  
 生活創造課  
 消費生活室  
 交通安全課、各県民局  
 地域安全課  
 ふれあいの祭典室  
 芸術文化課  
 参画協働課  
 防災企画課  
 のじぎく国体局総務課、のじぎく大会課  
 のじぎく国体局総務課、のじぎく大会課  
 のじぎく国体局総務課  
 のじぎく国体局総務課  
 のじぎく国体局競技式典課  
 健康ひょうご推進担当課長  
 健康ひょうご推進担当課長  
 健康増進課  
 健康増進課  
 薬務課  
 薬務課  
 薬務課  
 のじぎく大会課  
 環境政策課  
 環境政策課  
 環境政策課  
 自然環境保全課  
 雇用就業課  
 能力開発課  
 国際政策課  
 観光交流課  
 観光交流課  
 観光交流課  
 観光交流課  
 観光交流課  
 総合農政担当課長  
 農業経営担当課長  
 農林経済課  
 道路建設課外、各県民局  
 街路課、各県民局  
 河川計画課、各県民局  
 都市政策担当課長、都市計画課  
 都市政策担当課長、各県民局  
 住宅宅地課、神戸県民局  
 教育委員会企画調整担当課長  
 社会教育課  
 社会教育課

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進  
「いきいき学校」応援事業の実施  
「土曜いきいき教室」の開催  
YU・らいふ・サポート事業の実施  
障害児の土曜日活動支援事業の実施  
兵庫県庁発祥地記念事業の調査検討  
イノシシ対策の充実・強化  
いきいきため池大作戦の展開  
「阪神南総合防災セミナー」等震災復興総合企画事業の実施  
「地域づくり診断」の実施等地域推進プログラムの推進とフォローアップ  
「若者との対話・交流会」の開催等次期地域ビジョン推進プログラムづくり  
阪神南100万人県民健康体操の推進  
子育てネットワーク活動支援事業  
「子どものために知ろう！」大人のインターネットリテラシー向上事業  
“スローライフ月間 in 宝塚”推進事業  
東播磨交通事故防止対策の総合的推進  
東播磨地域ひたくり等街頭犯罪の防止対策の推進  
加古川流域「森・川・海再生プラン」の推進  
北播磨おもてなしキャンペーンの展開  
食の健康チェック1万人大作戦の展開  
西播磨「水と緑の郷づくり」構想の推進  
魚つき魚道推進事業(揖保川水系)  
西播磨ツーリズム振興事業  
住民参加によるホテルを育む水辺の調査  
「但馬・いざないロード作戦」の推進  
たじまの森・川・海再生プランの推進  
クリーン但馬5万人大作戦の推進  
健康長寿たじまアクションプランの推進  
グリーンツーリズムの推進  
但馬産ひょうご安心ブランド農産物の産地育成  
但馬まるごと感動市の開催  
“交流人にぎわう 美しい但馬のみちづくり”の推進  
地域介護保険サービス「パワーアップ」事業  
加古川流域「森・川・海再生プラン」の推進  
JR福知山線の利用促進  
ふれあいと学びの森整備モデル事業  
「美しい丹波」花と緑の街道づくり  
「いきいき80」淡路健康づくり事業

義務教育課  
義務教育課  
義務教育課  
障害児教育室  
障害児教育室  
神戸県民局 企画県民部企画調整担当参事  
神戸県民局 地域振興部農林水産振興担当参事  
神戸県民局 地域振興部農地整備担当参事  
阪神南県民局 企画調整部市町・防災担当参事  
阪神南県民局 企画調整部企画調整担当参事  
阪神南県民局 企画調整部企画調整担当参事  
阪神南県民局 県民生活部健康福祉担当参事  
阪神南県民局 県民生活部県民・環境担当  
阪神南県民局 県民生活部県民・環境担当  
阪神北県民局 企画調整部企画調整担当参事  
東播磨県民局 県民生活部地域活動推進担当参事  
東播磨県民局 県民生活部地域活動推進担当参事  
東播磨県民局 県民生活部環境担当参事  
北播磨県民局 地域振興部産業労働担当参事  
中播磨県民局 県民生活部健康福祉担当参事  
西播磨県民局 地域振興部農林水産振興担当参事  
西播磨県民局 地域振興部農地整備担当参事  
西播磨県民局 地域振興部産業労働担当参事  
西播磨県民局 県民生活部環境担当参事  
但馬県民局 県土整備部企画調整担当参事  
但馬県民局 県民生活部環境創造担当参事  
但馬県民局 県民生活部環境創造担当参事  
但馬県民局 但馬長寿の郷・企画調整課  
但馬県民局 地域振興部農林水産振興担当参事  
但馬県民局 地域振興部農林水産振興担当参事  
但馬県民局 地域振興部農林水産振興担当参事  
但馬県民局 県土整備部企画調整担当参事  
丹波県民局 県民生活部環境担当参事  
丹波県民局 県民生活部環境担当参事  
丹波県民局 県土整備部土木担当参事  
丹波県民局 地域振興部農林振興担当参事  
丹波県民局 県土整備部土木担当参事  
淡路県民局 県民生活部健康福祉担当参事

**協働先の選定について、適切な選定基準を明確にするなど透明性を確保します**

**多様な委託のしくみづくりを推進します**

サービスの質と費用の両面を総合的に判断して、県民への行政サービスを効果的・効率的に提供できる事業について、民間事業者やNPO/NGO、地域団体等への外部委託を推進します

生活復興のためのNPO活動支援事業(再掲)  
NPOとの協働による地域課題解決に向けた取り組み

生活復興課  
中播磨県民局 企画調整部企画調整担当参事

多様な地域課題に柔軟に対応するため、企画を含めた新たな事業委託手法も対象に、NPO/NGOや地域団体への外部委託の基準を定める指針づくりに取り組む

団体・NPO等へのアウトソーシングシステム構築事業(再掲)

参画協働課

**推進員らの職務の円滑化を進めます**

県行政と協働し取り組む推進員らが円滑に活動できるよう、積極的に必要な情報を提供するとともに、他の推進員とのネットワーク化を推進します

生活情報活動アドバイザー等の設置  
くらしのクリエイター活動支援事業  
薬物乱用防止推進員の設置  
民生・児童協力委員の設置  
地域教育推進事業の実施(再掲)

生活創造課  
消費生活室  
薬務課  
社会福祉課  
教育委員会企画調整担当課長

地域づくり活動サポーター(応援隊)など、新たな推進員の設置や見直しに取り組みとともに、活動の質を高めるために必要な知識・技能の習得機会を拡充します

地域づくり活動サポーター(応援隊)の設置(再掲)  
薬物乱用防止指導員拡充事業

参画協働課  
薬務課

**参画と協働の推進に向けて**

**参画と協働を総合的に推進します**

各地域で展開される多様な地域づくり活動を支援する県行政の核として、十分な機能を果たせるよう現地解決型機能の一層の充実に取り組みます

- 地域夢会議の開催
- 地域ビジョン委員会の設置・運営
- 県民行動プログラムに基づく活動の促進
- 「地域づくり診断」の実施等地域推進プログラムの推進とフォローアップ(再掲)
- 「若者との対話・交流会」の開催等次期地域ビジョン推進プログラムづくり(再掲)
- 大学と連携した地域ビジョン懇談会(仮称)の開催(再掲)

- ビジョン担当課長、各県民局
- ビジョン担当課長、各県民局
- ビジョン担当課長、各県民局
- 阪神南県民局 企画調整部企画調整担当参事
- 阪神南県民局 企画調整部企画調整担当参事
- 阪神北県民局 企画調整部企画調整担当参事

県民局においては、市町との緊密な連携・協調を図りながら、地域特性を生かして具体的な施策・特性を展開し、本庁は全県的視点から共通事項の調整、情報の共有・提供等を行い、県民局の特色ある取り組みを支えます

- 主な事業・施策の重点的広報
- 広報戦略の推進体制づくり(再掲)
- 長期ビジョン推進委員会の設置・運営
- 大学生フォーラム2050の開催(再掲)
- 県民の参画と協働の推進に関する条例の推進
- 県民ボランティア活動実態調査

- 広報課
- 広報課
- ビジョン担当課長
- ビジョン担当課長
- 参画協働課
- 参画協働課

県民の主体的な活動にかかる支援先を紹介する総合窓口機能を充実するなど、わかりやすい県行政のしくみづくりに取り組みます

- 地域づくり活動サポーター(応援隊)の設置(再掲)

- 参画協働課

**職員意識を醸成します**

県職員一人ひとりが生活者としての視点をもった広報・広聴の意識・姿勢を向上する

- 職員に対する広報・広聴研修の充実

- 広報課・広聴室

地域づくり活動に取り組むNPO/NGO、団体、企業での現場研修や人材交流を実施するなど、県職員が参画・協働の推進役としての見識と資質を高める研修機会を一層充実します

- 県職員NPOトライやる事業
- いきいきさわやか県庁運動の推進
- わくわくワークショップ研修の実施
- NPO・行政交流会

- 参画協働課
- 企画管理部総務課
- 人事課
- 阪神北県民局 県民生活部県民担当参事

県職員がそれぞれの居住地域等でさまざまな地域づくり活動に積極的にかかわるなど、県民との参画と協働の実践活動の展開を通じて、県民とともに歩む県政を推進します

- 男女共同参画兵庫県率先行動計画の推進

- 男女家庭課